

令和7年度

(2025年度)

植物防疫事業成績書

(年報)

令和8年3月

大分県農林水産研究指導センター

農業研究部

はじめに

大分県における病害虫発生予察業務は、平成 22 年度の組織改正以降、農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームを中心に、葉根菜類・茶業チーム、果樹グループ及び花きグループと共同で実施しています。主要業務として、病害虫発生予察情報の発表、重要病害虫侵入警戒調査の実施及び病害虫診断業務等を行い、各種の情報や調査データを「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」とともに、随時ホームページにて公表しております。

昨年の梅雨入りは平年よりも 19 日早い 5 月 16 日、梅雨明けは 22 日早い 6 月 27 日となりました。そのため、同時期の降水量は平年比 68%と平年よりも少なく推移したものの、イネ紋枯病及びピーマン斑点病発生の前進化に繋がりました。一方、越冬虫の増加や、夏秋期の高温乾燥により、トマトキバガ、斑点米カメムシ類及びアザミウマ類等が、秋期の高温乾燥によりイチゴハダニ類及びうどんこ病がそれぞれ多く発生しました。

このため、トマトキバガについて、7 月 4 日及び 9 月 5 日に 2 回注意報を發出して啓発を行いました。また、ピーマン斑点病、斑点米カメムシ類及びアザミウマ類を対象に注意報を、他の病害虫についても技術情報を發出し、注意を促しました。さらに、微小害虫やウイルス病対策のため、JPP-NET 病害虫発生予測データベース（日本植物防疫協会）によるトビイロウンカの防除適期予測や、薬剤感受性検定に基づいた防除指導に加え、雑草管理及び残渣処理等による耕種的防除や、天敵及び防虫ネットの利用等、防除だけでなく予防や発生予察にも重点を置いた総合防除（IPM）による指導を、関係機関との連携により進めてまいりました。

その結果、水稻は、一部地域で斑点米カメムシ類による品質低下が見られたものの、穂いもちやトビイロウンカ等の発生が少なく、作況単収指数も基準値を上回る 107 と良好な生育となりました。また、園芸品目では、サツマイモ基腐病及びミカンコミバエについて、九州唯一の未発生県を維持するとともに、ピーマン黄化えそ病については、前年と比べて発生株数がやや上回ったものの、発生戸数が前年比 56%と減少するなど、現地での適切な防除対策が実を結びつつあります。反面、農薬に対する耐性や抵抗性の発達した病害虫の蔓延やトマトキバガによる果実被害に加え、ナシ火傷病の中国での発生や南西諸島におけるセグロウリミバエの分布域拡大により、国内及び県内への侵入が懸念されるなど、難防除病害虫の防除対策は道半ばであります。以上の状況から、生産現場との防除意識の共有を図りつつ、発生情報の把握や伝達方法の改善など、防除指導体制の一層の強化を進めてまいります。

近年の地球温暖化等に端を発した気象変動や国際的な人流及び物流の増加に伴い、病害虫の発生動向も変容しており、国は令和 3 年 7 月に、2050 年までに化学農薬の使用量 50%低減等を目標とする「環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律（みどりの食料システム法）」を施行しました。また、県では令和 6 年 9 月に、自ら考え・動き・皆で実現する元気な農林水産業を基本目標に、「新たな大分県農林水産業振興計画」を策定するとともに、令和 5 年 4 月における「植物防疫法」改正に伴い、同 6 年 3 月に「大分県病害虫総合防除計画」を施行しました。

このような情勢を踏まえ、今後も、化学農薬への過度な依存を伴わない総合防除体系を、園芸品目を中心に確立・推進してまいります。また、防除暦を始めとする従来の統一的な防除対策に加え、生産者自らが、それぞれの産地や圃場における栽培環境や微気象に応じて防除時期や手段を設計できるカスタムメイド型の防除対策への転換に向けて、発生予察の改善や防除判断基準の構築を図るとともに、少子高齢化に伴う慢性的な担い手不足に対応するため、スマート農業技術を活用した防除手段の省力化を進めることで、県農業の再生や農作物の安定供給に寄与したいと考えております。

ここに、関係機関、団体およびフェロモントラップ調査員各位のご協力を得て、令和 7 年度に実施した植物防疫事業の実績を取りまとめましたので、ご活用頂ければ幸いです。

令和 8 年 3 月
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部長 稲垣 智之

目 次

I 組織

1 職員の配置と活動状況

(1) 職員の状況	1
(2) 活動状況	1
(3) 重点指導事項	1
(4) 病虫害発生予察調査員	2

II 管轄区域

1 管轄市町村	3
2 管轄市町村位置図	3
3 対象耕地面積	4

III 事業実施概要

1 実施状況	5
2 病虫害発生予察事業	
(1) 発生を認めた病虫害	7
(2) 新たに発生が認められた病虫害等	10
(3) 病虫害診断依頼結果	10
(4) 農作物有害動植物に対する薬剤感受性検定実施状況	11
(5) 発生予察情報	12
(6) 防除対策推進上の問題点及びその対策	29
(7) 主要作物の生育概況	31
(8) 普通作物病虫害の発生及び防除状況	33
(9) 果樹・茶病虫害の発生及び防除状況	40
(10) 野菜病虫害の発生及び防除状況	42
(11) 予察圃場等に関する調査	44
3 侵入調査事業	62

IV 参考資料

1 令和7年気象概況

(1) 月別気象概況（大分地方気象台観測）	67
(2) 大分地方気象台における気象表	69
(3) 農業研究部における半旬別気象表	70

2 大分県における令和6年産主要作物の栽培面積

	72
--	----

I 組 織

1 職員の配置と活動状況

(1) 職員の状況

職 名	氏 名	担当部門等	摘要
農業研究部 部長	稲垣 智之	病虫害防除所長	兼務
病虫害対策チーム 専門研究員 (TL)	山崎 修一	病虫害総括	兼務
主任研究員	岡本 潤	普通作・野菜	兼務
研究員	平木 薫	虫害・野菜	兼務
研究員	田中 志穂実	虫害・野菜	兼務
研究員	津田 裕樹	虫害・野菜	兼務
研究員	下見 悠輔	病害・野菜・果樹	兼務
研究員	石本 侑梨	病害・野菜	兼務
研究員	岩本 知子	普通作・野菜	兼務
業務技師	小田 宏幸	普通作・野菜	兼務
葉根菜類・茶業チーム 主任研究員	廣末 徹	茶	兼務
果樹グループ 温州ミカンチーム 研究員	永松 麻友香	常緑果樹	兼務
カボス・中晩柑チーム 研究員	古賀 礼子	常緑果樹	兼務
再雇用非常勤	檜原 稔	常緑果樹	兼務
落葉果樹チーム 主任研究員	野村 雄太	落葉果樹	兼務
花きグループ 花きチーム 主幹研究員 (TL)	米田 恵美	花き	兼務
研究員	山崎 香織	花き	兼務
研究員	森竹 皓平	花き	兼務

(2) 活動状況 (病虫害対策チーム)

植物 検疫	防除 企画	防除指導 及び協力	発生 予察	侵入 調査	その他防除 関係事項※	計	備考
人日	人日	人日	人日	人日	人日	人日	
100	100	200	600	150	1,350	2,500	※病虫害防除対策 にかかる試験研究 用務、農薬登録に かかる薬効薬害試 験用務等
%	%	%	%	%	%	%	
4.0	4.0	8.0	24.0	6.0	54.0	100	

(3) 重点指導事項

- ア 病虫害発生予察事業の充実と情報伝達の迅速化、多様化
- イ 適期防除の推進及び農薬適正使用の徹底
- ウ 新規病虫害、侵入警戒有害動植物及び検疫有害動植物を含む重要病虫害防除の徹底
- エ 改正植物防疫法に基づく総合防除の推進
- オ みどりの食料システム法に基づく環境と調和のとれた食料システムの推進

(4) 病害虫発生予察調査員

各地のフェロモントラップの誘殺状況については「大分県病害虫発生予察調査業務」として業務委託契約を締結した。契約期間は令和7年4月1日から11月28日までとし、5日毎の誘殺状況について10日に1回報告を受けた。

ア 振興局別配置状況 (20名)

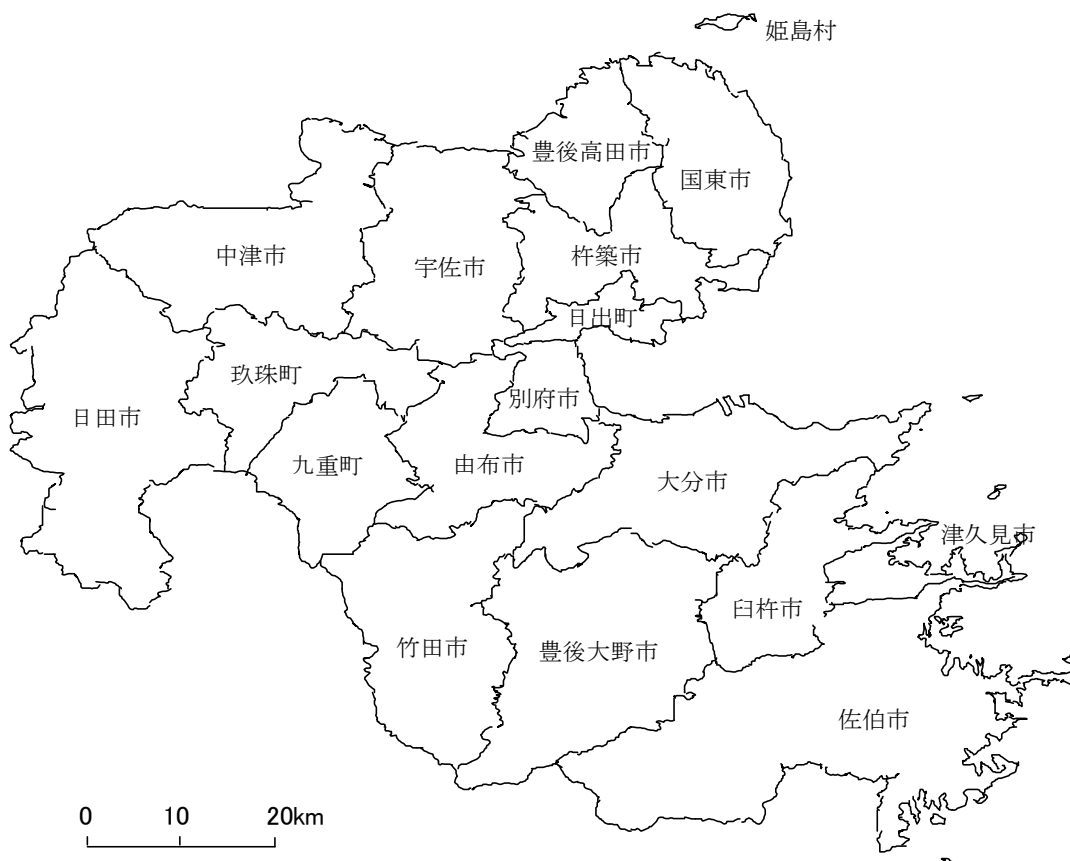
振興局名	市町村名	氏名	担当作物	対象害虫
東 部	国 東 市	大塚 正征	果樹(カンキツ)	果樹カメムシ類
	国 東 市	伊東 理	野菜(イチゴ)	ハスモンヨトウ
	日 出 町	鈴木 利治	果樹(ナシ)	果樹カメムシ類
	杵 築 市	(株) カヤノ農産	特用作物(茶)	チャノホソガ
中 部	由 布 市	土師 則昭	果樹(ナシ)	シンクイムシ類
	臼 杵 市	染矢 健一	野菜(ピーマン)	タバコガ類
	由 布 市	(農) なかえ	普通作(ダイズ)	ハスモンヨトウ
南 部	佐 伯 市	井上 真二	花き(キク)	ハスモンヨトウ
	佐 伯 市	永田 祐介	果樹(カンキツ)	果樹カメムシ類
豊 肥	豊後大野市	福井 敏之	野菜(ピーマン)	タバコガ類
西 部	九 重 町	井上 徹	果樹(カンキツ)	果樹カメムシ類
	日 田 市	(農)大肥郷ふるさと	普通作(ダイズ)	ハスモンヨトウ
	日 田 市	穴井 睦治	果樹(ナシ)	シンクイムシ類
北 部	豊後高田市	藤本 弘治	普通作(ダイズ)	ハスモンヨトウ
	豊後高田市	沖本 康輔	野菜(ネギ)	シロイチモジヨトウ
	中 津 市	松田 秀治	普通作(ダイズ)	ハスモンヨトウ
	中 津 市	松枝 茂	果樹(ナシ)	果樹カメムシ類
	宇 佐 市	首藤 敦彦	野菜(イチゴ)	ハスモンヨトウ
	宇 佐 市	井上 敏宏	果樹(カンキツ)	果樹カメムシ類
	宇 佐 市	藤原 和巳	野菜(ネギ)	シロイチモジヨトウ

II 管轄区域

1 管轄市町村

振興局名	市町村数	市 町 村 名
東 部	5	別府市、杵築市、国東市、日出町、姫島村
中 部	4	大分市、臼杵市、津久見市、由布市
南 部	1	佐伯市
豊 肥	2	竹田市、豊後大野市
西 部	3	日田市、九重町、玖珠町
北 部	3	中津市、豊後高田市、宇佐市
計	18	

2 管轄市町村位置図



3 対象耕地面積(令和6年度)

単位：ha

振興局名	区分	田	畑	計
	市町村名			
東 部	別 府 市	266	73	339
	杵 築 市	2,470	903	3,380
	国 東 市	2,800	823	3,620
	日 出 町	432	279	711
	姫 島 村	6	26	32
	計	5,974	2,104	8,082
中 部	大 分 市	2,640	1,010	3,640
	白 杵 市	1,150	1,180	2,330
	津久見市	0	284	284
	由 布 市	2,470	683	3,150
	計	6,260	3,157	9,404
南 部	佐 伯 市	1,330	524	1,860
	計	1,330	524	1,860
豊 肥	豊後大野市	4,060	1,990	6,040
	竹 田 市	4,370	2,090	6,460
	計	8,430	4,080	14,360
西 部	日 田 市	1,740	1,520	3,260
	九 重 町	1,270	713	1,990
	玖 珠 町	1,510	535	2,040
	計	4,520	2,768	7,290
北 部	中 津 市	2,960	811	3,770
	豊後高田市	1,780	1,220	3,000
	宇 佐 市	6,780	1,120	7,890
	計	11,520	3,151	14,660
県	計	38,034	15,784	53,796

注) ラウンドのため計と内訳は一致しない場合がある。

(出典：令和6年度農林水産省作物統計(市町村別データ))

III 事業実施概要

1 実施状況

病害虫の発生予察は、植物防疫事業実施要綱に基づき、病害虫、環境条件及び農作物の体質等に関する調査結果、並びに気象予報及び作物の生産予想等の情報に基づいて行なった。

病害虫の発生調査は、定点及び巡回による調査を普通作物、野菜類、果樹及び茶樹について実施した。定点における調査は、県予察圃場、予察灯及びフェロモントラップ等によって行なった。また、巡回による調査は毎月中旬に1回実施するとともに、水稻では8月上旬に追加調査を行なった。調査対象病害虫は、指定有害動植物を中心に大分県で重要な病害虫とした。

侵入調査事業にかかる各種トラップ調査、圃場調査及び情報収集を実施した。

令和2年度から病害虫防除員を廃止して「病害虫発生予察調査業務」の受託者を公募し、フェロモントラップの誘殺データ収集を行なった。

各種調査結果に基づき、発生予察情報（発生予報、警報、注意報、特殊報及び病害虫防除技術情報）を発表し、県ホームページに各種情報を掲載した。特に、注意報等の重要な情報は、マスコミを通じて広く周知を図った。

「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」にかかる対象病害虫の発生生態及び防除対策について、大分県総合防除計画に準じて公表した。

なお、発生予察調査に基づく病害虫発生現況については、農林水産省あてに発生予察集計プログラムを用いて報告し、併せて（一社）日本植物防疫協会が運用している「植物防疫情報総合ネットワーク（JPP-NET）」に加入し、関係機関に情報を提供した。加えて、令和元年度より2年間におけるトビイロウンカによる甚大な被害を受け、令和3年度より、JPP-NET 病害虫発生予測データベース及びアメダスデータに基づいた防除適期予測を実施している。

農林水産研究指導センター 農業研究部 病害虫対策チーム ホームページ

アドレス <https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>

大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針

普通作、果樹類、茶

アドレス <https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/list22117-27969.html>

野菜類、花き類

アドレス <https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/list22117-28115.html>

(1) 県予察圃場及び予察灯

ア 県予察圃場

設置場所：豊後大野市三重町赤嶺 2 3 2 8 - 8

対象作物：水稻、麦類、大豆

イ 予察灯

設置場所：豊後大野市三重町赤嶺 2 3 2 8 - 8

対象害虫：セジロウンカ、トビイロウンカ、ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ

光源：60W 白熱灯

(2) 巡回調査の地点数及び圃場数

区分 振興局名	水稻		早期水稻		麦類		大豆		果樹・茶		野菜		計	
	地点	圃場	地点	圃場	地点	圃場	地点	圃場	地点	圃場	地点	圃場	地点	圃場
東 部	3	6	2	4	3	3	1	1	6	6	2	2	17	22
中 部	3	6			2	2			10	10	7	7	22	25
南 部	1	2	2	4					2	2	2	2	7	10
豊 肥	5	10			2	2	2	2	4	4	16	16	29	34
西 部	3	6							8	8	8	8	19	22
北 部	5	10	1	2	15	16	6	7	10	10	10	10	47	55
県 計	20	40	5	10	22	23	9	10	40	40	45	45	141	168

(3) 調査対象病害虫
ア 指定病害虫

区 分	対象作物名	病 害 虫 名
普通作物	水 稲	いもち病、紋枯病、ばか苗病、稲こうじ病、もみ枯細菌病、縞葉枯病、ごま葉枯病、白葉枯病、ツマグロヨコバイ、セジロウンカ、トビイロウンカ、ヒメトビウンカ、斑点米カメムシ類(ミナミアオカメムシ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ類、アカスジカスミカメ)、ニカメイガ、コブノメイガ、フタオビコヤガ、イネミズゾウムシ
	麦 類 大 豆	うどんこ病、赤かび病、さび病類(赤さび病、黄さび病、小さび病) 紫斑病、アブラムシ類(ダイズアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ、ワタアブラムシ)、吸実性カメムシ類(ホソヘリカメムシ、アオクサカメムシ、ミナミアオカメムシ、イチモンジカメムシ)、ハスモンヨトウ、フタスジヒメハムシ、マメシンクイガ
果樹類・茶	かんきつ	そうか病、黒点病、かいよう病、ハダニ類(ミカンハダニ)、アブラムシ類(ミカンクロアブラムシ、ワタアブラムシ、ユキヤナギアブラムシ)、果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)、黒星病、赤星病、ハダニ類(ミカンハダニ、ナミハダニ、カンザワハダニ)、アブラムシ類(ナシアブラムシ、ナシミドリオオアブラムシ、ワタアブラムシ)、果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)、シンクイムシ類(ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ)、ハマキムシ類(チャノコカクモンハマキ、チャハマキ)、カイガラムシ類(ナシマルカイガラムシ)
	な し	
	ぶ ど う 茶	べと病、灰色かび病、晩腐病、アザミウマ類(チャノキイロアザミウマ)炭疽病、ハダニ類(カンザワハダニ)、ハマキムシ類(チャノコカクモンハマキ、チャハマキ)、チャノホソガ、アザミウマ類(チャノキイロアザミウマ)、カイガラムシ類、チャトゲコナジラミ、チャノミドリヒメヨコバイ
野菜類	ト マ ト	疫病、灰色かび病、葉かび病、すすかび病、うどんこ病、黄化葉巻病、アザミウマ類(ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ)、アブラムシ類(ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ)、コナジラミ類(オンシツコナジラミ、タバココナジラミ)、オオタバコガ、ハスモンヨトウ
	ピーマン	うどんこ病、アブラムシ類(ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ)、オオタバコガ、ハスモンヨトウ
	ね ぎ	さび病、べと病、黒斑病、アブラムシ類(ネギアブラムシ)、アザミウマ類(ネギアザミウマ)、ネギコガ、ネギハモグリバエ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ
	い ち ご	灰色かび病、うどんこ病、炭疽病、アブラムシ類(ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ)、アザミウマ類(ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ)、ハダニ類(ナミハダニ、カンザワハダニ)、ハスモンヨトウ、コナジラミ類(オンシツコナジラミ、タバココナジラミ)

(4) 発生予察情報の種類

発生予報：病害虫の発生予想を定期的に発表するものであり、「病害虫発生予察情報」として月に1回発表する。

警 報：重要な病害虫が大発生することが予想され、かつ早急に防除措置を講ずる必要が認められる場合に発表する。

注 意 報：警報を発表するほどではないが、重要な病害虫が多発することが予想され、かつ早目に防除措置を講ずる必要が認められる場合に発表する。

特 殊 報：新規に病害虫を発見した場合及び重要な病害虫の発消長に特異な現象が認められた場合に発表する。

病害虫防除技術情報：植物防疫事業実施要領に定められていない県独自の情報で、注意すべき病害虫の発生が見られる場合や作物栽培上重要となる防除対策を啓発する場合などに発表する。

(5) 侵入調査事業

侵入警戒有害動植物のうち25種についてトラップ調査、圃場調査及び情報収集を実施した。

2 病害虫発生予察事業

(1) 発生を認めた病害虫

作 目 名		病 害 虫 名
普 通 作	水 稲	<p>〈育苗期〉</p> <p>(病害) もみ枯細菌病、苗立枯病、苗いもち、ばか苗病</p> <p>(害虫) ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ、イネミズゾウムシ</p> <p>〈本田〉</p> <p>(病害) 縞葉枯病、萎縮病、白葉枯病、もみ枯細菌病、内穎褐変病、いもち病(葉いもち、穂いもち)、紋枯病、ばか苗病、ごま葉枯病、稲こうじ病、心枯線虫病</p> <p>(害虫) セジロウンカ、トビイロウンカ、ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ、斑点米カメムシ類(イネカメムシ含む)イネクロカメムシ、イネゾウムシ イネドロオイムシ(イネクビホソハムシ) イネミズゾウムシ、イネツトムシ(イチモンジセセリ) コブノメイガ、イネアオムシ(フタオビコヤガ)、イナゴ類 スクミリンゴガイ、ニカメイガ</p>
	麦 類	<p>(病害)</p> <p>小麦 縞萎縮病、赤かび病、赤さび病、黄さび病、裸黒穂病、黄斑病、うどんこ病</p> <p>大麦 縞萎縮病、黒節病、小さび病、うどんこ病、赤かび病、斑葉病、裸黒穂病、網斑病</p> <p>(害虫) アブラムシ類、ハモグリバエ類</p>
	大 豆	<p>(病害) モザイク病、紫斑病、べと病、さび病、炭疽病、葉焼病</p> <p>(害虫) ハダニ類、アブラムシ類、カメムシ類、コガネムシ類 フタスジヒメハムシ、ウコンノメイガ、ミツモンキンウワバ ハスモンヨトウ、オオタバコガ、ダイズサヤタマバエ ネキリムシ類、シロイチモジマダラメイガ マメシンクイガ、ハモグリガ類</p>

作 目 名		病 害 虫 名
果 樹 類	かんきつ類	(病害) そうか病、黒点病、小黒点病、かいよう病、緑かび病、青かび病、 灰色かび病、炭疽病、褐色腐敗病 (害虫) ミカンハダニ、ミカンサビダニ、チャノホコリダニ、カンザワハダニ、ミ カンハモグリガ、ゴマダラカミキリ、ミカンバエ、アザミウマ類、アブラ ムシ類、カイガラムシ類、吸蛾類、果樹カメムシ類、アゲハ類、ヨコバイ 類、ハマキムシ類、ケシキスイ類、コアオハナムグリ、クワゴマダラヒト リ、ミカンナガタムシ、カネタタキ、アオバハゴロモ、チュウゴクアミ ガサハゴロモ、クワノミハムシ、ナメクジ類、カタツムリ類、ヒゲナガゾ ウムシ
	なし	(病害) 黒斑病、黒星病、赤星病、輪紋病、うどんこ病、炭疽病、胴枯病 (害虫) ナシヒメシンクイ、ハマキムシ類、ハダニ類、ニセナシサビダニ、 カイガラムシ類、果樹カメムシ類、ナシチビガ、アブラムシ類、吸蛾類
	ぶどう	(病害) 晩腐病、さび病、褐斑病、黒とう病、べと病、灰色かび病、うど んこ病、枝膨病 (害虫) ハダニ類、サビダニ類、ハマキムシ類、ブドウトラカミキリ、フタテンヒ メヨコバイ、アザミウマ類、コガネムシ類、吸蛾類、カイガラムシ類、 ブドウスカシバ、クビアカスカシバ、コウモリガ、ブドウトリバ、 サルハムシ類
茶	茶	(病害) 炭疽病、輪斑病、新梢枯死症 (害虫) チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、チャノホソガ、 カンザワハダニ、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、 クワシロカイガラムシ、カメムシ類、チャトゲコナジラミ、マダラカサ ハラハムシ、チャノナガサビダニ、アオバハゴロモ、コミカンアブラムシ
野 菜 類	トマト	(病害) モザイク病、黄化葉巻病、黄化萎縮病、黄化病、青枯病、 かいよう病、斑点細菌病、茎えそ細菌病、軟腐病、萎凋病、 疫病、菌核病、うどんこ病、灰色かび病、葉かび病、斑点病、 輪紋病、根腐萎凋病、褐色輪紋病、すすかび病、褐色根腐病 黒点根腐病、フザリウム株腐病 (害虫) ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ、 オンシツコナジラミ、タバココナジラミ、ヒラズハナアザミウマ、オオタ バコガ、ハスモンヨトウ、トマトキバガ、マメハモグリバエ、トマトハモ グリバエ、ハモグリバエ類、トマトサビダニ、ネグサレセンチュウ、ネコ ブセンチュウ、クロテンコナカイガラムシ

作 目 名		病 害 虫 名
野 菜 類	ピーマン (夏秋)	(病害) モザイク病、黄化えそ病、えそ輪点病、青枯病、軟腐病、 斑点細菌病、うどんこ病、疫病、菌核病、白絹病、灰色かび病、 斑点病、黒枯病、立枯病、炭疽病、萎凋病 (害虫) ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブ ラムシ、アブラムシ類、カンザワハダニ、ナミハダニ、チャノホ コリダニ、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、 ヒラズハナアザミウマ、タバコガ、オオタバコガ、ハスモンヨト ウ、イラクサギンウワバ、チャハマキ、アズキノメイガ、クロモ ンキノメイガ、オンシツコナジラミ、タバココナジラミ、ホオズ キカメムシ、チャバネアオカメムシ、カメムシ類、コガネムシ 類、ナメクジ類
	いちご	(病害) 萎黄病、うどんこ病、菌核病、じゃのめ病、炭疽病、灰色かび病 輪斑病、芽枯病、疫病、根腐病、黒色根腐病 (害虫) ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ、コガネムシ類、 チャノホコリダニ、イチゴハムシ、ヒラズハナアザミウマ、 チャノキイロアザミウマ、カンザワハダニ、ナミハダニ、 ヨトウガ、ハスモンヨトウ、オンシツコナジラミ、 タバココナジラミ、イチゴメセンチュウ、 クルミネグサレセンチュウ、チビクロバネキノコバエ ヨコバイ類、コナジラミ類、アザミウマ類
	ね ぎ (夏) (秋) (冬)	(病害) 軟腐病、黒斑病、さび病、白色疫病、ボトリチス葉枯症、疫病、 べと病、白斑葉枯病、苗立枯病、根腐病、白絹病、黄斑病、 紅色根腐病、萎凋病、黒腐菌核病、褐色腐敗病、葉枯病 (害虫) ネギアブラムシ、シロイチモジヨトウ、ネギハモグリバエ、 ネギアザミウマ、ネギコガ、ヨトウガ、ハスモンヨトウ、 ロビンネダニ、ネダニモドキ属の一種

(2) 新たに発生が認められた病害虫等

作物名	病害虫名	発生面積	初確認時期	発生傾向、被害の概要等
カンキツ (温州みかん、ポンカン)	チュウゴクアミガサハゴロモ	10a	令和7年 9月17日	県南部のカンキツ園において、成虫および枝への産卵を確認した。農林水産省門司植物防疫所に同定依頼した結果、県内初確認のチュウゴクアミガサハゴロモ (<i>Ricania shantungensis</i> (Chou & Lu, 1977)) と同定された。

(3) 病害虫診断依頼結果

作目		診断依頼件数	原因別診断依頼件数						
			ウイルス	細菌	糸状菌	線虫	害虫	生理障害等	原因不明
普通作物	水稲	7	0	2	1	0	0	1	3
	小麦	0	0	0	0	0	0	0	0
	大麦	0	0	0	0	0	0	0	0
	大豆	2	0	0	1	0	0	1	0
	他	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	9	0	2	2	0	0	2	3
野菜類	イチゴ	10	0	0	5	0	0	1	5
	トマト	4	0	0	3	0	0	0	1
	ミニトマト	4	2	0	1	0	0	1	0
	ネギ	11	0	2	7	0	0	0	1
	(白ネギ)	10	0	2	6	0	0	0	2
	(小ネギ)	1	0	0	1	0	0	0	0
	ピーマン	10	0	3	4	0	1	1	1
	ニラ	3	0	0	1	0	0	0	2
	他	11	0	0	2	1	0	1	7
	小計	52	2	7	26	1	1	4	18
その他	2	0	0	1	0	0	1	0	
合計	63	2	9	29	1	1	7	21	

注) 1件で2つ以上原因のある依頼が存在するため、診断依頼件数と原因別診断件数の合計は一致しない。

表2 月別診断依頼件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
診断件数	2	4	0	4	10	10	12	7	7	5	0	2	63

(4) 農作物有害動植物に対する薬剤感受性検定実施状況

作物名	病害虫名	薬剤名	検定結果	検定方法	防除効果	指導状況	備考
ピーマン	ヒラズハナアザミウマ	ジノテフラン水溶剤	(補正死虫率) 個体群a: 43.3% 個体群b: 64.9%	<p>臼杵市野津町(個体群a)および豊後大野市三重町(個体群b)の現地圃場から採取した計2個体群で感受性検定を行った。</p> <p>供試薬剤を常用濃度に希釈した薬液に正方形(1辺10mm)に切ったインゲンマメ葉片を30秒間浸漬し、風乾した。小型の円筒形ガラスカップ(胴外径30mm、全長45mm)に希釈した薬剤を入れた後に除去し、風乾した。薬液には展着剤として、ポリエチレングリコールオクチルフェニルエーテル(製品名:トリトンX-100)2,000倍を加用した。ガラスカップに長方形(長辺30mm、短辺10mm)に切り取ったろ紙、風乾したインゲンマメ葉片、供試成虫を入れ、薄膜フィルムで密封した後、25°C16L8D条件下に静置した。48時間後(遅効性の薬剤は72時間後)に生死の判定を行い、補正死虫率を算出した。試験は1試験区10頭を3反復行った。</p> <p><農薬の濃度> 各薬剤は登録範囲の最高濃度で希釈を行った。</p>	抵抗性が出現している薬剤を使用している圃場では、防除効果が得られていない。	<ul style="list-style-type: none"> 検定結果の周知 防除暦への反映 	
ピーマン	ヒラズハナアザミウマ	スルホキサフロル水和剤	(補正死虫率) 個体群a: 60.7% 個体群b: 23.5%				
ピーマン	ヒラズハナアザミウマ	スピノサド水和剤	(補正死虫率) 個体群a: 24.8% 個体群b: 61.6%				
ピーマン	ヒラズハナアザミウマ	スピネトラム水和剤	(補正死虫率) 個体群a: 70.4% 個体群b: 92.9%				
ピーマン	ヒラズハナアザミウマ	エマメクチン安息香酸塩乳剤	(補正死虫率) 個体群a: 16.7% 個体群b: 7.0%				
ピーマン	ヒラズハナアザミウマ	クロルフェナピル水和剤	(補正死虫率) 個体群a: 8.0% 個体群b: 0%				
ピーマン	ヒラズハナアザミウマ	トルフェンピラド乳剤	(補正死虫率) 個体群a: 10.3% 個体群b: 0.3%				
ピーマン	ヒラズハナアザミウマ	スピロテトラマト水和剤	(補正死虫率) 個体群a: 11.2% 個体群b: 10.4%				
ピーマン	ヒラズハナアザミウマ	シアントラニリプロール水和剤	(補正死虫率) 個体群a: 28.9% 個体群b: 12.7%				
ピーマン	ヒラズハナアザミウマ	フルキサメタミド乳剤	(補正死虫率) 個体群a: 79.3% 個体群b: 51.6%				

(5) 発生予察情報

ア 発表状況

情報の種類	発行回数	発行部数	情報提供先
予報	12	912	農林水産省関係機関、国立研究法人、九州各県病害虫防除所、九州各県農業試験場、県農林水産部関係機関、県振興局、県内市町村、農業関係団体（農業協同組合）、各共済組合、農薬卸商組合、農薬小売組合、病害虫発生予察調査員、報道機関等。
警報	0	0	
注意報	7	532	
特殊報	1	76	
技術情報	12	912	
その他	0	0	
計	32	2432	

注) 平成 23 年度から情報発信の一部を E メールにて行っている。

イ 警報、注意報、特殊報等の内容

注意報

情報号数	発表年月日	対象作物	対象病害虫
第 1 号	令和 7 年 7 月 1 日	ピーマン	アザミウマ類
第 2 号	令和 7 年 7 月 4 日	トマト・ミニトマト	トマトキバガ
第 3 号	令和 7 年 7 月 22 日	白ネギ	ネギアザミウマ
第 4 号	令和 7 年 8 月 4 日	普通期水稻	斑点米カメムシ類
第 5 号	令和 7 年 8 月 27 日	ピーマン	斑点病
第 6 号	令和 7 年 9 月 5 日	トマト・ミニトマト	トマトキバガ
第 7 号	令和 8 年 2 月 2 日	イチゴ	うどんこ病

病害虫防除技術情報

情報号数	発表年月日	対象作物	対象病害虫
第 1 号	令和 6 年 4 月 4 日	麦類	赤かび病、小麦黄斑病、大麦網班病
第 2 号	令和 7 年 5 月 27 日	ピーマン	斑点病
第 3 号	令和 7 年 6 月 4 日	トマト・ミニトマト	トマトキバガ
第 4 号	令和 7 年 7 月 1 日	白ネギ	ネギアザミウマ
第 5 号	令和 7 年 7 月 16 日	水稻	トビイロウンカ
第 6 号	令和 7 年 7 月 22 日	水稻	紋枯病
第 7 号	令和 7 年 8 月 15 日	水稻	斑点病
第 8 号	令和 7 年 10 月 27 日	イチゴ	ハダニ類
第 9 号	令和 7 年 12 月 22 日	イチゴ	うどんこ病
第 10 号	令和 8 年 2 月 18 日	ネギ類	ネギアザミウマ
第 11 号	令和 8 年 2 月 25 日	イチゴ	アザミウマ類
第 12 号	令和 8 年 3 月 18 日	麦類	赤かび病

令和7年度 病害虫発生予察 注意報 第1号

令和7年7月1日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病害虫 アザミウマ類（ヒラズハナアザミウマ）
- 2 対象作物 ピーマン
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 多い
- 5 発生量 多い

6 発表の根拠

- (1) 6月16～20日に実施した巡回調査では、発生圃場率、平均寄生花率ともに平年より高く（図1）、多発傾向であった昨年の発生も上回った。優占種はヒラズハナアザミウマであった。

発生圃場率：66.7%（平年：45.0%、前年：55.6%）

平均寄生花率：17.6%（平年：10.5%、前年：13.6%）

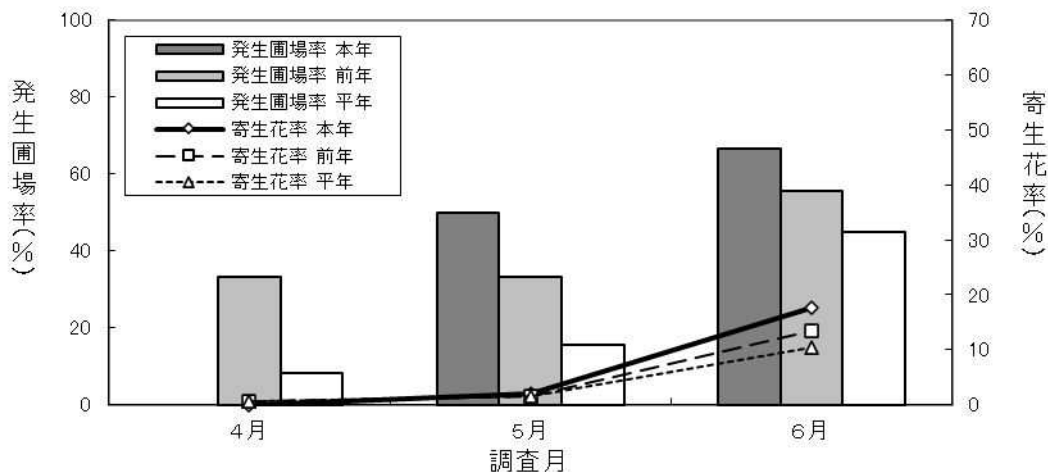


図1 病害虫発生予察巡回調査でのピーマンにおけるアザミウマ類の発生推移
(令和7年4月～6月)

- (2) 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、福岡管区气象台が6月19日に発表した1か月予報では、向こう1か月の平均気温は、平年並10%、高い確率80%、降水量は少ない確率50%、平年並30%と予測されており、引き続き好適条件が続く可能性がある。

7 防除対策

- (1) アザミウマ類の薬剤抵抗性発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続使用は避け、ローテーション防除を心掛ける。防除に使用する薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」

(<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/boujoshishin.html>)の「ピーマン」の項を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守し使用する。

病害虫対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>



- (2) ヒラズハナアザミウマ及びミカンキイロアザミウマはピーマン黄化えそ病 (TSWV) を媒介するため、発病株は抜き取り、圃場外に持ち出して埋設するなど適切に処分する。また、TSWV は汁液伝染するため、発病株の抜き取りなどは作業の最後に行なうとともに手洗いを励行する。
- (3) 圃場内および周辺の雑草はアザミウマ類の増殖源となるため、除草を徹底する。ただし、防除前に除草を行うと、施設外からの飛び込みにより被害が拡大する恐れがあるため、施設内のピーマンに対して防除を実施した後、薬剤の効果が残っている内に速やかに除草を行うよう留意する。また、アザミウマ類は風で移動するため、特にハウスの風上側の除草を心がける。収穫残渣についてもアザミウマ類の増殖源となるため、埋設するなど適切に処分する。
- (4) アザミウマ類は、ピーマン以外にも花き類、トマト、イチゴなど、多くの園芸作物に被害を及ぼす害虫であることから、作物体を注意深く観察し早期発見・早期防除を心掛ける。
- (5) 次作以降のアザミウマ類及び黄化えそ病 (TSWV) の蔓延を防ぐため、ピーマンの収穫終了後、年内に残渣の処分や施設周辺の除草を徹底する。

令和7年度 病害虫発生予察 注意報 第2号

令和7年7月4日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病害虫 トマトキバガ
- 2 対象作物 トマト、ミニトマト
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 前年並
- 5 発生量 前年より多い（フェロモントラップ調査結果に基づく）
- 6 発表の根拠

- (1) トマト及びミニトマト圃場において、本虫による葉への加害が確認されている。
- (2) 6月16日～6月30日に県内18地点で実施したフェロモントラップによる1地点あたり雄成虫誘殺数は65.6頭で、前年の9.3頭よりかなり多く、調査を始めた2022年以降で最も多く推移している。

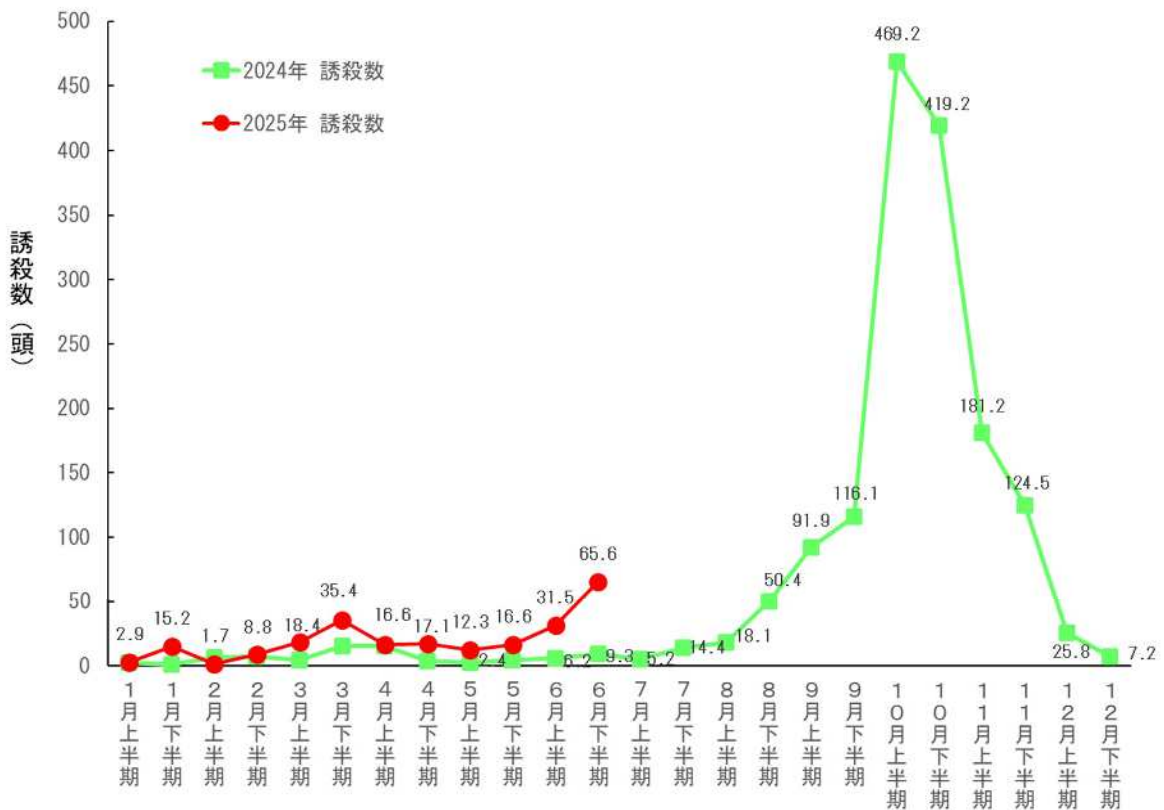


図1 トマトキバガのフェロモントラップによる1地点あたり誘殺数（2024～2025年）

- (3) 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、福岡管区気象台が6月26日に発表した1か月予報では、平均気温は、高い確率80%、降水量は、少ない確率50%、平年並30%と予想されており、引き続き好適条件が続く可能性が高い。

7 防除対策

- (1) 薬剤防除にあたっては、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一IRACコードの薬剤の連続使用は避ける。使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」の「トマト」及び「ミニトマト」の項目を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。特に同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛ける。
- (2) 一斉防除の効果が高いので、産地の防除暦等を活用して地域ぐるみで防除を行う。
- (3) 圃場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。
- (4) 被害葉や被害果は圃場内から持ち出すとともに、野外に放置せずに速やかに適切に処分する。
- (5) 国内で発生が確認された作物はトマト及びミニトマトのみであるが、海外では、ナス、タバコ、バレイショ、ホオズキ等のナス科作物やマメ科のインゲンマメも寄主植物として確認されている。トマト及びミニトマト以外の農作物に本虫が発生した場合には登録農薬がないので、管轄の県振興局生産流通部に相談する。

8 その他

トマトキバガ幼虫による被害葉は、ハモグリバエ幼虫による被害葉に似ているので、別添の「トマト葉におけるトマトキバガ幼虫とハモグリバエ幼虫の食害痕の違い」を参考にする。

病害虫対策チームホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>



トマト葉におけるトマトキバガ幼虫とハモグリバエ幼虫の食害痕の違い

【大分県農林水産研究指導センター農業研究部 原図】

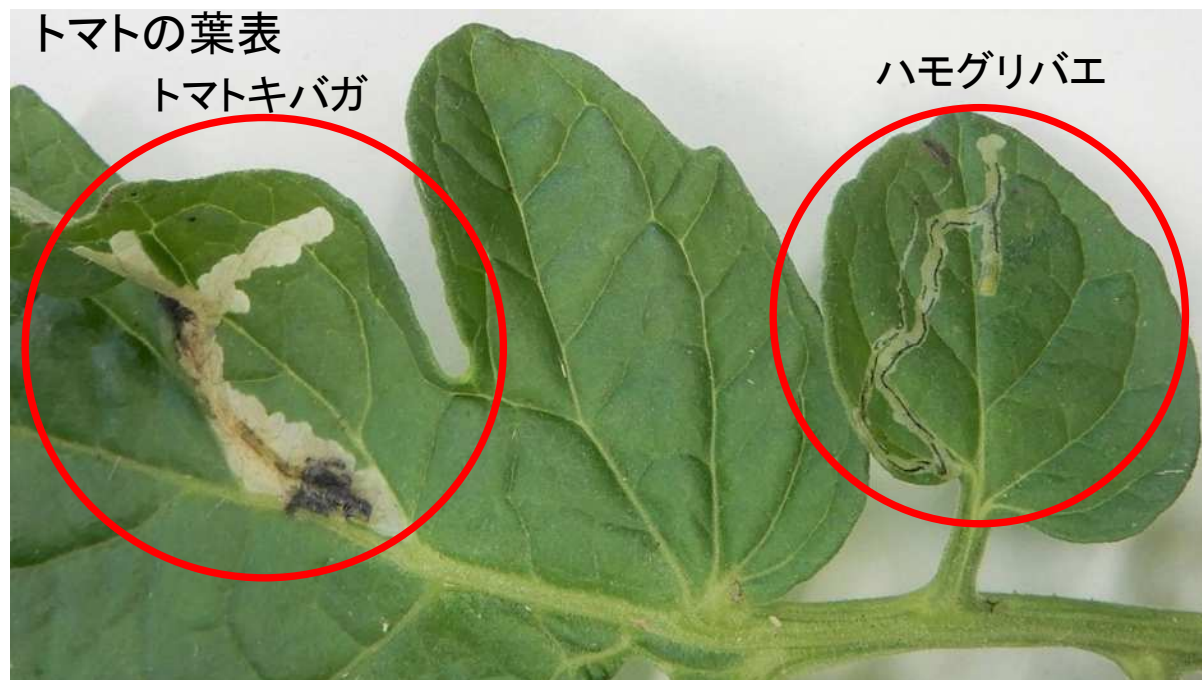


図1 左側：トマトキバガの食害（孔道の中で食害し、巣に戻って糞（下の方の黒い部分）をする）
右側：ハモグリバエの食害（食入直後は食害痕が細く、前進しながら食害し糞が線状となる）

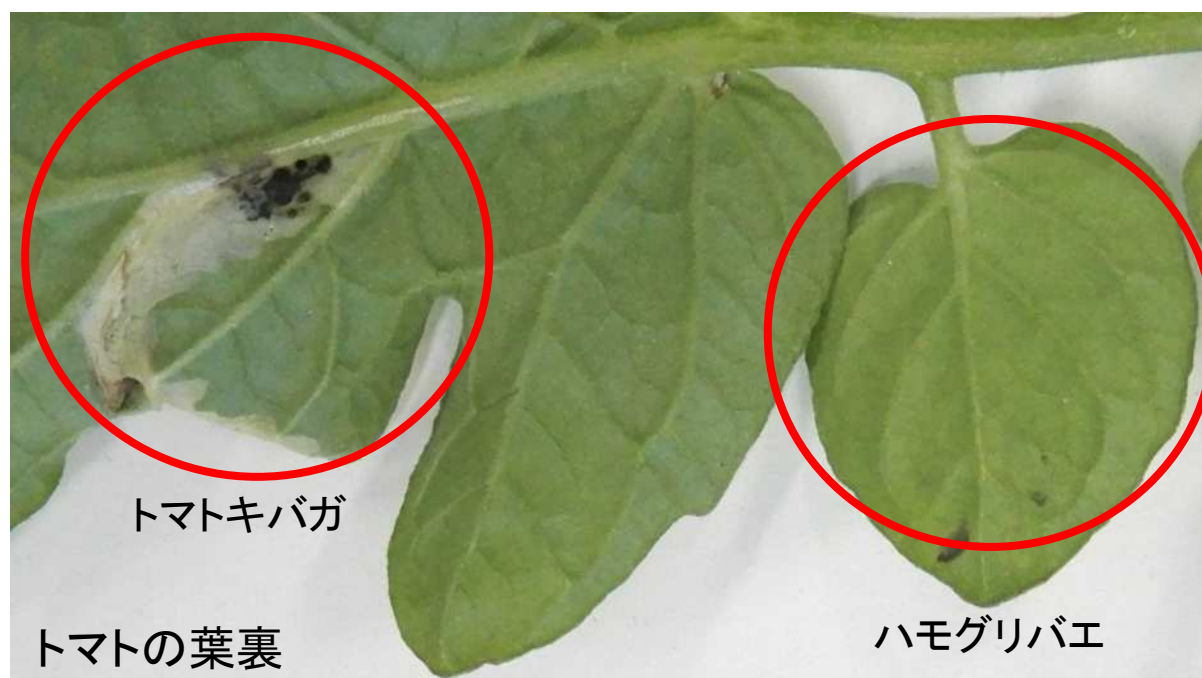


図2 左側：トマトキバガの食害（葉裏も食害痕が透けて確認できる）
右側：ハモグリバエの食害（葉裏は食害痕が確認できない）

令和7年度 病害虫発生予察 注意報 第3号

令和7年7月日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病害虫 ネギアザミウマ
- 2 対象作物 白ネギ
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 多い(平坦地)、やや多い(中山間地)
- 5 発生量 多い(平坦地)、平年並(中山間地)

6 発表の根拠

- (1) 7月中旬に実施した巡回調査では、平坦地を中心に発生が多く、発生圃場率、平均被害度ともに平年より高かった。また、中山間地では、発生圃場率、平均被害度ともに平年並であった(図1)。

【平坦地】

発生圃場率：100% (平年：69.6%、前年：100%)
平均被害度：26.3 (平年：10.9、前年：21.8)

【中山間地】

発生圃場率：75.0% (平年：78.2%、前年：100%)
平均被害度：9.3 (平年：10.7、前年：17.3)

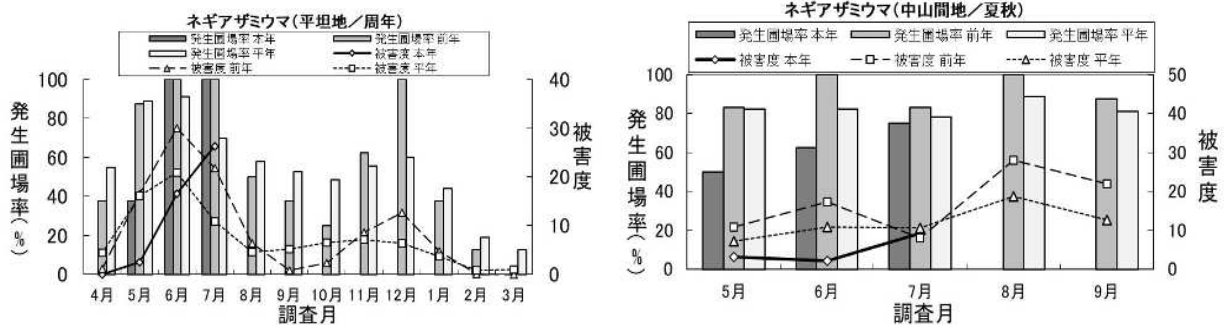


図1 病害虫発生予察巡回調査での白ネギにおけるネギアザミウマの発生推移

- (2) 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、福岡管区气象台が7月17日に発表した1か月予報では、向こう1か月の平均気温は、平年並30%、高い確率60%、降水量は少ない確率40%、平年並40%と予測されており、好適条件が続く可能性がある。

7 防除対策

- (1) ネギアザミウマの薬剤抵抗性発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続使用は避け、ローテーション防除を心掛ける。防除に使用する薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」

(<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/boujoshishin.html>) の「ねぎ」項を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守し使用する。

病害虫対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>



- (2) 圃場内および周辺の雑草はネギアザミウマの増殖源となるため、除草を徹底する。ただし、防除前に除草を行うと、圃場外からの飛び込みにより被害が拡大する恐れがあるため、圃場内の白ネギに対して防除を実施した後、薬剤の効果が残っている内に速やかに除草を行うよう留意する。また、アザミウマ類は風で移動するため、特に圃場の風上側の除草を心掛ける。
- (3) ネギアザミウマは、白ネギ以外にもユリ科、アブラナ科、ウリ科、ナス科、キク科及びバラ科など多くの園芸作物に被害を及ぼす害虫であることから、作物体を注意深く観察し早期発見・早期防除を心掛ける。

令和7年度 病害虫発生予察 注意報 第4号

令和7年8月4日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病害虫 斑点米カメムシ類
- 2 対象作物 普通期水稻
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 平年並
- 5 発生量 多い
- 6 発表の根拠

- (1) 7月28日～7月31日に実施した普通期水稻(40圃場)の巡回調査において、畦畔雑草のすくい取りを行った結果、斑点米カメムシ類(ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ類)は1か所あたり成幼虫計6.4頭で、前年(同13.1頭)より少なく、平年(同4.0頭)より多かった。
- (2) 近年増加傾向にあるイネカメムシは、40圃場中1圃場で41頭捕獲された。
- (3) 斑点米カメムシ類は高温乾燥条件で多発するが、福岡管区気象台が7月31日に発表した1か月予報では、平年に比べ晴れの日が多く、気温は平年並30%、高い確率60%と予測されており、発生の好適条件が続く可能性が高い。
- (4) 本虫に対する注意報は7月7日に山口県、7月16日に長崎県、7月22日に福岡県から発表されており、九州山口各県での増加傾向がうかがえる。

7 防除対策

- (1) 斑点米カメムシ類は、水稻の出穂前に圃場周辺に生育するイネ科雑草の穂で増殖するため、出穂の2週間前までに圃場周辺の草刈りを行い、出穂直前の草刈りは斑点米カメムシ類が圃場に侵入するのを助長するので避ける。また、すくい取り調査時の観察からイネカメムシも草刈りの効果が期待できる。
- (2) 斑点米カメムシ類は、水稻の出穂後に成虫が圃場に侵入して穂を加害するとともに、成虫が産卵しふ化した幼虫による穂の加害により斑点米が発生する。農薬は、穂揃期とその7～10日後の2回散布を基本とする。
- (3) イネカメムシは出穂前から圃場に侵入する個体もあるが、出穂直後に侵入する個体が多いため、本種の発生が確認されている地域では、防除効果の高い出穂直後に1回目の農薬散布を行いその7～10日後に2回目の散布を行う。
- (4) 周辺の圃場より出穂が早い圃場においては、斑点米カメムシ類の圃場への侵入が特に多くなるので、防除を徹底する。
- (5) 1回目の農薬散布は、出穂期前後の基幹防除を有効に活用する。
- (6) 防除に使用する薬剤は、大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」

(<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/boujoshishin.html>)を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守し使用する。

病害虫対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>



主な斑点米カメムシ類と斑点米



ホソハリカメムシ成虫



クモヘリカメムシ成虫



イネ科雑草穂上のイネカメムシ成虫と幼虫



斑点米 (カメムシによる吸汁痕)

令和7年度 病害虫発生予察 注意報 第5号

令和7年8月27日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病害虫 斑点病
- 2 対象作物 ピーマン
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 多い
- 5 発生量 多い

6 発表の根拠

(1) 8月12～19日に実施した巡回調査では、発生圃場率、平均発病葉率ともに平年より高かった(図1)。

発生圃場率：55.6% (平年：24.7%、前年：11.1%)

平均発病葉率：12.2% (平年：3.6%、前年：0.1%)

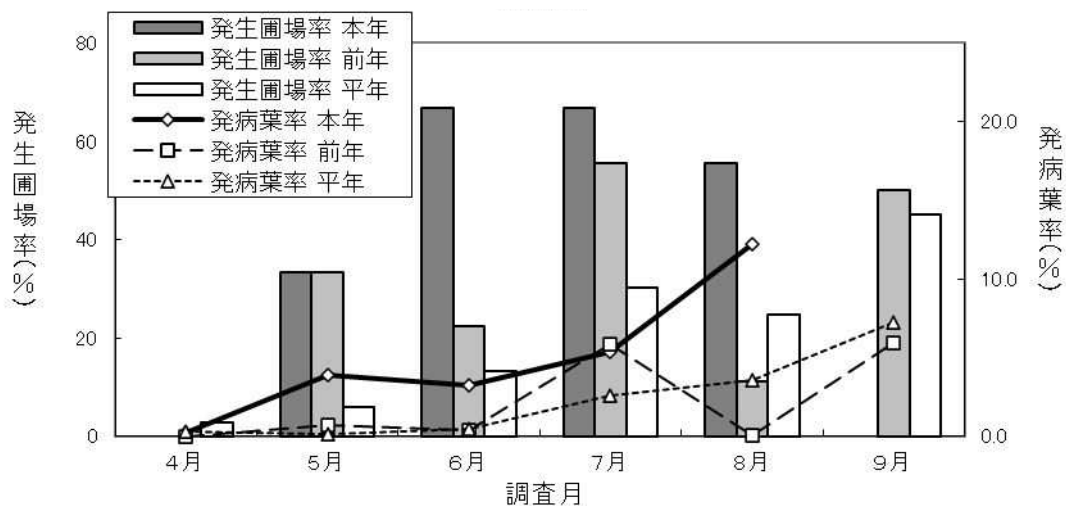


図1 病害虫発生予察巡回調査でのピーマンにおける斑点病の発生推移
(令和7年4月～8月)

(2) 本病は樹勢の低下により発病が助長されるが、福岡管区气象台が8月21日に発表した1か月予報では、向こう1か月の平均気温は、平年並10%、高い確率80%と予測されており、樹勢が低下しやすい条件が続く可能性がある。

7 防除対策

- (1) 高温及び着花負担等により株の樹勢が低下すると発病を助長するため、肥培管理に注意し、樹勢を維持するように心掛ける。
- (2) 一旦発生すると防除が困難になるので、予防散布や初期散布に重点を置くとともに葉裏に十分薬剤がかかるように心掛ける。
- (3) 発病初期のうちに治療効果の高い薬剤を中心に、散布間隔を短くするなどして集中的に散布を行う。
- (4) 斑点病の薬剤耐性菌発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続使用は避け、ローテーション防除を心掛ける。防除に使用する薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームのホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」
(<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/boujoshishin.html>) の「ピーマン」の項を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守して使用する。

病害虫対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>



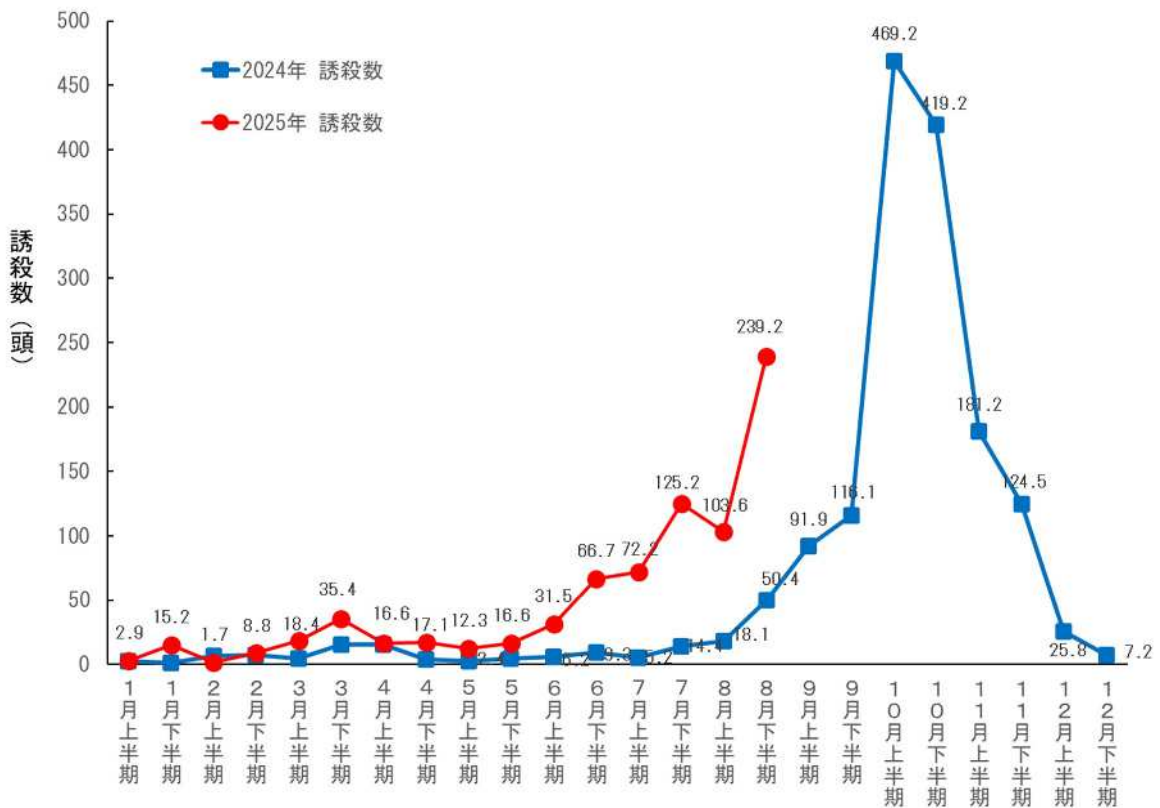
- (5) 高湿度及び夜温の低下が発生を助長するため、摘葉や整枝を行い温度管理に努める。
- (6) 本病の被害により落葉した葉はできるだけこまめに圃場外へ持ち出して処分する。

令和7年度 病害虫発生予察 注意報 第6号

令和7年9月5日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病害虫 トマトキバガ
- 2 対象作物 トマト、ミニトマト
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 前年より多い
- 5 発生量 前年より多い（フェロモントラップ調査結果に基づく）
- 6 発表の根拠

- (1) トマト及びミニトマト圃場において、本虫による葉及び果実への加害が確認されている。
- (2) 8月15日～9月2日に県内17地点で実施したフェロモントラップによる1地点あたり雄成虫誘殺数は239.2頭で、前年の50.4頭（18地点の平均）よりかなり多く、調査を始めた2022年以降で最も多く推移している。



トマトキバガのフェロモントラップによる1地点あたり誘殺数（2024～2025年）

- (3) 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、福岡管区气象台が8月28日に発表した1か月予報では、平均気温は、高い確率80%、降水量は、少ない確率30%、平年並40%と予想されており、引き続き好適条件が続く可能性が高い。
- (4) 9～10月は、雨よけ作型の終盤に当たるとともに、稲刈り等の他作物の農作業も重なるため、防除遅れに伴う多発が懸念される。

7 防除対策

- (1) 薬剤防除にあたっては、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一IRACコードの薬剤の連続使用は避ける。使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」の「トマト」及び「ミニトマト」の項目を参照し、農薬使用基準(使用時期、使用回数等)を遵守する。特に同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛ける。
- (2) 本虫の発生は今後急増する可能性が高いため、引き続き防除を行う。また、一斉防除の効果が高いので、産地の防除暦等を活用して地域ぐるみで実施する。
- (3) 圃場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。
- (4) 被害葉や被害果は圃場内から持ち出すとともに、野外に放置せずに速やかに適切に処分する。
- (5) 国内で発生が確認された作物はトマト及びミニトマトのみであるが、海外では、ナス、タバコ、バレイショ、ホオズキ等のナス科作物やマメ科のインゲンマメも寄主植物として確認されている。トマト及びミニトマト以外の農作物に本虫が発生した場合には登録農薬がないので、管轄の県振興局生産流通部に相談する。

8 その他

トマトキバガ幼虫による被害葉は、ハモグリバエ幼虫による被害葉に似ているので、別添の「トマト葉におけるトマトキバガ幼虫とハモグリバエ幼虫の食害痕の違い」を参考にする。

病害虫対策チームホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>



トマト葉におけるトマトキバガ幼虫とハモグリバエ幼虫の食害痕の違い

【大分県農林水産研究指導センター農業研究部 原図】

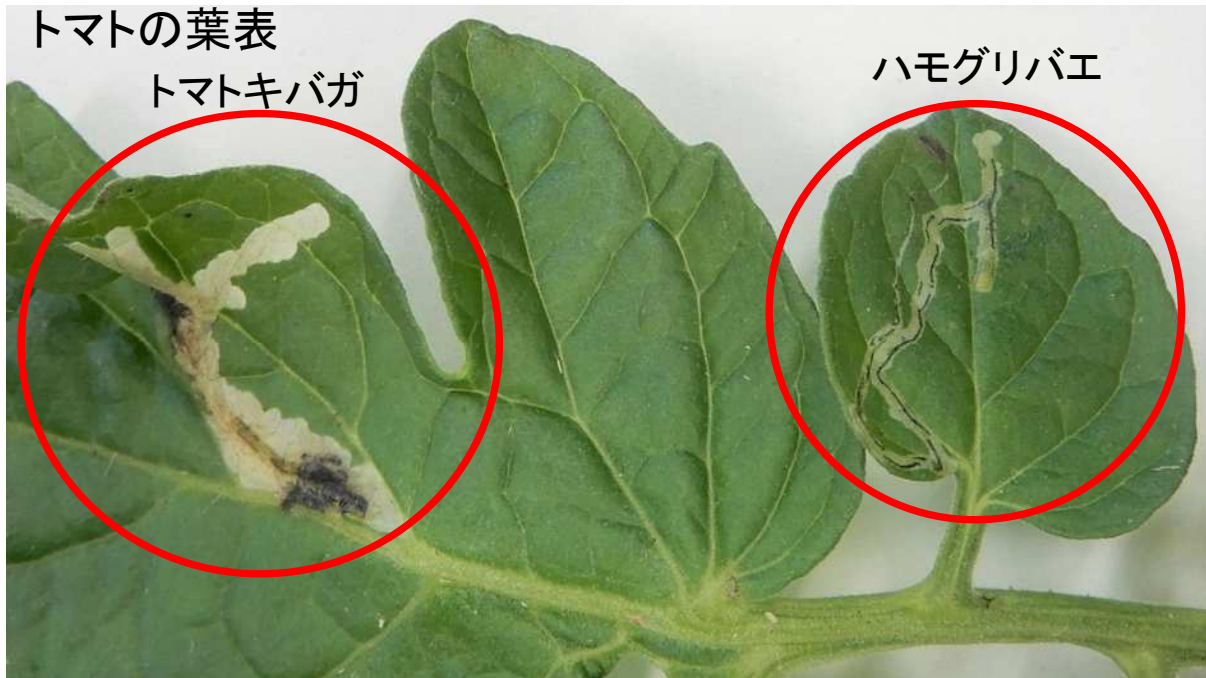


図1 左側：トマトキバガの食害（孔道の中で食害し、巣に戻って糞（下の方の黒い部分）をする）
右側：ハモグリバエの食害（食入直後は食害痕が細く、前進しながら食害し糞が線状となる）

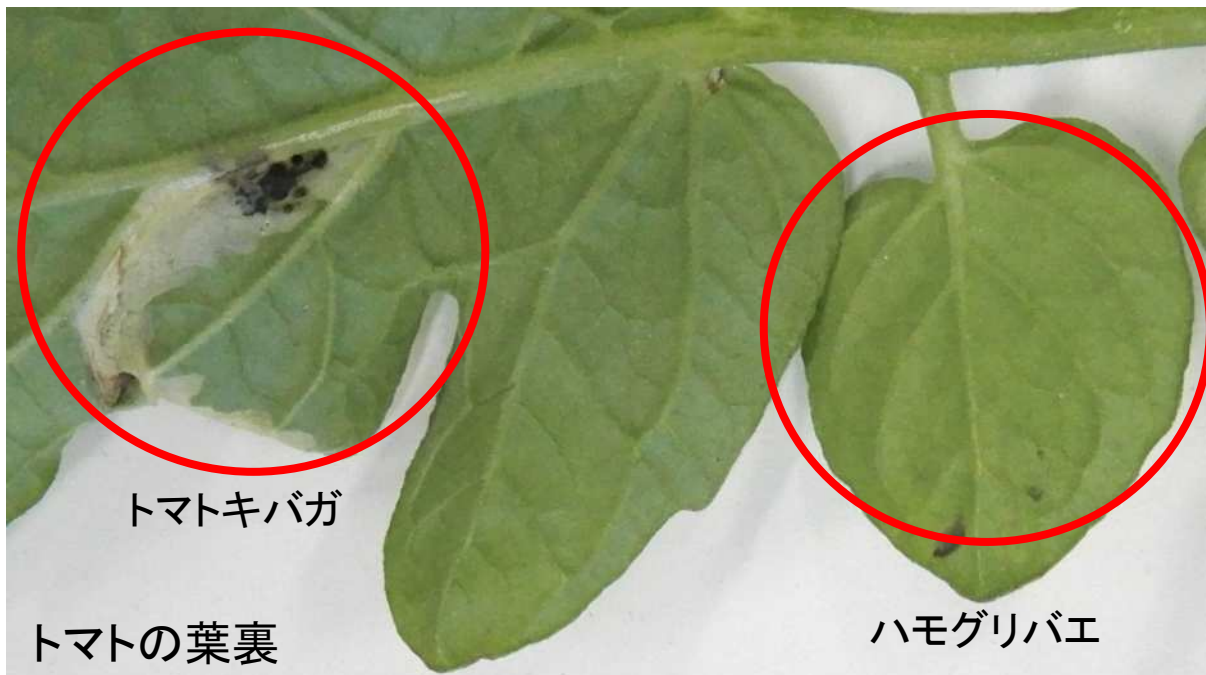


図2 左側：トマトキバガの食害（葉裏も食害痕が透けて確認できる）
右側：ハモグリバエの食害（葉裏は食害痕が確認できない）

令和7年度 病害虫発生予察 注意報 第7号

令和8年2月2日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病害虫 うどんこ病
- 2 対象作物 イチゴ
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 やや多い
- 5 発生量 やや多い

6 発表の根拠

(1) 1月15～16日に実施した巡回調査では、発生圃場率、平均発病株率、平均発病葉率、平均発病果率ともに平年より高かった(図1、図2)。

発生圃場率：50.0% (平年：7.0%、前年：0%)

平均発病株率：9.6% (平年：1.3%、前年：0%)

平均発病葉率：2.1% (平年：0.3%、前年：0%)

平均発病果率：0.4% (平年：0.1%、前年：0%)

※発生圃場率は発生株率より算出

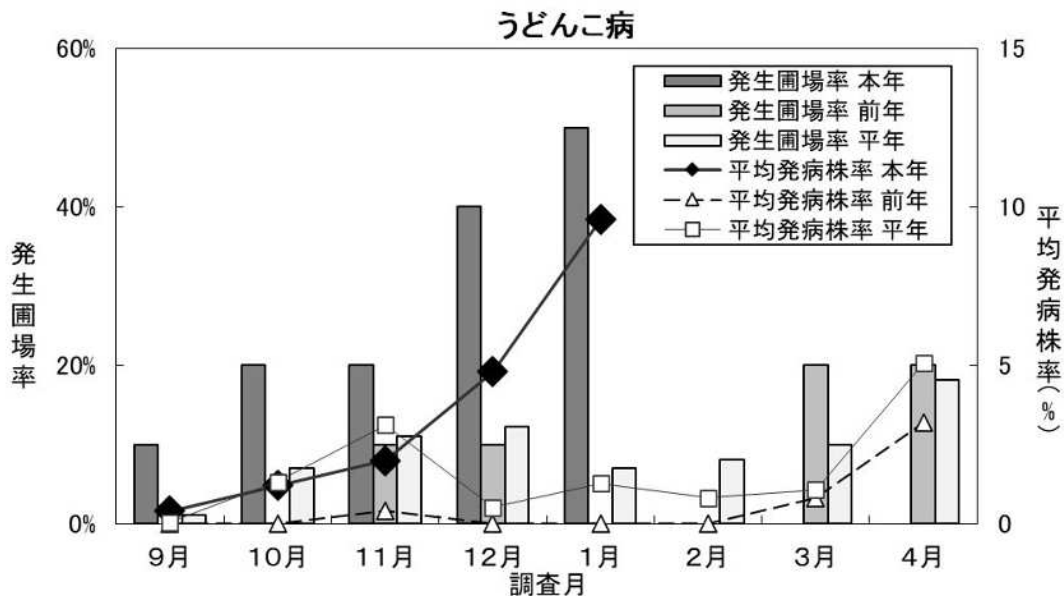


図1 病害虫発生予察巡回調査でのイチゴにおけるうどんこ病の発生状況
(発生圃場率、発病株率)

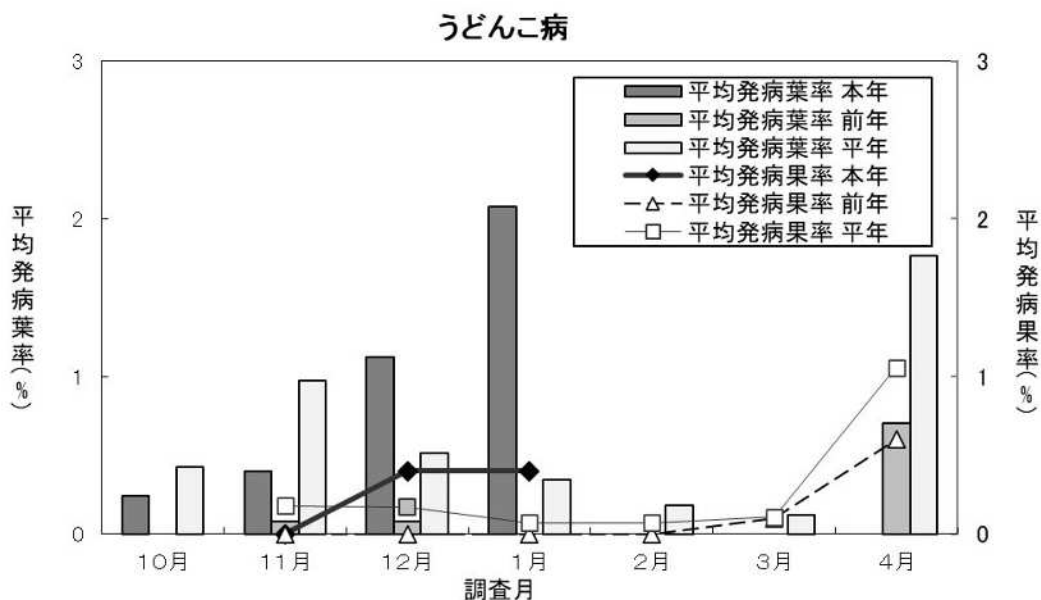


図2 病害虫発生予察巡回調査でのイチゴにおけるうどんこ病の発生状況
(発病葉率、発病果率)

- (2) 本病は気温 20℃程度が最も発生しやすいが、福岡管区气象台が1月22日に発表した1か月予報では、向こう1か月の平均気温は、平年並 40%、高い確率 20%と予測されており、引き続き好適条件が続く可能性がある。

7 防除対策

- (1) 本病は、樹勢低下により発病が助長され、乾燥条件で被害が拡大しやすいので、適切な肥培および灌水管理に務めるとともに、適期収穫を徹底する。
- (2) ハウス内の菌密度が高いほど発病しやすくなるので、発病果や発病葉は見つけ次第ハウス外に持ち出し、土中に埋める等の処分を行う。
- (3) 圃場内の観察を徹底するなど、本病の早期発見に努め、予防散布や初期散布に重点を置くとともに、葉裏まで十分薬剤がかかるよう散布圧などに留意して防除を行う。
- (4) 本病は、発病後の進展が早く、防除遅れが生じやすいため、発病初期から治療効果の高い薬剤を中心に散布する。
- (5) 本病の耐性菌を防ぐために、同一系統薬剤の連続使用は避け、ローテーション防除を心掛ける。ただし、炭酸水素化合物を薬効成分とする薬剤（カリグリーン、ハーモメイト水溶剤、ジーファイン水和剤等）は連用による耐性菌の出現は確認されていない。

病害虫対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>



(6) 防除対策推進上の問題点及びその対策

農作物名	病害虫名	問題点	対策
水稲	スクミリンゴガイ	① 薬剤防除および移植後3週間の水管理の不徹底	① メタルデヒド剤、燐酸第二鉄剤の本田施用、溝切り、浅水管理等による耕種的防除
	いもち病	① 種子消毒および本田期防除の不徹底 ② 無人ヘリヤドローンを用いた一斉防除が増え、天候により防除が遅れたり、異なる品種が同一地域に栽培されていることから、適期に防除できない圃場が散在する ③ 平成24年度にQoI剤耐性菌の発生が県内全域で確認され、代替薬剤を含めて防除効果は引き続き検証する必要がある ④ 「つや姫」「モミロマン」を侵すレースが確認されている	① BLASTMによる感染好適条件の情報発信 ② 穂ばらみ期防除の必要性を研修会等で説明し、品種ごとに適期防除を行うよう促す ③ QoI剤の感受性低下が認められる地域では、他の薬剤の使用を推進する ④ いもち病を含めた苗箱施薬剤の使用を推進する
	紋枯病	① 苗箱施薬剤は普及しているが、近年夏季の気温が高く、中山間地を含め、8月中下旬に垂直進展する事例が見られる	① ベンフルフェン等による苗箱施薬およびフルトラニル、バリダマイシン剤等による追加防除の徹底
	稲こうじ病	① 近年発生が多い病害であるが、昨年に引き続き本年は発生が少なかった ② 近年土壌伝染することが解明され、発病には穂ばらみ期以降の気温、降水量等天候が関係している	① 発生の多い圃場では銅剤やシメコナゾール剤の使用を推進する ② 出穂20～10日前に銅剤による防除を徹底する
	トビイロウンカ	① 複数の薬剤で感受性低下が発生している ② 長期残効のトリフルメゾピリムを含有している苗箱施薬剤が普及しているが、価格が高いこともあり一部で使用されていない ③ 無人ヘリ等の防除では、慣行防除以外の追加防除が行われていない場合がある ④ 新規需要米の普及によって防除を行わない場合があり、品種によっては増殖しやすいものがある ⑤ 海外飛来性の害虫であり、年により発生時期が異なるが、本年は発生が少なく、トリフルメゾピリム剤を使用していないごく一部の圃場で評価が確認された	① チアメトキサム、クロチアニジン、エチプロロール、ジノテフラン剤では薬剤感受性をモニタリングする ② トリフルメゾピリム剤の使用を推進する ③ 防除の徹底を周知する ④ 各振興局に対し情報提供するとともに、新規需要米においても苗箱施薬剤の使用を推進する ⑤ 本種の飛来状況について、各振興局に対し情報発信する
麦類	赤かび病	① 防除薬剤の中には効果の低いものがあり、かび毒の低減効果の高い薬剤が求められている ② 本病の感染時期は開花期後の葍の抽出時期であり、防除適期はごく短期間であり、天候により防除適期に薬剤散布ができない場合がある	① 防除効果の高い薬剤の情報提供および新規薬剤の登録試験 ② 防除適期の情報提供を行う 防除効果が高く、収穫前使用日数の短い剤の探索・農薬登録
大豆	紫斑病	① カメムシに重点を置いた同時防除により、防除適期を逸する事例がある ② 追加防除の判断が困難である	① 適正防除時期の情報発信 ② 2回散布を基本に防除の徹底を図る
	ハスモンヨトウ	① 本虫は薬剤感受性低下が見られるが、本年は平年より少ない発生となった	① 薬剤感受性低下の発生前に有効な薬剤の探索 ハスモンヨトウの老齢幼虫は薬剤の効果が劣るため、8月下旬～9月に卵塊や若齢幼虫による被害葉（白変葉）が確認されたら防除するように指導
トマト	すすかび病	① 本病に対する有効な薬剤が少ない。	① 5～7月に予防殺菌剤を中心とした体系の構築 ② 薬剤感受性モニタリングの実施、有効な薬剤の登録促進
	うどんこ病	① 本病に有効な登録薬剤が少ない。	① 発生前からの予防散布の実施 ② 新規薬剤の登録促進、薬剤感受性モニタリングの実施
	かいよう病	① 土壌消毒を行っていない圃場を中心に発生がある。 ② 本病に有効な登録薬剤が少ない。	① 土壌消毒、残さ処理、発病株の除去、マルチ等による物理的防除 ② カスガマイシン剤の散布
	青枯病	① 連作と土壌消毒の不徹底。 ② 高い抵抗性を示す台木を使用しても発生が認められた。	① 土壌消毒の実施 ② 管理作業による媒介防止
	ネコブセンチュウ	① 土壌消毒の不徹底。 ② 本虫を対象に土壌消毒を実施したにもかかわらず、作期後半の秋期に発生が認められる事例がある。 ③ 台木の抵抗性が打破されていることが明らかとなった。	① 土壌消毒の実施 ② 殺センチュウ剤の処理、新規薬剤の登録促進 ③ 抵抗性台木による耕種的防除
	トマトキバガ	① 休耕地対策が不徹底な圃場を中心に早期発見を招いた。 ② 長期残効型の防除手段がない。	① 地域ぐるみでの一斉防除や選果の徹底 ② 残渣及びマルチ等の資材の適切な処分 ③ 周辺雑草への除草による対策の実施
ピーマン	軟腐病	① タバコガ類被害と併発する恐れがある。 ② 登録薬剤が少ない。	① タバコガ類の薬剤防除と防虫ネット被覆、オオタバコガは交信攪乱剤の活用、圃場内清掃の徹底 ② 新規薬剤の登録促進
	うどんこ病	① 内部寄生菌のため、薬剤による治療効果が低い。	① 発病前から硫黄粉剤の定期的な予防散布
	ワタアブラムシ	① 防除不足による圃場での発生が見受けられた。	① 適期の防除を実施 ② 新規薬剤の登録促進 ③ 有効な薬剤の探索
	ミカンキイロアザミウマ	① スピノサド剤を含め薬剤全般での感受性低下。 ② TSWVおよびCSNVを媒介する。特にTSWVは定植直後に多発生したことから、防除の徹底が必要。	① 新規薬剤の登録促進、有効な薬剤の探索 ② スワルスキーカブリダニの普及 ③ 越冬場所となる残さ処理の徹底
	ヒラズハナアザミウマ	① スピノサド剤を含め薬剤全般での感受性低下。 ② TSWVおよびCSNVを媒介する。	① 新規薬剤の登録促進、有効な薬剤の探索、気門封鎖剤の混用による薬効改善 ② スワルスキーカブリダニの普及 ③ 越冬場所となる残さ処理の徹底
	タバコガ類	① 防虫ネットを設置していない圃場や露地栽培を中心に発生。	① 次年度の越冬蛹を残さないよう圃場の清掃 ② 防虫ネットの全面被覆および部分展張被覆の普及 ③ オオタバコガは交信攪乱剤の活用による圃場内発生密度抑制

	病害虫名	問題点	対 策
ネギ	軟腐病	① 効果的な登録薬剤が少ない。 ② 春期に定植する栽培体系で多発する。 ③ 発生は年次変動が大きく、夏期に台風・長雨に遭遇すると発生が急増するため、適期防除が困難である。	① 排水対策の実施 ② プロベナゾール粒剤の有効活用とオキシロニック酸の追加防除 ③ 薬剤の登録促進
	小菌核腐敗病	① 生育期における発病の確認が難しく、発生初期の防除が困難である。 ② 秋期～冬期に多雨で経過すると発病が促進される。	① 土寄前のイプロジオン剤の処理の周知 ② 収穫残さ処理の徹底
	白絹病	① 効果的な登録薬剤が少ない。 ② 県内主要産地でフルトラニル耐性菌が発生している。	① 新規薬剤の登録促進 ② 防除体系や防除薬剤の見直し
	べと病	① 効果的な登録薬剤が少ない。 ② 発生予測が困難である。	① 新規薬剤の登録促進、防除体系や防除時期の見直し ② 他県が開発したネギべと病発生予測モデルの適合性確認 ③ 発病前のマンゼブ剤予防散布の実施
	さび病	① 効果的な登録薬剤が少ない。 ② 暖冬傾向の年では発病好適期間が長くなる傾向にある。	① 新規薬剤の登録促進 ② 防除体系や防除時期の再検討、発生前からの予防散布の実施
	ネダニ類	① 効果的な登録薬剤が少ない。 ② ロビネダニとネダニモドキ属の2種が発生しており、発生実態については不明な点が多い。 ③ 土壌病害対策も含めた有効な体系防除が確立されていない。	① 新規薬剤の登録促進 ② 有効な薬剤のスクリーニング ③ 防除体系や防除時期の見直し
イチゴ	うどんこ病	① 発生前の予防散布や発生初期防除が遅れた圃場において発生し、特に春期において多発する。	① 発病前からの予防散布の実施 ② 育苗期における防除の徹底
	萎黄病	① 健全苗への更新が不十分な場合に発生がある。 ② 高設栽培における培土消毒が不十分な場合に発生がある。	① 健全苗の確保 ② 陽熱処理や薬剤による培土消毒の徹底
	炭疽病	① 育苗時の防除が不十分な場合に発生がある。 ② 高設栽培における培土消毒が不十分な場合に発生がある。	① 原苗供給段階での全株簡易検定の実施等による健全苗の確保 ② 育苗時の雨よけ栽培や底面給水施設の利用、防除の徹底 陽熱処理や薬剤による培土消毒の徹底
	ハダニ類	① 育苗期の防除が不十分なために本圃に持ち込む事例が多く認められる。 ② 薬剤感受性が低下しやすく、効果的な薬剤が少ない。	① 薬剤感受性試験の実施、新規薬剤の登録促進 ② ミヤコカブリダニ剤、チリカブリダニ剤などの天敵資材、気門封鎖剤を活用した密度抑制 ③ 育苗期～収穫開始期における防除体系の構築
	チビクロバネキノコバエ	① 効果的な登録薬剤が少ない。 ② 収穫開始期に多発し、生態は不明な点が多い。 ③ 有効な体系防除が確立されていない。	① 新規薬剤の登録促進 ② 有効な薬剤のスクリーニング ③ 育苗期～定植初期における防除体系の見直し
柑橘類	かいはよう病	① 効果的な登録薬剤が少ない。 ② 薬剤防除と併せて防風対策と罹病枝除去が有効だが、生産者の高齢化により十分な対応が困難。 ③ 台風などの強風雨に遭遇すると発生が急増するが、効果が高いとされる襲来前の防除は時間的余裕がなく事実上困難。	① 発芽前および新梢伸長期など初期防除の徹底 ② 罹病性の低い品種でも多発圃場周辺では発生に注意 ③ 防風対策と台風襲来前防除の徹底 ④ 伝染源となる罹病枝(特に夏秋枝)の除去 ⑤ 効果的な薬剤の登録促進
	黒点病	① 幼果期以降に降雨が多いと発病が増加。 ② 温暖化による秋期の気温上昇、降水量の増加により後期黒点病の発生が多くなっている。9月以降の発生が懸念される場合、秋季防除の実施が必要。 ③ 生産者の高齢化により、管理不徹底園が増加し、伝染源となる枯れ枝が多くなっている。 ④ マンゼブ剤の「かんきつ」登録での使用時期が収穫90日前までとなっており、収穫時期の早い露地カボスでは使用できる薬剤が少ない。	① マンゼブ、フルアジナム、クレソキシムメチル、テブコナゾール・トリプロキシストロビン、有機銅剤による定期防除 ② 枯れ枝剪除の徹底 前回防除からの累積降水量250mm前後または散布後1ヵ月を目安に次回防除を実施 効果的な薬剤の登録促進
ナシ	黒星病	① DM I 剤、ストロビリリン系薬剤、SDHI剤の使用回数を制限しているが、発生が多い年は制限を超える場合がある。 ② 登録薬剤や使用回数が不足している。 ③ 発病が拡大すると薬剤防除では抑えられないため、生育初期の予防散布が重要である。	① 適期防除の実施 ② 薬剤の登録促進と効果的な防除体系の再検討 ③ 精度の高い発生予察技術の確立 ④ 薬剤耐性菌検定の実施
果樹類	果樹カメムシ類	① 多発生時は地域内一斉防除が効果的だが、実施は困難。 ② 飛来が多数回の場合、使用回数等の関係から農薬の選択が難しい。 ③ 地域による飛来時期や程度の差が大きく、発生予察が困難であり、生産者の高齢化により、十分な対応が取れない。	① 園内の見回り徹底および飛来の早期発見 ② 越冬量調査、フェロモントラップやライトトラップによるモニタリング調査、ヒノキ毬果の口針鞘数調査等、発生予察に役立つ情報の迅速提供 ③ 効果的な発生予察方法の確立 ④ 効果的かつ省力的な防除技術の開発、薬剤の登録促進
茶	炭疽病	① 普及している乗用型防除機の噴口では、葉層内部まで薬液が届かず防除効果が低い ② 生産者の高齢化により管理不徹底園が増加し伝染源となっている	① 有効な体系防除技術の確立、罹病葉除去クリーナー等を活かした防除体系の検討 ② 深刈り更新やすそ刈りによる寄生葉の除去を指導 荒廃園の伐採、抜根対策
	チャトゲコナジラミ	① 葉裏へ十分薬剤がかかると防除効果があがらない ② 県内では分布域が拡大しており、荒廃園で発生した場合防除対策が困難である	① 有効な体系防除技術の確立、土着天敵等を活かした防除体系の検討 ② すそ刈りによる幼虫寄生葉の除去、荒廃園の伐採、抜根対策
マイナー作物	一般的な病害虫(全般)	① 登録薬剤数が少ないか無く、薬剤の選定に苦慮している	① 農薬の登録拡大 ② IPMによる防除対策の検討

(7) 主要作物の生育概況

ア 水稲

早期栽培では3月下旬以降の低温の影響により初期生育に遅れがみられたものの、出穂期以降おおむね天候に恵まれ生育が良好となった。普通栽培では、9月上旬に台風第15号が接近したものの、登熟期間中がおおむね天候に恵まれたことから、多くの地域で粒の充実が良好となった。

10a当たり収量は、488kg（前年産+29kg）となり、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は、9万2,200tとなった。（九州農政局、令和6年産水稲の収穫量（九州）から抜粋）。

イ 麦類

本年度の作柄は、令和6年11月20日播種の適期播では、大麦の成熟期は平年並であった。稈長は平年より短い～やや短く、穂長は平年よりやや短く、穂数は平年より少なかった。千粒重は平年より重く、屑麦重歩合は平年より少なかったため、子実重は平年より重かった。小麦の成熟期は平年並であった。稈長は平年よりやや短く、穂長は平年並～やや長く、穂数は平年より少なかった。千粒重は平年並～やや重く、子実重は平年より軽かった。

ウ 大豆

7月10日播種の標準播区は、出芽期は7月20日で前年より6日遅かった。開花期は8月23日で前年より3日遅かった。成熟期は判然としなかった。成熟期の主茎長は前年と比べ短く、主茎節数はやや少なく、分枝数は多かった。稔実莢数は前年より多く、百粒重は軽く、子実重は21.5kg/a（前年比104）で重かった。7月25日播種の晩播区は、出芽期は8月3日で前年より2日遅かった。開花期は9月5日で前年より6日遅かった。成熟期は判然としなかった。成熟期の主茎長は前年より長く、主茎節数、分枝数は多かった。稔実莢数は前年より多く、百粒重は前年よりやや多く、子実重は16.8kg/a（平年比83）で軽かった。（水田農業グループ資料から抜粋）。

エ カンキツ

発芽期、開花期は平年並みとなった。着花量、着果量は平年並み～多くなった。生育期間中の降水量は平年より少なかったが、肥大は平年並みであった。極早生品種の果実品質（Brix）は平年より高く推移し、早生品種、普通温州の果実品質（Brix）は平年より低く推移した。夏季に気温が高く推移したため、果実品質（酸）は平年以下となり、日焼け果も多くなった。病害虫については、概ね平年並みであった。

オ ブドウ

発芽期は平年よりも巨峰で1日、ピオーネで2日、デラウェアで1日、シャインマスカットで1日遅かった。開花盛期はデラウェアで平年であったが、巨峰、ピオーネは平年に比べ1～2日遅かった。シャインマスカットは平年に比べ1日早かった。開花期間中は降雨もあったが、着果は良好であった。また、夏期（7～9月）の異常高温により巨峰やピオーネなどの黒色系品種で著しい着色不良となった。果実肥大はいずれの品種も平年並であった。病害虫の発生は全体的に少なかった。

カ ナシ

2月以降平均気温が平年より低く推移したため、発芽期は幸水、豊水、あきづきで平年に比べ3～4日遅かったが、新高は平年に比べ1日早かった。開花盛期は幸水（4月13日）、豊水（4月8日）、あきづき（4月10日）、新高（4月5日）とも平年より2～4日遅かった。3月下旬の平均気温が平年より高く推移した後の3月31日の寒波により新高を中心に低温障害による開花不良が生じた。夏期（7～9月）の異常高温により新高を中心に日焼け果や果肉障害が平年より多く発生した。梅雨明けが6月27日（平年7月19日）と早かったため、幸水は小玉傾向であったが、8月の降雨により豊水、あきづき、新高の果実肥大、果実品質は概ね平年並であった。病害虫の発生は、全体的に少なかった。

キ 茶

本年は1月、2月の気温が平年より低かったため、やぶきたの萌芽期は4月11日で前年より6日遅く、平年よりも11日遅かった。一番茶の摘採日は5月7日で、前年より3日遅く、平年より6日遅かった。生葉収量は、521kg/10aで平年対比80%であった。本年の梅雨入りは5月16日で、平年よりも19日早く、梅雨期間降水量は平年より多かったものの梅雨明けも早く、7月の降水量は平年比19%と少なかった。二番茶の摘採日は6月20日で、前年より1日早く、平年より3日遅く、生葉収量は、273kg/10aで平年比41%であった。

(7) 主要作物の生育概況

ク トマト

南西部では、3月下旬から6月にかけて定植が行われ、4月は夜温が低かったものの、日中の気温が高かったため、出荷開始は5月中旬と平年並みでした。しかし、夏季の梅雨明けが早く酷暑が長く続いた結果、花粉の不稔による着果不良や花落ちが発生しました。さらに9月以降も夜温が下がらず、果実が小玉化したことで、最終的な収量は例年の8割程度にとどまりました。

西部では5月に定植が行われ、定植直後の夜温低下により初期生育に停滞が見られたものの、その後は順調に生育が進みました。夏季には「軟果」や「つやなし果」が多発し、8月中旬の豪雨と連続降雨が花飛びや草勢低下を引き起こし、9月以降の出荷量が減少しました。秋以降も高温が続いたため、枯れ上りが早まり、この影響が11月まで続いた結果、トマトの出荷量は平年の8割程度にとどまりました。

ケ 夏秋ピーマン（令和6年3月～10月）

豊肥地域では3月上旬から4月中旬、中部地域では3月中旬から4月上旬、西部地域のハウス栽培では3月下旬から4月下旬、露地栽培では4月下旬から5月中旬にかけて定植が実施されました。定植時期における夜温の低下、降雨量は少なく推移したため、一部の地域では生育に若干の遅れが確認されました。日中の気温が高く推移したため、その後は比較的順調に生育が進みました。R6年同様夏季高温であったものの、一部の地域では高温対策の一環として「グランバギー」の導入が積極的に進められた結果、収量の改善効果が確認されました。その他にも各種高温対策を講じた結果、7月から8月中旬にかけての出荷量は前年実績を上回る推移となりました。その一方で高温期においては赤果の急増傾向が見られ、品質の一部低下が散見されました。8月中旬以降、長雨や曇天が続いたことにより、日照不足となり花飛びや草勢低下を招きました。この影響により、病害虫の発生が増加し、結果として9月以降の出荷量は減少しました。年間出荷量は前年を上回りました。

コ ネギ（令和6年4月～令和7年3月）

平坦地の白ネギでは例年の4月と比較して古ネギで抽苔がやや早く散見されました。中山間地の白ネギでは、令和6年4月から5月にかけて定植が実施されました。梅雨明け以降は記録的な酷暑が続く、根・葉の伸長が著しく抑制され、生育は大幅に遅延しました。10月に入り、適度な秋雨がもたらされたことで、酷暑を耐え抜いた白ネギは生育を再開し、順調に成長が進みました。生育回復により、年内の出荷は一時持ち直しましたが、酷暑の影響が大きく、年間出荷量は前年に比べて下がりました。

サ いちご（令和6年7月～令和7年5月）

育苗は令和6年6月上旬から9月上旬にかけて行われた。8月以降は高温が続く、その影響で花芽分化の遅れやばらつきが見られた。定植は9月中旬から行われた。定植後は9月下旬から10月上旬にかけて平年より平均気温が高く、一次腋花房の分化も遅く、頂花房と第一次腋花房の花房間葉数が多くなっている傾向が見受けられた。

(8) 普通作物病害虫の発生及び防除状況

ア 普通作物病害虫発生程度別面積

病害虫名	栽培面積	発生程度別面積					発生面積率	実防除面積	延防除面積	被害面積	平年比	発生概評	平年発生面積	平年発生面積率
		少	中	多	甚	計								
水稻(育苗期)	ha	ha	ha	ha	ha	ha	%	ha	ha	ha			ha	%
苗立枯病	18,000	75	5	0	0	80	0.4	18,000	18,100	5	68.0	やや少	141.8	0.7
もみ枯細菌病	18,000	2	0	0	0	2	0.0	18,000	18,000	0	100.0	並	2.0	0
苗いもち	18,000	10	0	0	0	10	0.1	18,000	18,100	0	8.4	少	155.1	0.7
ばか苗病	18,000	300	5	0	0	305	1.7	18,000	18,000	5	74.4	やや少	569.7	2.3
水稻(本田)	ha	ha	ha	ha	ha	ha	%	ha	ha	ha				
葉いもち	18,000	3,000	50	5	0	3,055	17.0	18,000	19,800	5	32.6	少	10,838.4	52.0
穂いもち	18,000	500	5	1	0	506	2.8	18,000	19,800	6	15.4	少	3,760.2	18.2
紋枯病	18,000	11,000	1,000	50	5	12,055	67.0	13,500	16,200	1,055	137.7	やや多	9,379.2	48.6
白菜枯病	18,000	30	1	0	0	31	0.2	900	900	1	9.1	少	437.6	1.9
ばか苗病	18,000	20	1	0	0	21	0.1	0	0	1	4.6	少	591.8	2.5
心枯線虫病	18,000	30	0	0	0	30	0.2	0	0	0	5.5	少	717.2	3.1
ごま葉枯病	18,000	1,500	50	1	0	1,551	8.6	18,000	19,800	1	123.1	やや多	1,447.8	7.0
縞葉枯病	18,000	20	0	0	0	20	0.1	—	—	0	9.3	少	265.0	1.2
萎縮病	18,000	2	0	0	0	2	0.0	—	—	0	56.7	少	4.0	0.0
もみ枯細菌病	18,000	1,800	50	0	0	1,850	10.3	900	900	50	110.9	並	1,874.7	9.3
稲こうじ病	18,000	4,000	20	0	0	4,020	22.3	180	180	20	67.8	やや少	7,081.7	32.9
ニメイガ(1化)	18,000	20	0	0	0	20	0.1	18,000	18,000	0	48.0	少	50.9	0.2
ニメイガ(2化)	18,000	25	0	0	0	25	0.1	6,000	6,000	0	54.9	少	57.2	0.3
セジロウカ	18,000	250	10	0	0	260	1.4	18,000	18,000	0	8.2	少	4,514.3	17.7
ヒビロウカ	18,000	100	5	0	0	105	0.6	18,000	27,000	0	3.6	少	3,666.1	16.3
ヒメヒロウカ	18,000	600	10	2	0	612	3.4	18,000	18,000	2	88.3	並	882.2	3.9
ツマクロコバイ	18,000	400	0	0	0	400	2.2	18,000	18,000	0	30.2	少	2,049.0	7.4
イネミスゾウムシ	18,000	500	10	1	0	511	2.8	18,000	18,000	1	19.6	少	3,385.1	14.5
斑点米カメシ類	18,000	6,500	100	20	1	6,621	36.8	16,200	17,820	21	122.3	やや多	5,983.1	30.1
イネツトムシ	18,000	100	0	0	0	100	0.6	6,000	6,000	0	5.3	少	2,490.2	10.5
フオビコヤガ	18,000	100	0	0	0	100	0.6	6,000	6,000	0	7.9	少	1,621.6	7.1
コブノメイガ	18,000	1,000	100	0	0	1,100	6.1	18,000	18,000	0	28.2	少	4,520.5	21.7
スクリンゴガイ	18,000	1,500	100	5	0	1,605	8.9	18,000	18,000	5	54.5	少	3,356.0	16.4

イ 普通期水稻主要病害虫の巡回調査結果

いもち病

	発生圃場率			発病度		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7月中旬	2.6	21.9	8.6	0.0	1.6	0.5
8月上旬	5.0	37.3	27.5	0.3	4.4	1.8
8月中旬	25.0	39.6	17.5	1.6	3.9	3.1
9月中旬	0	11.0	0	0.1	0.4	0.1

紋枯病

	発生圃場率			発病度		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7月中旬	0	0.3	0	0	0.0	0
8月上旬	0	2.1	0	0	0.1	0
8月中旬	10.0	11.1	7.5	0.3	0.7	0.9
9月中旬	69.2	26.0	15.4	7.1	2.8	1.1

白葉枯病

	発生圃場率			発病度		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7月中旬	0	0	0	0	0	0
8月上旬	0	0	0	0	0	0
8月中旬	0	0.3	0	0	0.0	0
9月中旬	0	0.2	0	0	0.0	0

セジロウンカ

	発生圃場率			株当たり虫数		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7月中旬	0	7.6	0	0.05	0.30	0.08
8月上旬	0	17.3	3	0.08	0.60	0.17
8月中旬	0	23.9	3	0.02	0.90	0.09
9月中旬	0	2.6	0	0.03	0.10	0.02

トビロウンカ

	発生圃場率			株当たり虫数		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7月中旬	0	0.0	0	0	0	0
8月上旬	0	0.3	0	0	0.03	0.02
8月中旬	0	2.7	0	0	0.10	0
9月中旬	0.0	10.4	0	0.0	3.30	0.01

ヒメトビウンカ

	発生圃場率			株当たり虫数		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7月中旬	0	0.3	0	0.03	0.04	0.04
8月上旬	0	0.5	3	0.07	0.08	0.07
8月中旬	0	0.2	0	0.05	0.09	0.05
9月中旬	0	0	0	0.04	0.04	0.04

ツマグロヨコバイ

	発生圃場率			株当たり虫数		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7月中旬	0	2.5	0	0.02	0.10	0.01
8月上旬	3	6.5	3	0.09	0.20	0.11
8月中旬	0	3.8	0	0.01	0.20	0.03
9月中旬	0	1.4	0	0.02	0.07	0.01

コブノメイガ

	発生圃場率			25株当たり被害苞数		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7月中旬	2.6	10.6	14	0.0	0.5	0.3
8月上旬	7.5	22.5	23	0.2	1.4	0
8月中旬	10.0	29.8	37.5	0.3	5.2	5.8
9月中旬	7.7	10.2	18	0.1	3.0	10.0

エ 水稻すくい取り調査結果

(ア) 普通期水稻のウンカ・ヨコバイ類すくい取り調査結果 (2025年4月)

調査場所	調査 月日	ツマグロヨコバイ				ヒメトビウンカ				備 考
		成虫 (雄)	成虫 (雌)	幼虫	計	成虫 (雄)	成虫 (雌)	幼虫	計	
国東市安岐町掛樋	4/16	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4/16	0	0	0	0	0	0	0	0	
速見郡日出町真那井	4/16	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4/16	0	0	0	0	0	0	0	0	
杵築市新庄	4/16	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4/16	0	0	0	0	0	0	0	0	
大分市丹川	4/14	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4/14	0	0	0	0	0	0	0	0	
臼杵市家野	4/11	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4/11	0	0	0	0	0	0	0	0	
臼杵市野津町菅無田	4/11	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4/11	0	0	0	0	0	0	0	0	
佐伯市弥生山梨子	4/11	1	2	0	3	1	0	1	2	
	4/11	0	0	0	0	0	0	0	0	
豊後大野市千歳町前田	4/15	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4/15	0	0	0	0	0	0	0	0	
豊後大野市三重町芦刈	4/11	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4/11	0	0	0	0	0	0	0	0	
豊後大野市緒方町上自在	4/10	5	6	0	11	0	0	0	0	
	4/10	0	1	0	1	0	0	0	0	
竹田市倉木	4/10	4	15	0	19	0	0	0	0	
	4/10	0	0	0	0	0	0	0	0	
竹田市荻町政所	4/10	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4/10	0	0	0	0	0	0	0	0	
玖珠郡九重町恵良	4/14	0	2	0	2	0	0	0	0	
	4/14	0	0	0	0	0	0	0	0	
玖珠郡玖珠町戸畑北山田	4/14	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4/14	0	0	0	0	0	0	0	0	
日田市求来里	4/14	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4/14	0	0	0	0	0	0	0	0	
豊後高田市払田	4/15	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4/15	0	0	0	0	0	0	0	0	
中津市湯屋	4/15	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4/15	0	0	0	0	0	0	0	0	
宇佐市安心院町古市・上市	4/15	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4/15	0	0	0	0	0	0	0	0	
宇佐市上高	4/16	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4/16	0	0	0	0	0	0	0	0	
宇佐市下矢部	4/15	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4/15	0	0	0	0	0	0	0	0	
合 計	40	10	26	0	36	1	0	1	2	
平 均 (ほ場当り)		0.25	0.65	0	0.90	0.025	0	0.025	0.05	
平年値 (ほ場当り)		0.24	0.23	0.00	0.47	0.01	0.01	0.00	0.03	
前年値 (ほ場当り)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

(イ) 早期水稻の斑点米カメムシ類すくい取り調査結果 (2025年6月)

調査場所	調査月日	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		シラホシカメムシ類		その他	合計	備 考
		成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	アカシガシカメ		
杵築市杵築	6/16							1	0	
	6/16			3		1			4	
国東市国東町原	6/16	1		2					3	
	6/16								0	
佐伯市木立	6/20			2	1	2			5	
	6/20					1			1	※ミナミアオカメムシ成虫：1
佐伯市須留木	6/20								0	
	6/20			1		1			2	
豊後高田市草地	6/16			8		20	3	5	31	
	6/16			16	2	1		15	19	※ウズラカメムシ成虫：2
合 計	10	1		35		29		21	65	
平 均		0.1		3.5		2.9		2.1	6.5	
平年値		1.4		0.9		0.2		6.6	2.4	
前年値		0.1		1.1		0.5		0	1.7	

(ウ) 普通期水稻の斑点米カメムシ類すくい取り調査結果 (2025年7~8月)

調査場所	調査 月日	クモヘリ カメムシ		ホソハリ カメムシ		シラホシ カメムシ類		ミナミアオ カメムシ		アサジ カスミカメ	計		備 考
		成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫		成虫	幼虫	
国東市安岐町掛樋	7/31			7		1	1			5	8	1	
	7/31			8		2	1			1	10	1	
速見郡日出町真那井	7/31			1						4	1	0	
	7/31			1						2	1	0	
杵築市新庄	7/31			17	2	6	6			8	23	8	
	7/31	1		7	1	4	8			20	12	9	イネカメ成虫:41
大分市丹川	7/31			1							1	0	
	7/31			4						2	4	0	
臼杵市家野	7/31			2	1					1	2	1	
	7/31			1							1	0	
臼杵市野津町菅無田	7/31			1	1						1	1	イチモンジ成虫:1
	7/31	1		3	1					4	4	1	イチモンジ成虫:2
佐伯市弥生山梨子	7/28	11		9		6	3			13	26	3	
	7/28					1					1	0	
豊後大野市千歳町前田	7/28										0	0	
	7/28										0	0	
豊後大野市三重町芦刈	7/28			1						15	1	0	
	7/28					1				2	1	0	イチモンジ成虫:1
豊後大野市緒方町上自在	7/28									1	0	0	
	7/28										0	0	
竹田市倉木	7/28										0	0	
	7/28										0	0	
竹田市荻町政所	7/28										0	0	
	7/28			1	1						1	1	
玖珠郡九重町恵良	7/30									1	0	0	
	7/30		1	1						2	1	1	
玖珠郡玖珠町戸畑北山田	7/30			1							1	0	
	7/30		2	1		2				3	3	2	
日田市求来里	7/30			3	4	1				1	4	4	
	7/30			4	2	3	2				7	4	
豊後高田市田染	7/30				1					1	0	1	
	7/30									2	0	0	
中津市湯屋	7/30					2	1			6	2	1	
	7/30			1		1				1	2	0	
宇佐市安心院町古市	7/30			1	1						1	1	ブチヒゲ成虫:1
	7/30			4	1	5	2			3	9	3	
宇佐市上高	7/30	3		11	2	6	6			20	20	8	
	7/30			6	2	4	2			10	10	4	
宇佐市下矢部	7/30			14	3	6	11			16	20	14	
	7/30			5	1	1				2	6	1	
合 計	40	16	3	116	24	52	43	0	0	146	184	70	
平 均		0.4	0.1	2.9	0.6	1.3	1.1	0	0	3.7	4.6	1.8	
平年値		0.8	0.1	2.1	0.4	0.3	0.3	0.005	0.004	4.2	3.2	0.8	アサジカスミカメ除く
前年値		1.4	0.2	7.7	1.5	1.0	1.3	0	0.000	9.1	10.1	3.0	

エ 普通作病害虫発生程度別面積（麦類）

病害虫名	栽培面積	発生程度別面積					発生面積率	実防除面積	延防除面積	被害面積	平年比	発生概評	平年発生面積	平年発生面積率
		少	中	多	甚	計								
大麦	ha	ha	ha	ha	ha	ha	%	ha	ha	ha			ha	%
小さび病	2,070	7	0	0	0	7	0.3	0	0	0	52.7	少	14.4	0.6
黄さび病	2,070	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	—	—	0	0
黒さび病	2,070	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	—	—	0	0
うどんこ病	2,070	10	0	0	0	10	0.5	0	0	0	17.2	少	63.5	2.8
赤かび病	2,070	150	1	0	0	151	7.3	2,070	3,105	1	47.3	少	340.4	15.4
斑葉病	2,070	30	0	0	0	30	1.4	0	0	0	33.3	少	95.5	4.3
裸黒穂病	2,070	30	0	0	0	30	1.4	—	—	0	57.4	少	56.0	2.5
黒節病	2,070	20	0	0	0	20	1.0	—	—	0	49.0	少	44.0	2.0
縞萎縮病	2,070	15	0	0	0	15	0.7	—	—	0	68.3	やや少	23.9	1.1
網斑病	2,070	200	25	5	0	230	11.1	500	500	30	72.1	やや少	353.7	15.4
アブラムシ類	2,070	50	0	0	0	50	2.4	1	1	0	13.1	少	405.0	18.4
ハエグサ類	2,070	15	0	0	0	15	0.7	0	0	0	53.2	少	30.0	1.4
小麦	ha	ha	ha	ha	ha	ha	%	ha	ha	ha			ha	%
赤さび病	2,920	30	0	0	0	30	1.0	0	0	0	40.5	少	69.7	2.5
黄さび病	2,920	10	0	0	0	10	0.3	0	0	0	—	—	2.1	0.1
黒さび病	2,920	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	—	—	0.0	0
うどんこ病	2,920	100	0	0	0	100	3.4	0	0	0	26.2	少	360.6	13.1
赤かび病	2,920	670	70	20	1	761	26.1	2,920	4,380	91	122.3	やや多	578.0	21.3
黄斑病	2,920	200	0	0	0	200	6.8	800	800	0	53.8	少	347.3	12.7
裸黒穂病	2,920	40	0	0	0	40	1.4	0	0	0	78.6	やや少	48.0	1.7
縞萎縮病	2,920	1	0	0	0	1	0.0	—	—	0	69.3	やや少	1.4	0.0
アブラムシ類	2,920	80	0	0	0	80	2.7	2	2	0	10.1	少	744.7	27.2
ハエグサ類	2,920	20	0	0	0	20	0.7	0	0	0	40.8	少	45.0	1.7
麦類	ha	ha	ha	ha	ha	ha	%	ha	ha	ha			ha	%
さび病類	4,990	47	0	0	0	47	0.9	0	0	0	54.6	少	86.2	1.7
うどんこ病	4,990	110	0	0	0	110	2.2	0	0	0	26.2	少	424.1	8.4
赤かび病	4,990	820	71	20	1	912	18.3	4,990	7,485	92	97.7	並	918.4	18.7
斑葉病	2,070	30	0	0	0	30	1.4	0	0	0	33.3	少	95.5	4.3
黒穂病類	4,990	70	0	0	0	70	1.4	0	0	0	67.3	やや少	104.0	2.1
黒節病	2,070	20	0	0	0	20	1.0	—	—	0	49.0	少	44.0	2.0
大麦縞萎縮病	2,070	15	0	0	0	15	0.7	—	—	0	68.3	やや少	23.9	1.1
大麦網斑病	2,070	200	25	5	0	230	11.1	500	500	30	72.1	やや少	353.7	15.4
小麦黄斑病	2,920	200	0	0	0	200	6.8	800	800	0	53.8	少	347.3	12.7
小麦縞萎縮病	2,920	1	0	0	0	1	0.0	—	—	0	69.3	やや少	1.4	0.0
アブラムシ類	4,990	130	0	0	0	130	2.6	3	3	0	11.2	少	1,149.7	23.4
ハエグサ類	4,990	35	0	0	0	35	0.7	0	0	0	45.7	少	75.0	1.5

オ 普通作病虫害発生程度別面積（大豆）

病虫害名	栽培面積	発生程度別面積					発生面積率	実防除面積	延防除面積	被害面積	平年比	発生概評	平年発生面積	平年発生面積率
		少	中	多	甚	計								
大豆	ha	ha	ha	ha	ha	ha	%	ha	ha	ha			ha	%
紫斑病	1,340						0.0	1,206	1,206	0	—	—	83.8	4.2
さび病	1,340	5	0	0	0	5	0.4	0	0	0	50.5	少	12.6	0.7
べと病	1,340	750	10	0	0	760	56.7	0	0	10	74.7	やや少	1,269.0	76.0
葉焼病	1,340	30	0	0	0	30	2.2	0	0	0	106.8	並	34.0	2.1
モザイク病	1,340	10	0	0	0	10	0.7	—	—	0	100.0	並	12.5	0.7
アブラムシ類	1,340	50	0	0	0	50	3.7	0	0	0	44.7	少	140.0	8.3
コカシムシ類	1,340	100	0	0	0	100	7.5	0	0	0	48.8	少	253.0	15.3
ハスモンヨトウ	1,340	650	5	0	0	655	48.9	1,340	1,340	5	73.4	やや少	1,097.6	66.6
ハタニ類	1,340	100	10	0	0	110	8.2	0	0	10	99.0	並	137.5	8.3
タノイサヤタマハエ	1,340	—	—	—	—	—	0.0	1,340	1,340	0	—	—	—	—
マメシクイカ	1,340	—	—	—	—	—	0.0	1,340	1,340	0	—	—	—	—
シロイモシマタラメイカ	1,340	—	—	—	—	—	0.0	1,340	1,340	0	—	—	—	—
カメムシ類	1,340	350	20	0	0	370	27.6	1,340	1,474	20	110.1	並	416.0	25.1
ウコンメイカ	1,340	10	0	0	0	10	0.7	1,340	1,340	0	17.5	少	70.0	4.3

イ 病害虫発生程度別面積 (2021年10月1日現在)

(ア) カンキツ

病害虫名	対象品種	栽培面積 A	発生程度別面積 (h a)					発生程度別面積割合 (%)					発生面積率			発生 概評	被害 面積 C-B	防除 面積	延べ 防除 面積
			少 B	中	多	甚	計 C	少 B	中	多	甚	計 C	本年 D(C/A)	平年 E	対比 D/E				
そうか病	温州	720	ha	ha	ha	ha	ha	%	%	%	%	%	%	%	%	平年並	ha	ha	ha
	カボス	530																	
	計	1250	260	30	5	0	295	88.1	10.2	1.7	0.0	100	23.6	24.6	96.0				
かいよう病	カボス	530													平年並	ha	ha	ha	
	夏ミカン	68																	
	ネーブル	14																	
計	612	150	10	5	0	165	90.9	6.1	3.0	0.0	100	27.0	24.8	108.5					
黒点病	全品種	1821	1,620	120	1	0	1,741	93.0	6.9	0.1	0.0	100	95.6	87.4	109.4	平年並	121	1,317	6,587
アブラムシ類	全品種	1821	370	10	1	0	381	97.1	2.6	0.3	0.0	100	20.9	24.3	85.9	平年並	11	546	2,732
ミカンハダニ	全品種	1821	1,050	110	5	0	1,165	90.1	9.4	0.4	0.0	100	64.0	67.3	95.1	平年並	115	546	2,732
ミカンサビダニ	全品種	1821	1,250	130	10	0	1,390	89.9	9.4	0.7	0.0	100	76.3	69.1	110.5	平年並	140	1,275	3,824
ミカンサビダニ	全品種	1821	50	1	0	0	51	98.0	2.0	0.0	0.0	100	2.8	4.2	66.8	やや少ない	1	1,275	3,187
チャノキアザミヤ	全品種	1821	70	1	0	0	71	98.6	1.4	0.0	0.0	100	3.9	4.1	94.1	平年並	1	546	819
カイガラムシ類	全品種	1821	410	15	2	0	427	96.0	3.5	0.5	0.0	100	23.4	24.2	96.7	平年並	17	1,275	1,912
果樹カメムシ類	全品種	1821	100	3	0	0	103	97.1	2.9	0.0	0.0	100	5.7	7.8	72.8	やや少ない	3	911	2,732

(イ) ナシ

病害虫名	対象品種	栽培面積 A	発生程度別面積 (h a)					発生程度別割合 (%)					発生面積率 (%)			発生 概評	被害 面積 C-B	防除 面積	延べ 防除 面積
			少 B	中	多	甚	計 C	少 B	中	多	甚	計	本年 D(C/A)	平年 E	対比 D/E				
		ha	ha	ha	ha	ha	ha	%	%	%	%	%	%	%	%		ha	ha	ha
黒星病	全品種	367	200	10	0	0	210	95.2	4.8	0.0	0.0	100	57.2	68.4	83.6	平年並	10	367	4,037
赤星病	全品種	367	85	3	2	0	90	94.4	3.3	2.2	0.0	100	24.5	18.8	130.2	やや多い	5	367	734
輪紋病	豊水														平年並	0	147	735	
	幸水																		
計		147	9	0	0	0	9	100.0	0.0	0.0	0.0	100	6.1	7.4					83.3
うどんこ病	全品種	367	23	0	0	0	23	100.0	0.0	0.0	0.0	100	6.3	6.3	100.1	平年並	0	367	734
アブラムシ類	全品種	367	130	5	0	0	135	96.3	3.7	0.0	0.0	100	36.8	33.9	108.4	平年並	5	294	587
ニセハダニ	全品種	367	65	1	0	0	66	98.5	1.5	0.0	0.0	100	18.0	16.6	108.4	平年並	1	184	367
ナシハダニ	全品種	367	10	0	0	0	10	100.0	0.0	0.0	0.0	100	2.7	2.1	128.4	やや多い	0	367	1,835
ハダニ類	全品種	367	280	15	0	0	295	94.9	5.1	0.0	0.0	100	80.4	69.7	115.4	平年並	15	367	772
果樹カメムシ類	全品種	367	80	0	0	0	80	100.0	0.0	0.0	0.0	100	21.8	31.8	68.5	やや少ない	0	367	1,158

(ウ) ブドウ

病害虫名	対象品種	栽培面積 A	発生程度別面積 (h a)					発生程度別割合 (%)					発生面積率 (%)			発生概評	被害面積 C-B	防除面積	延べ 防除 面積
			少	中	多	甚	計	少	中	多	甚	計	本年 D(C/A)	平年 E	対比 D/E				
			ha	ha	ha	ha	ha	%	%	%	%	%	%	%	%				
晚腐病	全品種	300	70	1	0	0	71	98.6	1.4	0.0	0.0	100	23.7	28.4	83.3	平年並	1	300	900
黒とう病	全品種	300	37	3	0	0	40	92.5	7.5	0.0	0.0	100	13.3	11.9	111.7	平年並	3	300	900
べと病	全品種	300	240	20	10	0	270	88.9	7.4	3.7	0.0	100	90.0	85.4	105.3	平年並	30	300	1,200
灰色かび病	全品種	300	22	0	0	0	22	100.0	0.0	0.0	0.0	100	7.3	8.4	87.7	平年並	0	300	300
褐斑病	全品種	300	225	30	8	0	263	85.6	11.4	3.0	0.0	100	87.7	53.1	165.2	多い	38	300	900
うどんこ病	全品種	300	55	0	0	0	55	100.0	0.0	0.0	0.0	100	18.3	16.6	110.2	平年並	0	300	300
さび病	全品種	300	13	0	0	0	13	100.0	0.0	0.0	0.0	100	4.3	5.3	82.5	平年並	0	300	600
フザリウムコバイ	全品種	300	60	2	0	0	62	96.8	3.2	0.0	0.0	100	20.7	19.4	106.6	平年並	2	300	600
チャノイロアザミヤ	全品種	300	68	0	0	0	68	100.0	0.0	0.0	0.0	100	22.7	23.3	97.2	平年並	0	300	600
ハダニ類	全品種	300	75	5	1	0	81	92.6	6.2	1.2	0.0	100	27.0	19.4	139.2	やや多い	6	30	45

(エ) 茶

病害虫名	対象品種	栽培面積 A	発生程度別面積 (h a)					発生程度別割合 (%)					発生面積率 (%)			発生概評	被害面積 C-B	防除面積	延べ 防除 面積
			少	中	多	甚	計	少	中	多	甚	計	本年 D(C/A)	平年 E	対比 D/E				
			ha	ha	ha	ha	ha	%	%	%	%	%	%	%	%				
炭疽病	全品種	488	150	30	20	0	200	75.0	17.4	8.7	0.0	100	48.1	51.9	92.7	平年並	60	287	860
もち病	全品種	488	35	5	0	0	40	87.5	25.0	0.0	0.0	100	8.4	9.2	91.4	平年並	10	287	860
輪斑病	全品種	488	60	0	0	0	60	100.0	12.5	0.0	0.0	100	16.7	15.6	107.5	平年並	10	239	239
チャノクモンハマキ	全品種	488	40	20	0	0	60	66.7	33.3	0.0	0.0	100	12.6	17.9	70.3	やや少ない	20	287	344
チャノハマキ	全品種	488	10	2	0	0	12	83.3	16.7	0.0	0.0	100	2.5	3.5	71.7	やや少ない	2	287	344
チャノホソガ	全品種	488	215	20	0	0	235	91.5	17.0	2.1	0.0	100	49.2	40.4	121.6	やや多い	45	335	569
チャノミドリヒメコバイ	全品種	488	160	65	0	0	225	71.1	22.2	6.7	0.0	100	47.1	52.0	90.5	平年並	65	382	688
チャノイロアザミヤ	全品種	488	160	50	0	0	210	76.2	23.8	0.0	0.0	100	43.9	45.0	97.6	平年並	50	382	688
カンザワハダニ	全品種	488	170	100	20	0	290	58.6	34.5	6.9	0.0	100	60.7	49.6	122.3	やや多い	120	430	1,291
クワシカウラムシ	全品種	488	55	26	1	0	82	67.1	30.9	1.2	0.0	100	16.9	12.5	135.5	やや多い	26	96	105.2
チャノゲコウジラムシ	全品種	488	200	160	30	10	400	50.0	40.0	7.5	2.5	100	83.7	79.7	105.1	平年並	200	335	836.5

注) カンキツ、ナシ、ブドウの面積は「平成31年大分の園芸」による。
茶の栽培面積は、大分県農林水産部園芸振興課果樹・花き特用班調べの数値による。

(10) 野菜病害虫の発生及び防除状況

ア 病害虫発生程度別面積 (2025年10月1日現在)

病害虫名	栽培面積	発生程度別面積					実防除面積	延防除面積	被害面積	発生面積率	平年面積率	平年対比	発生概評
		少	中	多	甚	計							
トマト													
球状腐病	155	6	0	0	0	6	-	-	0	3.9	3.6	106.6	平年並
青枯病	155	24	1	0	0	25	78	78	1	16.1	13.7	117.6	平年並
かいよう病	155	17	0	0	0	17	78	116	0	11.0	10.0	109.6	平年並
疫病	155	6	0	0	0	6	78	78	0	3.9	4.1	94.8	平年並
灰色かび病	155	20	1	0	0	21	155	620	1	13.5	14.7	92.0	平年並
葉かび病	155	17	0	0	0	17	155	620	0	11.0	12.8	85.8	平年並
すすかび病	155	80	0	0	0	80	155	775	0	51.6	55.4	93.2	平年並
うどんこ病	155	34	6	3	0	43	155	620	9	27.7	23.6	117.8	平年並
黄化葉巻病	155	3	0	0	0	3	-	-	0	1.9	2.0	98.7	平年並
アブラムシ類	155	3.5	0	0	0	3.5	155	310	0	2.3	2.4	93.9	平年並
アザミヤカ類	155	2	0	0	0	2	155	465	0	1.3	1.7	76.5	やや少
ハダカコナジラミ	155	76	10	0	0	86	155	775	10	55.5	46.7	118.9	平年並
タバココナジラミ	155	14	0	0	0	14	155	775	0	9.0	7.9	114.3	平年並
オオタバコカ	155	6	0	0	0	6	95	190	0	3.9	3.3	118.0	平年並
ハモグリバエ類	155	54	2	0	0	56	155	465	2	36.1	35.8	100.9	平年並
ピーマン (夏秋)													
球状腐病	115	5	0	0	0	5	0	0	0	4.3	6.3	68.9	やや少
黄化えそ病	115	4	3	0	0	7	0	0	3	6.1	5.4	112.4	平年並
青枯病	115	21	1	0	0	22	55	55	1	19.1	16.4	116.3	平年並
斑点細菌病	115	5	0	0	0	5	30	60	0	4.3	6.6	65.6	やや少
軟腐病	115	5	1	0	0	6	115	345	1	5.2	4.7	111.1	平年並
うどんこ病	115	50	10	1	0	61	115	575	11	53.0	58.4	90.8	平年並
灰色かび病	115	3	0	0	0	3	15	30	0	2.6	4.1	63.7	やや少
菌核病	115	2	0	0	0	2	9	18	0	1.7	1.7	100.3	平年並
斑点病	115	95	13	1	0	109	115	575	14	94.8	68.4	138.6	やや多
アブラムシ類	115	35	1	0	0	36	115	575	1	31.3	36.1	86.8	平年並
タバコカ	115	30	1	0	0	31	115	575	1	27.0	23.7	113.8	平年並
ヒラスハナアザミヤカ	115	60	15	2	1	78	115	575	18	67.8	44.4	152.8	多
ミカンキイロアザミヤカ	115	22	5	1	0	28	115	345	6	24.3	22.7	107.3	平年並
タバココナジラミ	115	17	1	0	0	18	80	160	1	15.7	13.7	113.9	平年並
カメムシ類	115	13	1	0	0	14	50	100	1	12.2	14.7	82.9	平年並

病害虫名	栽培面積	発生程度別面積					実防除面積	延防除面積	被害面積	発生面積率	平年面積率	平年対比	発生概評
		少	中	多	甚	計							
ねぎ (秋冬)													
さび病	710	220	5	0	0	225	710	1420	5	31.7	40.5	78.2	やや少
黒斑病	710	200	60	10	0	270	710	2130	70	38.0	34.0	111.7	平年並
べと病	710	200	50	0	0	250	710	2130	50	35.2	55.5	63.5	やや少
小菌核腐敗病	710	70	5	0	0	75	710	1420	5	10.6	14.9	70.9	やや少
シロイモシヨウ	710	170	100	40	0	310	710	2130	140	43.7	41.7	104.6	平年並
アブラムシ類	710	15	0	0	0	15	50	50	0	2.1	3.3	64.8	やや少
ネギハモグリバエ	710	360	60	40	0	460	710	2130	100	64.8	57.1	113.5	平年並
ネギアザミヤ	710	390	140	70	5	605	710	2130	215	85.2	70.0	121.7	やや多
ハスモンヨウ	710	30	5	0	0	35	710	710	5	4.9	5.2	94.4	平年並
ネギコガ	710	85	15	0	0	100	710	710	15	14.1	19.4	72.4	やや少
いちご													
うどんこ病	65	17	1	0	0	18	65	260	1	27.7	35.1	78.9	やや少
灰色かび病	65	15	3	1	0	19	65	325	4	29.2	38.5	75.9	やや少
菌核病	65	2.0	0	0	0	2.0	22	22	0	3.0	3.3	92.1	平年並
萎黄病	65	8	2	1	0	11	65	65	3	16.9	16.3	103.8	平年並
炭疽病	65	9	3	1	0	13	65	455	4	20.0	19.6	102.0	平年並
アブラムシ類	65	16	2	0	0	18	65	130	2	27.7	33.7	82.2	平年並
ハスモンヨウ	65	13	1	0	0	14	65	65	1	21.5	22.8	94.5	平年並
ハダニ類	65	30	9	3	1	43	65	195	13	66.2	73.5	90.0	平年並
アザミヤ類	65	11	3	2	2	18	65	325	7	27.7	20.9	132.5	やや多
コシジラミ類	65	7	1	0	0	8	65	65	1	12.3	12.8	96.2	平年並

(11) 予察圃場等に関する調査

ア 水稻

(ア) 予察圃場の耕種概要

病虫害予察圃場の概要

圃場設置場所	豊後大野市三重町赤嶺 農業大学校圃場
供試品種	なつほのか、つや姫、ヒノヒカリ
種子消毒方法	5月18日 温湯消毒(60℃、10分)
浸種月日・条件	5月18日～5月23日 室内にて浸種
播種月日・播種量	5月23日、乾籾重120g/箱
床土の種類	水稻培土(清新産業)
出芽条件	平置き出芽(太陽シート)
移植月日・移植方法	6月14日 稚苗機械植え
栽植密度	栽植密度 15.4株/m ²
施肥	
基肥	化成肥料14-14-14 28.5kg/10a(成分量N:4.0kg/10a、P ₂ O ₅ :4.0kg/10a、K ₂ O:4.0kg/10a)(6月13日)
追肥(穂肥)	化成肥料16-0-16 16.0kg/10a 施用(8月12日)
中干し期間	—
出穂期	なつほのか(8月15日)、つや姫(8月10日) ヒノヒカリ(8月22日)

(イ) 病虫害に関する調査成績

a いもち病

予察田では、葉いもちは、‘ヒノヒカリ’において8月5日の調査で認められた。その後の発生は認められず、発病株率、発病度とも9月下旬まで平年より低く推移した。穂いもちの発生は認められなかった。イネ葉いもち発生予測モデル(BLASTAM)によると各アメダス観測地点での葉いもち感染好適条件は、6月上旬に県内の大半の地点(国見、中津、院内、杵築、日田、玖珠、由布院、犬飼、竹田、佐伯、宇目、蒲江)で複数回出現したが、6月下旬以降はほとんど出現しなかった。

予察田におけるいもち病発生状況(2025)

いもち病		なつほのか				つや姫				ヒノヒカリ			
		発生株率		発病度 発病穂率		発生株率		発病度 発病穂率		発生株率		発病度 発病穂率	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月	上旬	0	0.8	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0
	中旬	0	12.4	0	2.1	0	0	0	0	0	9.8	0	3.8
	下旬	0	47	0	15.8	0	0	0	0	0	37.7	0	9.8
8月	上旬	0	73.2	0	27.8	0	0	0	0	2.7	64.6	0.7	15.7
	中旬	0	62.4	0	15.6	0	0	0	0	0	49.9	0	16.0
	下旬	0	45.4	0	19.1	0	0	0	0	0	41.9	0	23.4
9月	上旬	0	10.4	0	1.1	0	0	0	0	0	2	0	0.2
	中旬	0	28.8	0	2.4	0	0	0	0	0	4.3	0	0.3
	下旬	0	28.2	0	3.1	0	0	0	0	0	23.5	0	1.7

※ 平年値は2015～2024年の平均値、‘なつほのか’の平年値は‘ひとめぼれ’2015～2024年の平均値、‘つや姫’は2017年欠測
 ※ 8月下旬までは発病度、9月以降は発病穂率

b 紋枯病

紋枯病の初発生は、‘ヒノヒカリ’では7月14日に、‘なつほのか’、‘つや姫’では7月25日に確認された。発病株率、病斑高率とも平年より高く推移した。

予察田における紋枯病発生状況(2025)

紋枯病		なつほのか				つや姫				ヒノヒカリ			
		発生株率		平均病斑高率		発生株率		平均病斑高率		発生株率		平均病斑高率	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月	上旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中旬	0	0	0	0	0	0	0	0	4.0	0	0.9	0
	下旬	16.0	0	3.0	0	6.0	0	1.0	0	8.0	0	1.6	0
8月	上旬	10.0	0	17.9	0.2	8.0	0.4	16.8	0	6.0	0	17.4	0
	中旬	18.0	0.8	22.8	3.5	12.0	1.8	23.1	2.3	14.0	1.0	24.5	0.1
	下旬	20.0	2.8	33.6	9.2	18.0	4.2	37.2	14.0	14.0	3.0	33.6	4.4
9月	上旬	16.0	3.9	52.2	16.1	16.0	4.1	61.6	18.2	10.0	3.9	44.2	13.3
	中旬	63.8	8.2	63.8	24.8	57.2	10.7	57.2	21.0	14.0	6.1	46.1	16.3
	下旬	18.0	13.2	52.6	30.3	22.0	15.5	42.7	30.7	10.0	13.5	64.3	12.4

※ 平年値は2015～2024年の平均値、‘なつほのか’の平年値は‘ひとめぼれ’2015～2024年の平均値、‘つや姫’は2017年欠測

c もみ枯細菌病、内穎褐変病

もみ枯細菌病は認められなかった。内穎褐変病は少発生が認められた。(データ省略)。

d セジロウンカ

予察田における初誘殺は7月1日(平年7月8日)で平年より早く、総誘殺数は平年並であった。巡回調査では、栽培期間中を通しておおむね平年より少なく推移した。予察田での発生量は期間中を通しておおむね平年より少なく推移した。

予察田におけるセジロウンカの発生状況(2025)

		7月上	7月中	7月下	8月上	8月中	8月下	9月上	9月中	9月下
		7/4	7/15	7/25	8/5	8/15	8/25	9/3	9/16	9/29
本年	成虫	0.33	0	0	0	0	0	0	0.33	0
	幼虫	0	2.00	0.00	0.67	0.33	0	0	0	0
	計	0.33	2.00	0.00	0.67	0.33	0	0	0.33	0
平年	成虫	0.03	1.42	1.50	5.60	4.38	10.02	9.67	4.27	1.53
	幼虫	0.00	4.47	21.98	28.92	32.90	41.43	32.85	18.55	27.80
	計	0.03	5.88	23.48	34.52	37.28	51.45	38.27	22.82	29.33
平年比 (%)	成虫	0	0	0	0	0	0	0	7.81	0
	幼虫	0	44.78	0	2.31	1.01	0	0	0	0
	計	0	33.99	0	1.93	0.89	0	0	1.46	0

注1) 数値は25株当たりの生息虫数

2) 平年値は豊後大野市三重町における2015～2024年の10年間平均値

e トビイロウンカ

予察灯における初誘殺は6月15日（平年8月3日）で平年より早く、その後の誘殺は平年より少なく推移した。巡回調査では、平年より少なく推移した。予察田では、発生が確認されなかった。

予察田におけるトビイロウンカの発生状況（2025）

		7月上 7/4	7月中 7/15	7月下 7/25	8月上 8/5	8月中 8/15	8月下 8/25	9月上 9/3	9月中 9/16	9月下 9/29
本年	成虫	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	幼虫	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平年	成虫	0	0.03	0	0.47	0.47	0.57	29.96	27.37	8.97
	幼虫	0	0	0.63	3.93	4.77	52.03	49.11	121.12	71.88
	計	0	0.03	0.63	2.93	5.23	52.60	71.17	148.48	80.85
平年比 （%）	成虫	#DIV/0!	0	#DIV/0!	0	0	0	0	0	0
	幼虫	#DIV/0!	#DIV/0!	0	0	0	0	0	0	0
	計	#DIV/0!	0	0	0	0	0	0	0	0

注1) 数値は25株当たりの生息虫数

2) 平年値は豊後大野市三重町における2015～2024年の10年間平均値

3) 10月上旬の平年値については2017年の大量発生（11,982頭/25株）に伴う増加である

4) 表中の#DIV/0!については、平年が0のため平年比が計算できない事を示す

f ヒメトビウンカ

予察灯における初誘殺は6月25日（平年6月29日）で平年より早く、総誘殺数は平年より多かった。巡回調査では、発生圃場率は平年より低く、株当たり虫数は平年並～平年より少なく推移した。予察田では、7月上中旬、9月上旬を除き平年より少なく推移した。4月中旬に行ったすくい取り調査では、40圃場中1圃場で成幼虫計2頭が確認された。

予察田におけるヒメトビウンカの発生状況（2025）

		7月上 7/4	7月中 7/15	7月下 7/25	8月上 8/5	8月中 8/15	8月下 8/25	9月上 9/3	9月中 9/16	9月下 9/29
本年	成虫	1.00	0.33	0.67	1.00	0.33	0	3.67	1.33	0
	幼虫	0	5.00	7.33	1.33	1.33	4.00	18.67	6.00	2.00
	計	1.00	5.33	8.00	2.33	1.67	4.00	22.33	7.33	2.00
平年	成虫	0.30	0.75	0.67	1.98	3.18	3.03	3.39	5.47	1.55
	幼虫	0.03	4.40	9.76	15.13	15.77	19.95	13.15	15.53	10.27
	計	0.33	5.15	10.43	17.12	18.95	22.98	14.88	21.00	11.82
平年比 （%）	成虫	333.33	44.44	100.00	50.43	10.47	0	108.20	24.39	0
	幼虫	0	113.64	75.11	8.81	8.46	20.05	141.97	38.63	19.48
	計	300.00	103.56	76.70	13.63	8.80	17.40	150.06	34.92	16.93

注1) 数値は25株当たりの生息虫数

2) 平年値は豊後大野市三重町における2015～2024年の10年間平均値

g ツマグロヨコバイ

予察灯における初誘殺は5月28日（平年6月3日）で平年より早く、総誘殺数は平年並であった。巡回調査では、平年より少なかった。予察田では、7月上旬、9月上旬を除き平年より少なく推移した。4月中旬に行ったすくい取り調査では、40圃場中5圃場で成幼虫計36頭が確認された。

予察田におけるツマグロヨコバイの発生状況（2025）

		7月上	7月中	7月下	8月上	8月中	8月下	9月上	9月中	9月下
		7/4	7/15	7/25	8/5	8/15	8/25	9/3	9/16	9/29
本年	成虫	0.33	0	0.33	0	1.33	1.00	2.67	2.67	1.67
	幼虫	1.67	2.00	1.00	7.67	4.00	0.67	21.00	11.67	3.33
	計	2.00	2.00	1.33	7.67	5.33	1.67	23.67	14.33	5.00
平年	成虫	0.00	0.13	0.43	1.02	1.38	4.03	4.04	2.40	1.82
	幼虫	0.20	2.13	2.00	16.38	37.52	29.50	20.89	35.80	24.87
	計	0.20	2.27	2.43	17.40	38.90	33.53	22.43	38.20	26.68
平年比 （%）	成虫	#DIV/0!	0	76.92	0	96.36	24.79	66.06	111.10	91.73
	幼虫	833.33	93.75	50.00	46.80	10.66	2.26	100.53	32.59	13.40
	計	1000.00	88.24	54.79	44.06	13.71	4.97	105.50	37.52	18.74

注1) 数値は25株当たりの生息虫数

2) 平年値は豊後大野市三重町における2015～2024年の10年間平均値

3) 表中の#DIV/0!については、平年が0のため平年比が計算できない事を示す

h コブノメイガ

普通期水稻の巡回調査では、発生圃場率は低く、25株当たり被害苞数は少ない～やや少なくて推移した。予察田では、発生が確認されなかった。

		7月上	7月中	7月下	8月上	8月中	8月下	9月上	9月中	9月下
		7/4	7/15	7/25	8/5	8/15	8/25	9/3	9/16	9/29
本年	苞数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平年	苞数	0.00	1.0	0.0	2.3	2.7	0.0	0.0	0.0	0
平年比(%)		#DIV/0!	0.0	#DIV/0!	0.0	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

注1) 数値は25株当たりの被害苞数

2) 平年値は豊後大野市三重町における2015～2024年の10年間平均値

3) 表中の#DIV/0!については、平年が0のため平年比が計算できない事を示す

i フタオビコヤガ

予察灯では調査期間を通して誘殺されなかった。巡回調査では、おおむね平年より少なくて推移した。予察田でも調査期間を通して幼虫は確認されなかった。

予察田におけるフタオビコヤガの発生状況（2025）

		7月上	7月中	7月下	8月上	8月中	8月下	9月上	9月中	9月下
		7/4	7/15	7/25	8/5	8/15	8/25	9/3	9/16	9/29
本年	幼虫	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平年	幼虫	0	0.3	0.2	1.2	2.1	1.4	0.1	0.2	0
平年比(%)		#DIV/0!	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!

注1) 数値は25株当たりの生息虫数

2) 平年値は豊後大野市三重町における2015～2024年の10年間平均値

3) 表中の#DIV/0!については、平年が0のため平年比が計算できない事を示す

j 斑点米カメムシ類

7月28日～31日に行ったすくい取り調査では、1か所あたり斑点米カメムシ類成幼虫計6.4頭で平年（4.0頭）と比較して多かった。

予察灯における主要害虫の誘殺状況（2025）

豊後大野市三重町60w白熱灯

月	半旬	セジロウンカ				トビイロウンカ				ヒメトビウンカ				ツマグロヨコバイ				フタオビコヤガ		
		♂	♀	計	平年値	♂	♀	計	平年値	♂	♀	計	平年値	♂	♀	計	平年値	計	平年値	
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0
	6	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	1	1	1.0	0	0	0
6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.7	0	0	
	2	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.6	0	3	3	3.9	0	0	0	
	3	0	0	0	0.2	0	1	1	0	0	0	0	0	7	14	21	4.3	0	0	
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	4	1.7	0	0	
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0.4	0	0	
	6	0	0	0	0.3	0	0	0	0.0	2	1	3	0.1	0	0	0	0.0	0	0	0
7	1	0	1	1	0.1	0	0	0	0	5	2	7	0.2	0	0	0	0.4	0	0.1	
	2	0	0	0	0.6	0	0	0	0.8	0	0	0	0.3	0	0	0	0.3	0	0.1	
	3	0	1	1	2.6	0	0	0	0.6	1	0	1	0.0	0	1	1	0.5	0	0.3	
	4	0	2	2	0.9	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3	1.5	0	0.2	
	5	0	1	1	1.0	0	0	0	0.2	0	1	1	0.6	1	1	2	5.4	0	0.5	
	6	0	0	0	0.9	0	0	0	0.1	0	0	0	0.4	1	1	2	7.4	0	0.9	
8	1	1	0	1	1.7	0	0	0	1.2	2	0	2	0.5	3	1	4	7.3	0	2.4	
	2	22	5	27	1.3	2	0	2	1.0	1	0	1	0.2	7	7	14	8.6	0	8.7	
	3	16	6	22	11.4	0	2	2	0.6	0	0	0	0.6	5	7	12	17.6	0	13.4	
	4	4	2	6	1.4	0	0	0	0.5	1	0	1	0.7	4	2	6	10.6	0	5.4	
	5	1	2	3	5.6	0	0	0	1.3	3	0	3	1.2	2	5	7	9.2	0	4.1	
	6	0	1	1	9.0	0	0	0	3.8	1	0	1	1.3	2	0	2	17.0	0	1.5	
9	1	0	0	0	7.0	0	0	0	4.7	0	0	0	0.7	1	0	1	11.1	0	1.8	
	2	2	4	6	8.2	0	0	0	39.6	0	0	0	1.0	4	9	13	17.0	1	0.2	
	3	2	3	5	10.7	0	0	0	39.1	3	0	3	0.9	11	10	21	21.7	0	0.1	
	4	0	0	0	11.7	0	0	0	10.5	0	0	0	1.0	5	13	18	12.8	0	0.1	
	5	1	0	1	9.9	0	0	0	3.3	0	1	1	0.1	1	8	9	6.7	0	0	
	6	0	3	3	4.9	0	0	0	27.1	1	0	1	0	3	2	5	4.8	0	0.1	
10	1	0	0	0	4.3	0	0	0	28.0	0	0	0	0.9	5	7	12	5.0	0	0.1	
	2	0	0	0	1.5	0	0	0	16.6	0	0	0	0.3	0	2	2	2.2	0	0	
	3	0	0	0	0.2	0	0	0	65.9	0	0	0	0.2	0	2	2	0.8	0	0	
	4	0	0	0	0.2	0	0	0	1.6	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	
	5	0	0	0	0.5	0	0	0	1.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	6	0	0	0	0.1	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		62	31	80	96.2	62	3	5	247.8	62	6	26	12.4	62	100	165	181.6	1	40.0	

注1. 平年値は♀+♂の合計数であり、2015～2024年のデータを用い平年値を算出している。

イ 麦類

(ア) 予察圃場の耕種概要

病害予察圃場の概要（麦類）

供試品種	裸麦：トヨノホシ、ハルアカネ 大麦：サチホゴールドデン、ニシノホシ 小麦：チクゴイズミ、はるみずき
播種月日	令和6年11月21日
播種量	7.5g/m ² /1品種
播種方法	六条植
圃場面積	14m ² /1品種
施肥	令和6年11月12日に化成肥料（14-14-14）40kg/10a
出穂期	トヨノホシ：4月3日、ハルアカネ：4月4日 サチホゴールドデン：3月30日、ニシノホシ：4月1日 チクゴイズミ：4月8日、はるみずき：4月8日

(イ) 病害虫に関する調査成績

- a 赤かび病
発生は認められなかった。
- b さび病類、うどんこ病
発生は認められなかった。
- c 網斑病、黄斑病
令和7年4月4日に‘はるみずき’で黄斑病の初発生が認められた。
また、4月14日に‘ニシノホシ’で、4月25日に‘サチホゴールドデン’
‘トヨノホシ’‘ハルアカネ’で網斑病の初発生が認められた。
- d 黒穂病類
発生は認められなかった。
- e アブラムシ類
令和7年4月4日に‘チクゴイズミ’‘はるみずき’で、4月25日に‘ハルアカネ’でアブラムシ類を初確認した。
- f 斑葉病
発生は認められなかった。
- g その他の病害虫
発生は認められなかった。

県予察圃場における麦類病害虫発生状況（令和7年度、令和6年播種）

品種	麦種	出穂期	調査 月日	赤かび病		赤さび病		うどんこ病		黒穂病類		網斑病・黄斑病		アブラムシ類		備考		
				発病粒 率	発生 程度	発病 度	発生 程度	発病 度	発生 程度	発病 茎率	発生 程度	発病 度	発生 程度	寄生 程度	発生 程度			
サチホゴールド	二条大麦	4/3	4/4															
			4/14															
			4/25									0.3	微					
			5/7									22.0	少					
			5/15															※赤かび病のみ調査
			5/23													※赤かび病のみ調査		
ニシノホシ	二条大麦	4/3	4/4															
			4/14															
			4/25									0.3	微					
			5/7									5.7	少					
			5/15									52.3	多					※赤かび病のみ調査
			5/23													※赤かび病のみ調査		
トヨノホシ	裸麦	4/3	4/4															
			4/14															
			4/25										14.7	少				
			5/7										34.0	中				
			5/15															※赤かび病のみ調査
			5/23													※赤かび病のみ調査		
ハルアカネ	裸麦	4/8	4/4															
			4/14															
			4/25										0.3	微	5.0	少		
			5/7										8.0	少				
			5/15															※赤かび病のみ調査
			5/23													※赤かび病のみ調査		
チクゴイズミ	小麦	4/13	4/4											1.0	少			
			4/14												1.0	少		
			4/25															
			5/7															
			5/15															※赤かび病のみ調査
			5/23													※赤かび病のみ調査		
はるみずき	小麦	4/13	4/4										4.0	少	1.0	少		
			4/14											4.3	少			
			4/25											6.7	少			
			5/7											5.3	少			
			5/15															※赤かび病のみ調査
			5/23													※赤かび病のみ調査		

ウ 大豆

(ア) 予察ほ場の耕種概要

ほ場面積：2.8a（14m×20m）

品 種：ちくしB5号

播 種：7月14日（手播）

栽植密度：条間70cm×株間21cm 2粒播種

施 肥：豆化成50kg/10a

種子消毒：クルーザーMAXX（8ml/kg）6月28日

除 草 剤：ラクサー乳剤（500ml/100L/10a）播種直後

中耕培土：8月13日（歩行型管理機）

(イ) 病虫害発生状況調査

病虫害発生状況は、8月5日から10月15日までの間、概ね10日間隔でランダムに抽出した50株についてカメムシ類、ハスモンヨトウの生息虫数を見取りで調査した。ハスモンヨトウは農林水産研究指導センターの本館屋上に乾式トラップ（旧住化武田農薬株式会社製）を設置し、4～11月の間に雄成虫の誘殺数を調査した。大豆予察ほ場における子実の病虫害被害状況は、収穫時に圃場内10地点から1株ずつ（1株1茎）計10茎の子実を採取・分解し、病虫害別に被害粒率を算出した。

a カメムシ類

大豆予察ほ場では、イチモンジカメムシは9月3日に、アオクサカメムシは9月29日に、ミナミアオカメムシは9月16日に、ホソヘリカメムシは9月16日にそれぞれ初確認された。カメムシ類は9月下旬までは平年より少なく推移したが、10月上旬、10月中旬は平年より多かった。子実分解調査の結果、カメムシ類による被害粒率は53.0%（平年19.4%）で、平年に比べ多かった。

b ハスモンヨトウ

乾式フェロモントラップでは、4月4半旬に初誘殺を確認した。5月5半旬および8月3半旬に平年を超える誘殺が認められたものの、概ね平年より少なく推移し、誘殺のピークは11月5、6半旬に認められ、平年並の殺数が認められた。予察圃場において発生は認められず、平年より少なかった。

c シンクイムシ類

子実分解調査の結果、被害粒率3.9%（平年9.3%）であり、平年に比べ被害が少なかった。

d 紫斑病

子実分解調査の結果、被害粒率4.6%（平年2.6%）であり、平年に比べ被害が多かった。

e モザイク病（褐斑粒）

子実分解調査の結果、被害粒は認められなかった（平年の被害粒率1.4%）。

予察ほ場における害虫の発生調査結果(2025)

害虫名		8月上旬	8月中旬	8月下旬	9月上旬	9月中旬	9月下旬	10月上旬	10月中旬	
		8月5日	8月15日	8月25日	9月3日	9月16日	9月29日	10月6日	10月15日	
イチモンジカメムシ	幼虫	本年	0	0	0	0	0	0	6	
		平年	0	0	0	0	0.1	0.2	1.9	6.0
	成虫	本年	0	0	0	2	2	3	3	5
		平年	0	0	1.2	1.7	2.7	0.8	0.9	0.3
アオクサカメムシ	幼虫	本年	0	0	0	0	0	0	0	
		平年	0	0	0.2	0.3	1.1	1.5	7.4	2.5
	成虫	本年	0	0	0	0	0	1	0	0
		平年	0	0	0.7	1.3	1.6	3.7	1.4	1.4
ミナミアオカメムシ	幼虫	本年	0	0	0	0	0	1	3	0
		平年	0	0	0	0	0	0.6	2.1	0
	成虫	本年	0	0	0	0	1	2	15	0
		平年	0	0	0	0.2	0.1	0.9	1.0	0.6
ホソヘリカメムシ	幼虫	本年	0	0	0	0	0	2	1	1
		平年	0	0	0.1	0.1	0	1.0	1.0	0.4
	成虫	本年	0	0	0	0	1	0	2	1
		平年	0	0	0.3	0.6	0.6	1.2	0.4	0.7
カメムシ類計	幼虫	本年	0	0	0	0	0	3	4	7
		平年	0	0	0.3	0.4	1	3.3	12.4	9.2
	成虫	本年	0	0	0	2	4	6	20	6
		平年	0	0	2.2	3.8	5.0	6.6	3.7	3.0
ハスモンヨトウ	卵塊	本年	0	0	0	0	0	0	0	0
		平年	0	0	0	0	0.0	0.5	0	0
	幼虫	本年	0	0	0	0	0	0	0	0
		平年	0	0	0.9	1.4	128.4	89.3	21.8	0.5

注1) 数値は50株当たりの生息虫数

注2) 平年値は過去10年間(2015~2024年)の豊後大野市三重町赤嶺のデータ

注3) 播種は7月14日

予察ほ場における子実分解調査結果(2025)

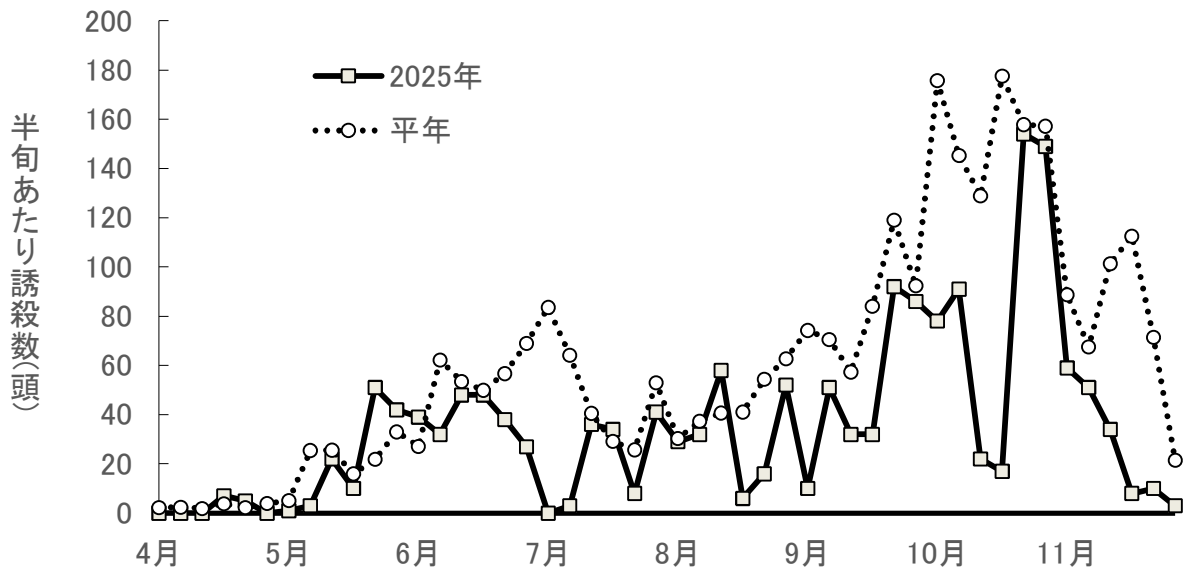
調査年	調査 実数	調査 粒数	健全		被害		病害		紫斑		褐斑		その他		害虫		カミシ		シクイ		ハスモン		カメムシ		その他		その他		ダイズ サヤマ ハエ被 害実数	同率 (%)	
			粒数	同率 (%)	被害 粒数	同率 (%)	被害 粒数	同率 (%)	紫斑 病	同率 (%)	褐斑 粒	同率 (%)	その他 病害	同率 (%)	害虫 被害 粒数	同率 (%)	カミシ 類	同率 (%)	シクイ ムシ 類	同率 (%)	ハスモン ヨトウ	同率 (%)	カメムシ ヒメムシ	同率 (%)	その他 害虫	同率 (%)	その他 被害 粒数	同率 (%)			
本年	25.6	48.0	18.5	29.5	61.5	2.2	4.6	2.2	4.6	0	0	0	0	27.3	56.9	25.5	53.0	1.9	3.9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前年	34.7	42.1	13.4	28.7	68.2	8.9	21.1	7.8	18.5	0	0	1.1	2.6	19.7	46.8	17.4	41.3	1.3	3.1	0	0	0	0	1.0	2.4	0.1	0.2	2.9	8.4		
平年	61.9	73.0	37.1	38.9	53.2	11.7	16.0	1.9	2.6	1.0	1.4	8.7	12.0	23.7	32.5	14.2	19.4	6.8	9.3	0.4	0.6	1.4	2.0	0.8	1.2	0.6	0.8	1.9	3.0		

備考: 数値は1茎当たりの平均値。調査実数は総実実数。ダイズサヤタマハエは被害粒数ではなく被害実数。

乾式フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺数（頭）（2025年）

月	半旬	誘殺数		月	半旬	誘殺数		月	半旬	誘殺数	
		本年	平年			本年	平年			本年	平年
4	1	0	2.2	7	1	0	83.5	10	1	78	175.7
	2	0	2.4		2	3	64.1		2	91	145.2
	3	0	1.9		3	36	40.5		3	22	128.9
	4	7	3.8		4	34	29.1		4	17	177.5
	5	5	2.3		5	8	25.7		5	154	157.8
	6	0	3.9		6	41	52.9		6	149	157.2
5	1	1	5.1	8	1	29	30.3	11	1	59	88.7
	2	3	25.4		2	32	37.3		2	51	67.5
	3	22	25.6		3	58	40.6		3	34	101.4
	4	10	16.0		4	6	41.1		4	8	112.5
	5	51	21.9		5	16	54.3		5	10	71.4
	6	42	33.0		6	52	62.7		6	3	21.5
6	1	39	27.1	9	1	10	74.2	計		1,667	2,926.6
	2	32	62.2		2	51	70.5				
	3	48	53.5		3	32	57.3				
	4	48	49.9		4	32	84.0				
	5	38	56.7		5	92	119.0				
	6	27	68.9		6	86	92.4				

*平年値は2015年から2024年の豊後大野市三重町における10年間の平均データ



ハスモンヨトウ誘殺数の推移（2025年）

エ 果樹

(ア) 予察圃場における発生状況

a 目的

果樹の主要病害虫の発生状況を調査し、定期的な予察情報を発表するとともに、状況に応じ注意報や防除技術情報等を的確かつ迅速に情報提供するための基礎資料とする。

b 調査方法

(a) 調査場所 果樹グループ内（宇佐市）ナシおよびウメ栽培圃場、病害虫圃場

(b) 対象病害虫

【病害】ナシ黒星病、ブドウベと病

【害虫】ナシヒメシクイ、チャノコカクモンハマキ、アザミウマ類

(c) 調査方法

【病害】

ナシ黒星病

無防除‘豊水’29年生において、芽基部病斑を約100芽基部（3反復）調査し、芽基部病斑率を算出した。

ブドウベと病

無防除‘巨峰’33年生において、6月以降10日間隔で100葉（3反復）について、発病の有無を調査した。

【害虫】ナシヒメシクイはウメ園とナシ園内に、チャノコカクモンハマキはナシ園に粘着式フェロモントラップを各1基、アザミウマ類はブドウ園に粘着トラップ（ホリバー黄）を設置し、半旬ごとの誘殺数を調査した。なおルアーおよび粘着シートは1か月毎に交換した。

c 結果及び考察

【病害】

(a) ナシ黒星病の芽基部病斑率は0%で平年より少なかった（表1）。また、幼果、葉の発病は5月中旬に確認され、平年よりかなり遅かった（データ略）。

(b) ブドウベと病の初発生は6月16日だった（データ略）。

【害虫】

(a) ナシヒメシクイはナシ園において4月、5月～6月上旬、7月～9月上旬と3回ピークが認められた。平年並よりやや誘殺数が多かった（図1）。ウメ園において4月上旬、6月上旬、7月～9月までの3回ピークが認められ、全体の誘殺数は平年並であった（図2）。

(b) チャノコカクモンハマキは4月下旬～10月まで断続的に発生し、7月中旬に大きなピークが認められ、ピーク時は平年を大きく上回った。全体の誘殺数は平年よりやや少なかった（図3）。

(c) チャノキイロアザミウマは初誘殺を7月2半旬に発生を確認した。全体の誘殺数は平年より少なかった（図4）。

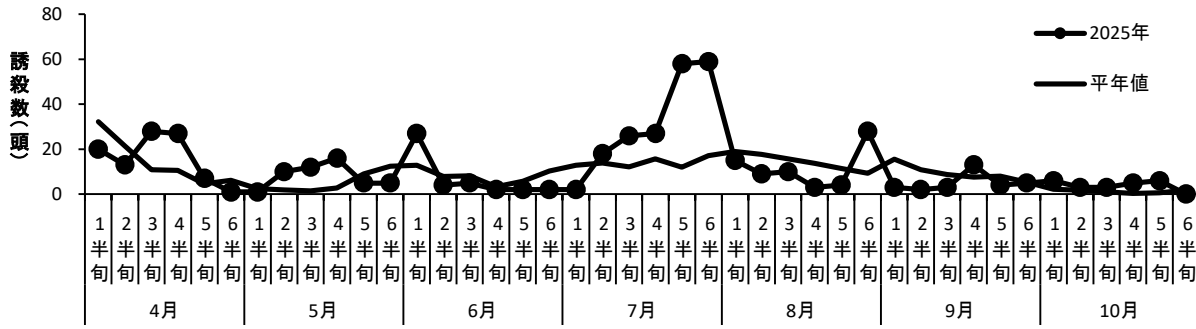


図1 ナシヒメシנקイの発生消長（ナシ園）

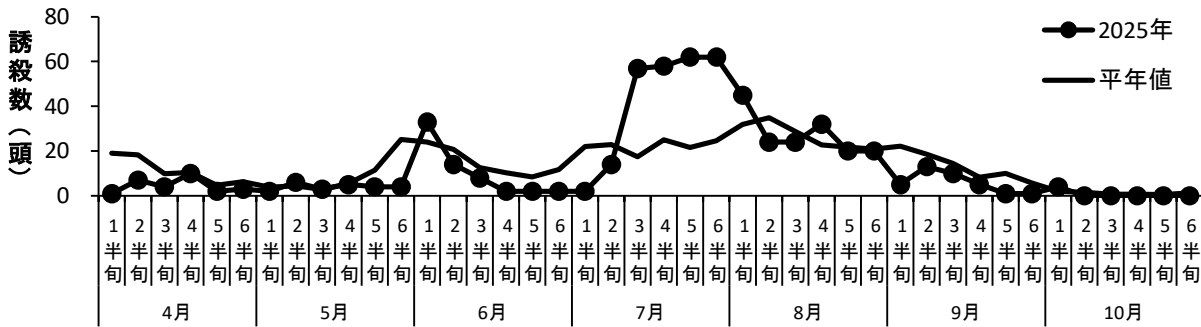


図2 ナシヒメシנקイの発生消長（ウメ園）

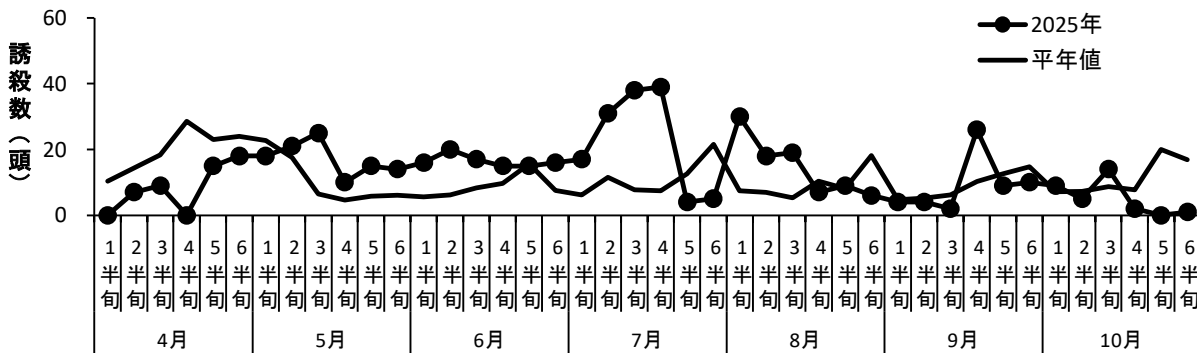


図3 チャノコカクモンハマキの発生消長

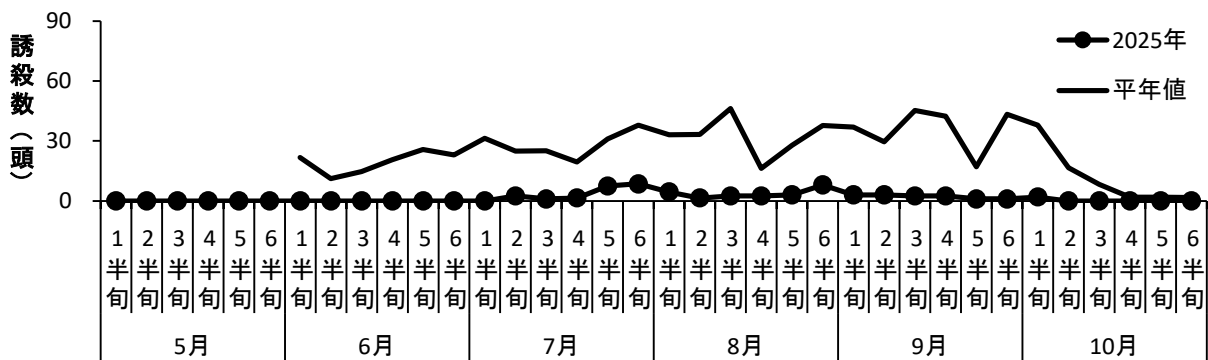


図4 チャノキイロアザミウマの発生消長

表 1 無防除‘豊水’の満開日と黒星病発生状況

※平年値は最新年を除いた直近 10 年の平均。

年	満開日	黒星病芽基部病斑		
		初確認日	調査日	病斑率(%)
2000	4/13	4/20	4/20	2.1
2001	4/10	4/17	4/27	5.9
2002	4/2	4/10	4/24	8.7
2003	4/11	4/9	4/24	12.0
2004	4/5	4/20	4/22	4.0
2005	4/11	4/14	4/21	3.3
2006	4/11	4/11	4/21	2.5
2007	4/4	4/9	4/20	1.0
2008	4/11	4/9	4/21	3.6
2009	3/30	4/20	4/20	0.5
2010	3/30	4/22	4/26	2.7
2011	4/11		4/20	0
2012	4/12	4/18	4/18	0.4
2013	4/3	4/16	4/26	4.8
2014	4/6		4/24	0.7
2015	4/6	4/20	5/1	10.3
2016	4/5	4/21	4/28	1.3
2017	4/14		4/28	0
2018	4/2		4/27	2.6
2019	4/5		4/26	0.3
2020	4/7		4/28	0
2021	3/29	4/21	4/21	6.5
2022	4/4		4/26	0
2023	4/1	4/12	4/28	4.3
2024	4/5	4/26	4/30	0.1
2025	4/7		4/30	0
平年	4/4	4/20		2.5

(イ) 果樹カメムシ類の発生状況調査

フェロモントラップ誘殺数調査

県果樹試験場3地点にフェロモントラップを設置し、4～10月の半旬ごとに誘殺された果樹カメムシ類を種別に調査した。トラップは、サンケイ化学コガネコントロール用誘引器（黄色）を使用し、フェロモンルアーは、約30日間隔で交換した。

ヒノキ毬果における口針鞘数調査

日田市、宇佐市において7月と8月の下旬に、ヒノキ毬果における口針鞘数を調査した。調査は、1地点当たり3樹、1樹当たり概ね5枝から採取した毬果のうち任意の20果を、酸性フクシン水溶液0.1%で染色した後、縫合部に形成された口針鞘を顕鏡、計数した。

越冬量調査

2026年1月に6地点、チャバネアオカメムシ成虫の越冬量を調査した。調査は、1地点当たり1m²の落葉を3か所採取し、ビニール袋に入れて持ち帰り、20～23℃の部屋に静置した後、チャバネアオカメムシ成虫を計数した。

越冬世代成虫の発生状況

- ① 初誘殺は、3地点とも4月1～4半旬の間に認められ、少なかった。
- ② 誘殺数は、3地点とも平年並であった（図1）。

新世代虫の発生状況

- ① 主な餌となるスギ・ヒノキ毬果の着果量は地域間差が大きいですが、8月中旬以降のフェロモントラップへの誘殺数は、宇佐市、国東市、津久見市は平年並に推移した（図1）。
- ② 新世代幼虫及び成虫によるヒノキ毬果の口針鞘は、7月下旬の調査結果では日田市（0.2）、宇佐市（0.0）であった。
7月下旬の口針鞘数から飛来予測時期を計算した結果、日田市は9月10日、宇佐市は9月11日であった（表1）。

新世代虫の越冬状況

- ① 2026年1月に行ったチャバネアオカメムシ成虫の越冬量調査では、平年よりも多く確認された（図2）。

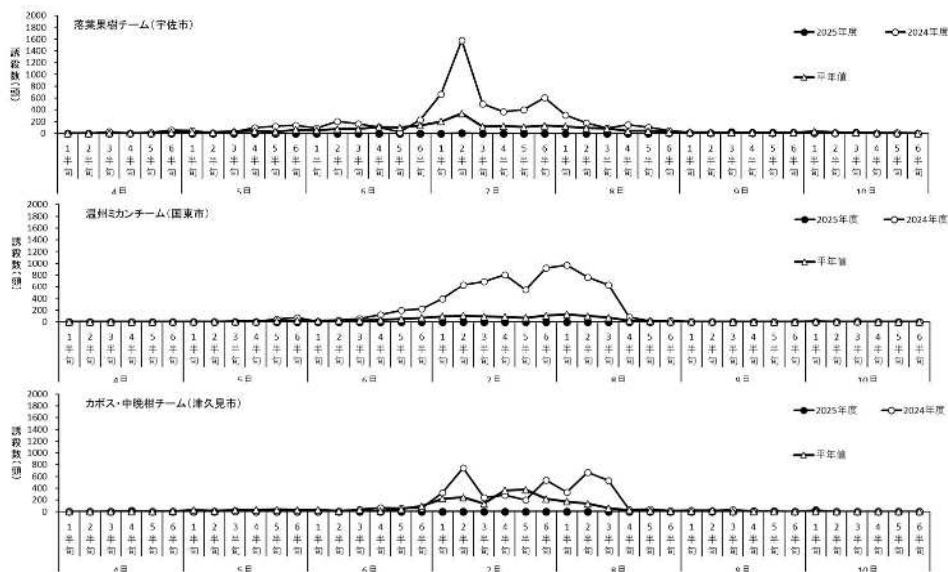


図1 果樹カメムシ類の誘殺状況(2025年度)

表1 ヒノキ毬果の口針鞅数の推移

調査地点	7月下旬	8月下旬	発生予測日 (7月下旬)
日田市三和	0.2	0.6	9月10日
宇佐市北宇佐	0	9.6	9月11日

※日田市7月16日及び8月18日調査、宇佐市7月22日及び8月22日調査

※園地飛来日の予測式

$$y = 54.17 - 3.776x + 0.01937x^2$$

(y : 7月下旬からの日数、 x : 7月下旬の口針鞅数)

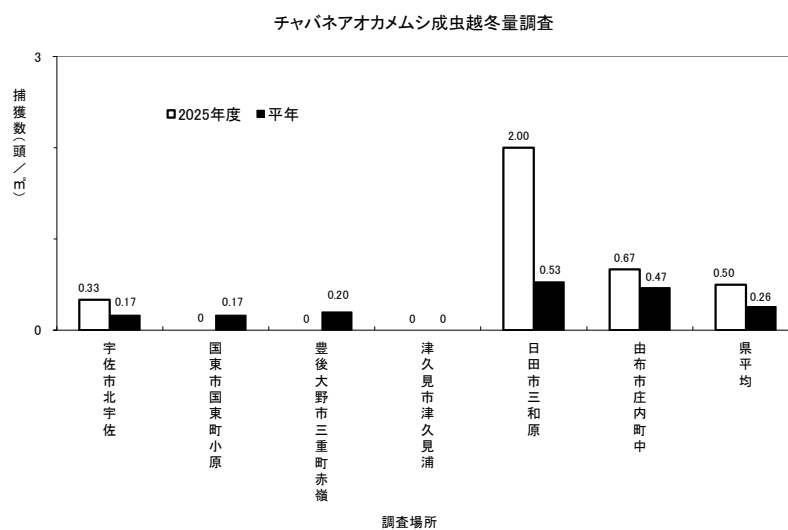


図2 果樹カメムシ類越冬量調査結果(2026年1月調査)

オ 茶

(ア) 主要病害虫の発生状況調査

a 目的

茶の主要病害虫に対する発生状況調査を行い、現地での効率的な防除が可能となるように防除情報を発信する。

b 調査方法

(a) 調査場所 大分県農林水産研究指導センター内（豊後大野市）茶栽培圃場

(b) 対象病害虫

【害虫】 チャノホソガ、チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、チャトゲコナジラミ

(c) 調査方法

【害虫】 昨年度から無防除園にて害虫の発生活消長を調査した。

フェロモントラップ誘殺数調査

センター内の茶栽培圃場に粘着式フェロモントラップを各1基設置し、3～11月の半旬ごとに誘殺されたチョウ目害虫を種別に調査した。ルアーは1ヶ月毎に交換し、粘着シートは誘殺数に応じて交換した。

黄色粘着トラップ誘殺数調査

センター内の茶栽培圃場に黄色粘着トラップを1基設置し、3～11月の半旬ごとに誘殺されたチャトゲコナジラミを調査した。粘着板は計数時に毎回交換した。

c 結果及び考察

【害虫】

(a) チャノホソガは、3月6半旬に19頭と越冬世代の誘殺数が少なかった。また、夏季から10月中旬にかけて気温が平年より高く、日中の気温が発育停止温度の30℃を超える日が多かったため、8～9月の発生数の増加が平年より抑えられた。10月3半旬に573頭と年間で最も多い発生となったが、10月下旬の秋整枝による秋芽の切り落とし及び気温の低下により、その後の発生数は減少した（図1）。

(b) チャノコカクモンハマキは、越冬世代の成虫が4月下旬に発生し、6月5半旬に176頭と平年より発生量が増加した。ただし、その後の発生量は少な目で推移し、圃場での巻葉数がほとんど確認されなかったことから、越冬する幼虫数が少なくなると推測される（図2）。

(c) チャハマキは、昨年11月1半旬の発生数が45頭と多かったことから、越冬数の増加が予想されていた。越冬世代の成虫が4月に確認され、4月5半旬の64頭が年間で最も多い発生となった。その後の発生は概ね平年並みで推移し、11月2半旬に55頭と2番目に多いピークとなった（図3）。

(d) チャトゲコナジラミは、越冬世代の成虫が、4月6半旬に292頭と年間で最も多く、平年と同様に一番茶摘採期にピークとなった。その後は生育ステージのばらつきにより誘殺数は減少したが、第1世代から第4世代まではほぼ平年並みの発生が確認された（図4）。

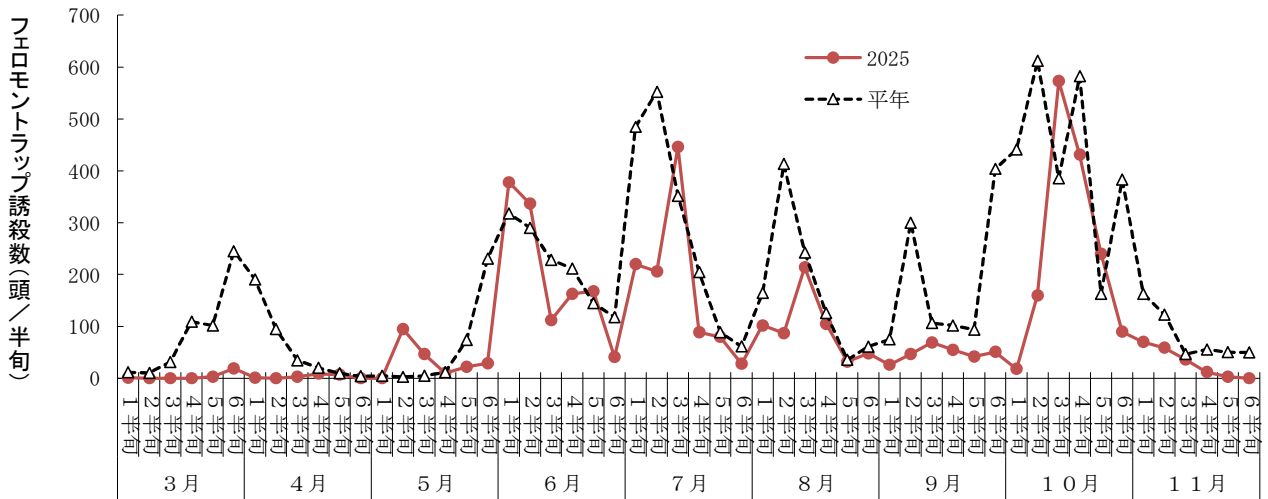


図1 チャノホソガの発生消長

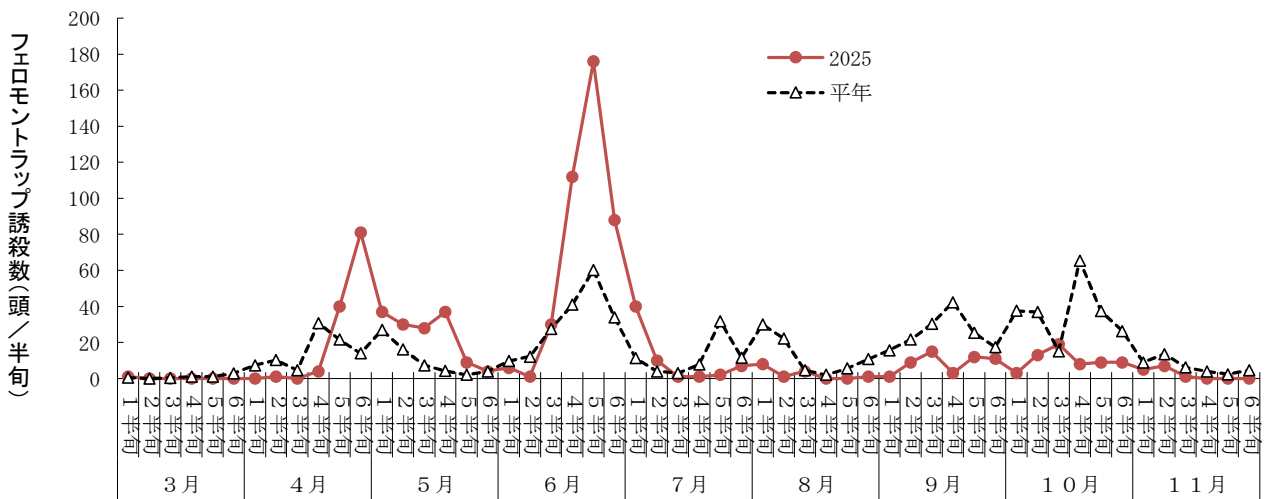


図2 チャノコカクモンハマキの発生消長

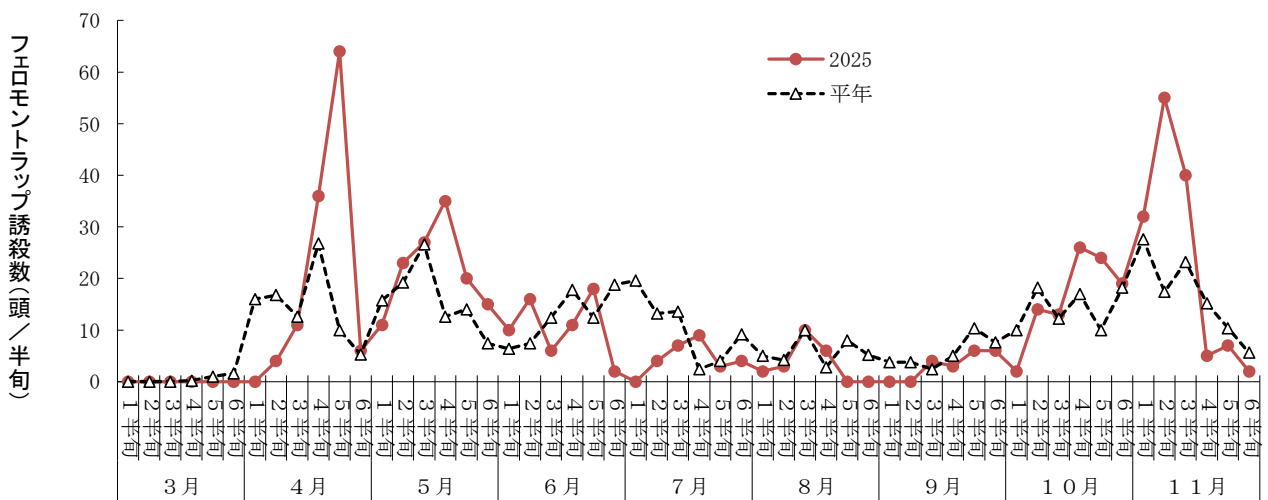


図3 チャハマキの発生消長

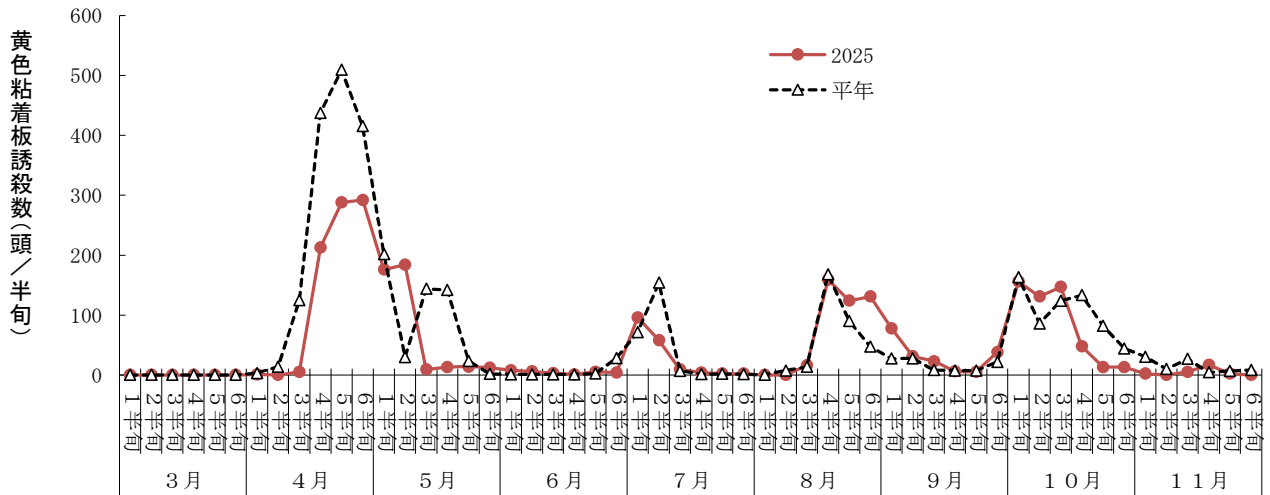


図4 チャトゲコナジラミの発生消長

3 侵入調査事業

植物防疫事業実施要綱に基づく侵入調査の対象となる有害動物又は有害植物の内 26 種について侵入調査を実施した。対象有害動植物及び対象作物は下表のとおり。

No.	対象有害動植物	対象作物	No.	対象有害動植物	対象作物
1	ミカンコミバエ種群	カンキツ、 果菜類（うり類）	14	トマトキバガ	トマト
2	ウリミバエ		15	<i>Meloidogyne enterolobii</i>	
3	セグロウリミバエ		16	<i>Columnnea latent viroid</i>	
4	クインスランドミバエ		17	Pepper chat fruit viroid	
5	チチュウカイミバエ		18	トマト退緑萎縮ウイルス	
6	アリモドキゾウムシ	カンショ	19	Tomato apical stunt viroid	
7	火傷病菌	なし	20	Pepino mosaic virus	
8	カンキツネモグリセンチュウ	かんきつ	21	Tomato brown rugose fruit virus	
9	カンキツグリーンニング病菌		22	Tomato mottle mosaic virus	
10	<i>Spiroplasma citri</i>		23	Tomato leaf curl New Delhi virus	
11	<i>Xylella fastidiosa</i>		24	バナナネモグリセンチュウ	
12	イネミイラ穂病菌等その他国内未発生 のイネの病害	いね	25	コロンビアネコブセンチュウ	
13	ウメ輪紋ウイルス	うめ	26	ジャガイモやせいもウイルス	

(1) ミカンコミバエ種群、ウリミバエ、セグロウリミバエ、クインスランドミバエ、チチュウカイミバエ

ア 調査方法及日調査時期

調査はスタイナー型トラップにより、誘引剤としてユーゲルア D8（ミカンコミバエ種群、ウリミバエ、セグロウリミバエ、クインスランドミバエ対象）、メドフライコール（チチュウカイミバエ対象）を使用して誘殺状況を調査した。調査は令和 7 年 4～12 月まで毎月 2 回実施し、誘引剤は毎月 1 回取り替えた。

イ 調査場所及び調査結果

下表の 10 地点で調査した結果、対象害虫は調査期間を通じて誘殺されなかった。

対象作物	設置区分	No.	調 査 場 所	調査期間の累計誘殺数（頭）				
				ミカンコミバエ	ウリミバエ	セグロウリミバエ	クインスランドミバエ	チチュウカイミバエ
柑 橘	試験場	1	果樹グループ落葉果樹チーム（宇佐市北宇佐）	0	0	0	0	0
		2	果樹グループ温州ミカンチーム（国東市国東町小原）	0	0	0	0	0
	集出荷場	3	JAおおいた杵築柑橘選果場（杵築市杵築）	0	0	0	0	0
		4	JAべっぴん日出柑橘選果場（日出町日出）	0	0	0	0	0
		5	JAおおいた柑橘選果場（大分市津守）	0	0	0	0	0
共 通	市庁舎	6	佐伯市上浦振興局（佐伯市上浦津井浦）	0	0	0	0	0
		7	佐伯市米水津振興局（佐伯市米水津浦代浦）	0	0	0	0	0
		8	佐伯市蒲江振興局（佐伯市蒲江元猿）	0	0	0	0	0
	県庁舎	9	大分県豊肥振興局（竹田市竹田）	0	0	0	0	0
		10	大分県西部振興局（日田市城町）	0	0	0	0	0

(2) アリモドキゾウムシ

ア 調査方法及び調査時期

粘着板の簡易トラップに誘引剤としてアリモドキラアールII を使用して誘殺状況を調査した。

令和 7 年 9～11 月に毎月 1 回調査し、誘引剤は調査時に取り替えた。

イ 調査場所及び調査結果

下表の2地点で調査した結果、対象害虫は調査期間を通じて誘殺されなかった。

対象作物	設置区分	No.	調査場所	調査期間の累計確認数(頭)
				アリモドクゾウムシ
カンショ	集出荷場	1	JAおおいた大野野菜集荷場(豊後大野市大野町)	0
		2	JAおおいた野津野菜集荷場(臼杵市野津町)	0

(3) 火傷病菌

巡回調査時に調査圃場において、目視による調査を実施した。

ア 調査品目、調査場所及び調査時期

ナシ(品種:豊水)を対象として新梢伸長期及び果実肥大期にあたる5, 7, 8月に調査を実施した。

調査場所は以下のとおり。

火傷病菌

No.	調査場所	No.	調査場所
1	中津市是則	5	日田市美濃
2	日田市東有田	6	玖珠郡九重町恵良
3	日田市東有田	7	由布市庄内町小松台
4	日田市美濃	8	由布市庄内町小松台

イ 調査結果

発生は確認されなかった。

(4) カンキツネモグリセンチュウ、カンキツグリーニング病、*Spiroplasma citri*、*Xylella fastidiosa*

巡回調査時に調査圃場において、目視による調査を実施した。

ア 調査品目、調査場所及び調査時期

温州ミカンの春・夏・秋芽の各伸長期に当たる4, 6, 8月に調査を実施した。

調査場所は以下のとおり。

No.	調査場所	No.	調査場所
1	杵築市茅場	6	津久見市平岩
2	杵築市日野	7	佐伯市海崎
3	速見郡日出町川崎	8	佐伯市米水津色利浦
4	大分市大在	9	宇佐市宇佐
5	津久見市平岩	10	宇佐市和間

イ 調査結果

発生は確認されなかった。

(5) イネミイラ穂病菌等その他国内未発生のイネの病害

ア 調査場所、調査方法、調査時期、調査結果等

7～9月の巡回調査時に調査圃場にて目視による調査を実施した。

調査場所は下表のとおり。

No.	調査場所
1	竹田市倉木
2	宇佐市下矢部

イ 調査結果

発生は確認されなかった。

(6) ウメ輪紋ウイルス

ア 調査場所、調査時期及び調査方法

日田市に調査園を設定し（ウメ1園地）、令和7年5月19日に調査対象植物の目視調査を行った。また、1園あたり5樹から5葉ずつ葉を採取し、門司植物防疫所に送付して、イムノクロマト法による検定を依頼した。

イ 調査結果

下表のとおり調査した結果、疑義症状は認められなかった。門司植物防疫所の検定結果は全て陰性であった。

対象作物	設置区分	No.	調査場所	品種	症状	イムノクロマト法 検定結果
ウメ	栽培地	1	日田市大山町西大山	南高	無	(-)

(7) トマトキバガ

令和7年1月から12月まで、フェロモントラップで合計53,442頭のトマトキバガが誘殺された。トマト及びミニトマトの栽培施設でトマトキバガによる被害が確認されたほか、野外においてナス科のイヌホオズキ類（恐らく、テリミノイヌホオズキ）で本種の寄生が確認された。

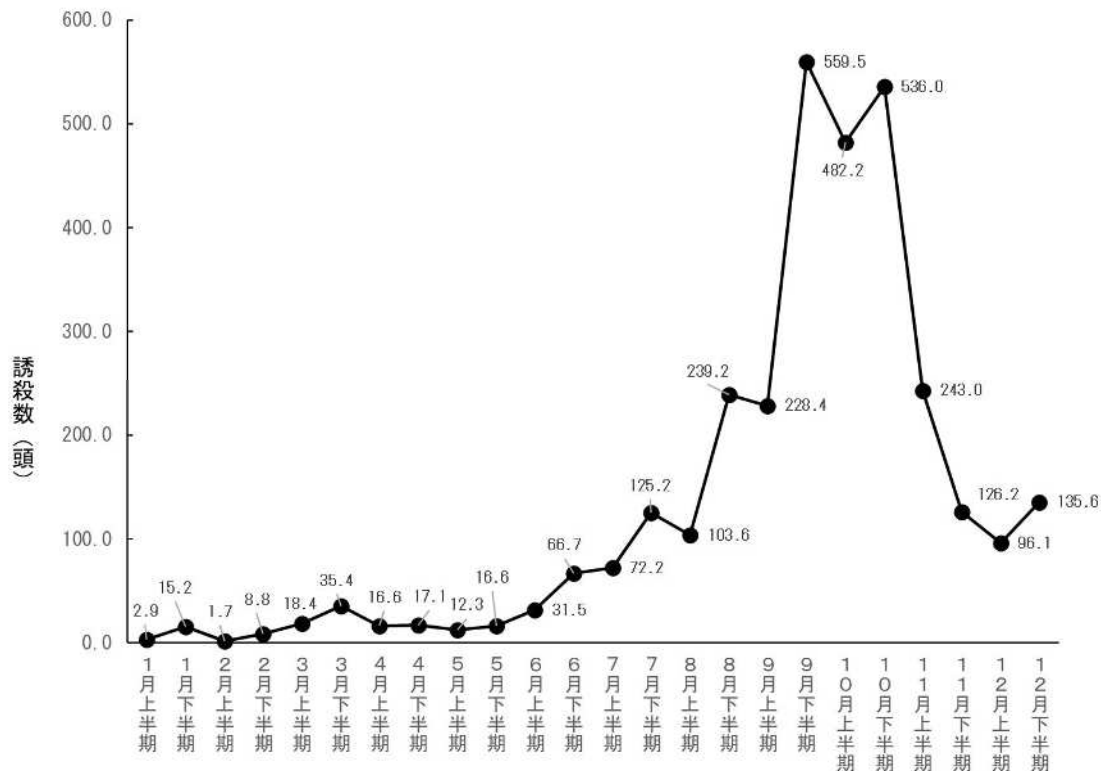
ア フェロモントラップによる調査方法

トマトキバガのフェロモンルアーを誘引剤として、ジャクソン型トラップをトマト栽培圃場周辺に一つ設置し、県内17～18か所において令和7年1月以降1か月に2回の間隔で誘殺状況を調査した。

イ フェロモントラップの設置場所、調査期間、誘殺数

対象作物	No.	設置場所	設置区分	調査期間	誘殺数（本年）	備 考
夏秋トマト	1	豊後大野市三重町	試験場	令和7年1～12月	2,945	県農林水産研究指導センター
	2	竹田市萩町①	育苗センター	令和7年1～12月	2,378	JAおおいた
	3	竹田市萩町②	栽培施設	令和7年1～12月	3,426	
	4	竹田市萩町③	栽培施設	令和7年1～12月	2,451	
	5	竹田市萩町④	栽培施設	令和7年1～12月	1,727	
	6	竹田市萩町⑤	栽培施設	令和7年1～12月	4,383	
	7	竹田市萩町⑥	栽培施設	令和7年1～12月	3,890	
	8	竹田市萩町⑦	栽培施設	令和7年1～12月	3,923	
	9	竹田市萩町⑧	栽培施設	令和7年1～12月	2,858	
	10	玖珠郡九重町①	栽培施設	令和7年1～12月	7,041	
	11	玖珠郡九重町②	栽培施設	令和7年1～12月	3,430	
	12	玖珠郡九重町④	栽培施設	令和7年4～8月上半期	1,123	
	13	玖珠郡九重町⑤	栽培施設	令和7年1～12月	3,039	
	14	玖珠郡九重町⑥	栽培施設	令和7年1～12月	1,602	
	15	玖珠郡玖珠町①	栽培施設	令和7年1～12月	2,968	
	16	玖珠郡玖珠町②	栽培施設	令和7年1～12月	4,582	
	17	国東市武蔵町	栽培施設	令和7年1～12月	320	
冬春トマト	18	白杵市	栽培施設	令和7年1～12月	1,356	

※誘殺数は「1」～「11」、「13」～「18」は令和7年1～12月、「12」は令和7年1～8月上半期の調査結果の総数。



令和7年トマトキバガのフェロモントラップにおける半月別平均誘殺数の推移

ウ 圃場調査結果

トマト、ミニトマトの夏秋栽培施設では、葉の被害が4月から、果実の被害が7月から継続的に確認された。

(8) トマトにおけるトマトキバガ以外の侵入調査対象種

ア 調査対象有害動植物及び調査場所及び調査時期

トマトにおけるトマトキバガ以外の侵入調査対象種は12種で、いずれも巡回調査圃場10か所の調査圃場において、4～11月に目視による調査を実施した。

No.	調査場所	No.	調査場所
1	竹田市荻町恵良原①	6	竹田市久住町白丹①
2	竹田市荻町恵良原②	7	竹田市久住町白丹②
3	竹田市荻町藤渡	8	玖珠郡九重町栗原①
4	竹田市荻町高練木	9	玖珠郡九重町栗原②
5	竹田市荻町政所	10	玖珠郡九重町栗原③

イ 調査結果

発生は確認されなかった。

IV 参考資料

1 令和7年気象概況

(1) 月別気象概況（大分地方気象台観測）

1月

天気は、気圧の谷、湿った空気や寒気の影響で曇りや雨となり、雪やみぞれの日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。気温は、平年並か、平年より低かった。降水量は、平年より少ないか、かなり少なかった。日照時間は、大分、院内で平年より多く、他はかなり多かった。

2月

天気は、上旬は寒気の影響を受ける日が多く、中旬以降も雪が降る日があったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。気温は、院内、犬飼、宇目で平年より低く、他はかなり低かった（低温）。降水量は、平年並か、平年より少なかった。日照時間は、国見、玖珠で平年並、他は平年より多いか、かなり多かった。

3月

天気は、上旬、中旬は低気圧や前線、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、みぞれが降る日もあったが、下旬は高気圧に覆われて晴れる日が多かった。26日は宇目で最高気温 30.3℃を観測、大分県で3月にはじめて真夏日となった。気温は、平年より高いか、かなり高かった。降水量は、蒲江で平年より少なく、他は平年並か、多かった。日照時間は、院内、竹田で平年並、他は平年より少なかった。

4月

天気は、低気圧や前線、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨となる日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。気温は、豊後高田、大分で平年より高く、他は平年並だった。降水量は、平年より少ないか、かなり少なかった（少雨）。日照時間は、豊後高田、玖珠、湯布院で平年並、他は平年より多かった。

5月

天気は、前半は高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、後半は低気圧や前線、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、大雨となった日もあった。気温は、中津で平年よりかなり低く、他は平年並か、低かった。降水量は、杵築、竹田で平年よりかなり多く、他は多かった。日照時間は、平年並か、平年より少なかった。

6月

天気は、高気圧に覆われて晴れる日もあったが、梅雨前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、大雨となった日もあった。九州北部地方（山口県を含む）は、8日頃に梅雨入り、27日頃に梅雨明けしたと見られる。気温は、平年よりかなり高かった（高温）。降水量は、蒲江で平年よりかなり少なく、他は平年並か、少なかった。日照時間は、宇目で平年よりかなり多く、他は平年並か、多かった。

7月

天気は、高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、中旬は熱帯低気圧、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多かった。気温は、平年より高いか、かなり高かった（高温）。降水量は、宇目で平年より多く、佐伯、蒲江で平年並、他は少ないか、かなり少なかった。日照時間は、佐伯、宇目、蒲江で平年より多く、他はかなり多かった。

8月

天気は、高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、前半は前線や湿った空気の影響で曇りや雨となる日があり、大雨となった日もあった。10日は大分県西部に線状降水帯が発生した。後半は湿った空気や日射の影響で局地的に雨となる日があり、雷を伴う日が多かった。気温は、玖珠で平年並、豊後高田、宇目で平年よりかなり高く、他は高かった。降水量は、佐伯、宇目、蒲江で平年より少なく、日田、玖珠でかなり多く、他は平年並か、多かった。日照時間は、平年並か、平年より多かった。

9月

天気は、上旬は台風第15号の影響で大雨となる日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。中旬以降は、前線、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、中旬は雷を伴う日が多かった。気温は、平年よりかなり高かった（高温）。降水量は、佐伯、蒲江で平年より多く、中津でかなり少なく、他は平年並か、少なかった。日照時間は、佐伯、宇目、蒲江で平年より多く、他は平年並だった。

10月

天気は、上旬は高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、中旬以降は前線、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の降る日が多かった。気温は、平年よりかなり高かった（高温）。降水量は、豊後高田で平年より多く、国見、耶馬溪、杵築で平年並、他は少なかった。日照時間は、平年並か、平年より少なかった。

11月

天気は、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨となる日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。気温は、国見、大分で平年より高く、玖珠で低く、他は平年並だった。降水量は、武蔵で平年より少なく、他はかなり少なかった（少雨）。日照時間は、平年より多いか、かなり多かった。

19日に由布岳の初冠雪を観測した。平年（11月29日）より10日早く、昨年（11月28日）より9日早かった。

12月

天気は、気圧の谷、湿った空気や寒気の影響で曇りや雨となる日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。気温は、平年並か、平年より高かった。降水量は、豊後高田、佐伯、蒲江で平年並、他は平年より少なかった。日照時間は、蒲江で平年並、他は平年より多いか、かなり多かった。

(2) 大分地方気象台における気象表

観測地点：大分市長浜町

平年値：1991～2020年

月	旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		相対湿度 (%)		降水量 (mm)		日照時間 (h)	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	上	5.9	7.0	13.7	11.4	-1.3	2.8	60.0	62.0	13.5	10.1	53.4	51.6
	中	5.8	6.6	14.8	10.6	-1.9	2.7	65.0	63.0	1.5	20.0	49.9	45.6
	下	7.4	6.1	15.1	10.3	-0.8	2.2	61.0	63.0	0.5	19.7	72.3	52.3
	月間	6.4	6.6	14.5	10.8	-1.3	2.6	62.0	62.7	15.5	49.8	175.6	149.5
2	上	4.1	6.4	12.5	10.7	-2.8	2.3	62.0	62.0	48.0	14.5	52.6	54.0
	中	6.8	7.2	16.1	11.5	-0.9	3.0	58.0	63.0	4.5	26.9	66.8	51.3
	下	6.5	8.2	15.9	12.6	-2.4	4.0	57.0	65.0	1.0	22.7	59.7	43.8
	月間	5.8	7.3	14.8	11.6	-2.0	3.1	59.0	63.3	53.5	64.1	179.1	149.1
3	上	9.3	9.0	20.8	13.4	1.4	4.9	78.0	64.0	42.5	33.2	36.6	55.1
	中	9.3	10.1	16.9	14.8	1.4	5.6	70.0	65.0	40.0	28.9	41.7	56.5
	下	15.7	11.3	28.2	15.7	2.2	7.1	54.0	65.0	20.0	37.2	80.0	63.3
	月間	11.4	10.1	22.0	14.6	1.7	5.9	67.3	194.0	102.5	99.3	158.3	174.9
4	上	13.3	13.2	26.5	18.0	3.9	8.7	62.0	65.0	18.0	38.1	75.9	61.5
	中	16.0	14.9	25.7	19.7	7.0	10.4	70.0	65.0	12.5	36.4	74.7	63.7
	下	16.8	16.3	24.3	21.3	7.1	11.7	71.0	66.0	20.0	45.2	71.7	64.9
	月間	15.4	14.8	25.5	19.7	6.0	10.3	67.7	65.3	50.5	119.7	222.3	190.1
5	上	17.7	18.4	27.5	23.2	9.1	13.9	67.0	68.0	89.5	38.7	77.7	63.2
	中	20.0	19.2	29.7	24.0	12.7	14.8	78.0	67.0	15.5	50.4	58.3	63.9
	下	19.6	20.4	26.2	25.0	11.9	16.1	77.0	69.0	103.5	44.4	49.7	67.4
	月間	19.1	19.3	27.8	24.1	11.2	14.9	74.0	68.0	208.5	133.5	185.7	194.5
6	上	21.3	21.4	29.2	25.7	14.3	17.7	72.0	73.0	109.5	53.6	45.1	54.8
	中	24.8	22.6	34.8	26.6	18.0	19.4	82.0	77.0	102.5	114.7	50.5	47.4
	下	26.9	23.7	34.9	27.4	22.7	20.9	84.0	81.0	83.5	145.3	59.4	33.6
	月間	24.3	22.6	33.0	26.6	18.3	19.3	79.3	77.0	295.5	313.6	155.0	135.8
7	上	29.8	25.5	35.3	29.4	25.2	22.5	73.0	80.0	0.0	140.2	101.0	46.0
	中	28.2	26.8	35.7	31.0	21.9	23.6	77.0	77.0	43.0	70.3	55.9	57.2
	下	28.9	27.9	35.3	32.3	22.7	24.5	71.0	75.0	7.5	50.8	116.5	77.5
	月間	29.0	26.7	35.4	30.9	23.3	23.5	73.7	77.3	50.5	261.3	273.4	180.7
8	上	29.3	28.2	37.6	32.8	24.6	24.7	74.0	74.0	119.5	63.9	63.4	70.5
	中	28.7	27.9	35.3	32.4	24.6	24.6	80.0	75.0	34.5	50.1	80.3	64.8
	下	28.8	27.1	35.2	31.5	24.2	23.7	78.0	75.0	46.0	51.6	89.1	67.6
	月間	28.9	27.7	36.0	32.2	24.5	24.3	77.3	74.7	200.0	165.6	232.8	202.9
9	上	28.6	25.9	35.1	30.1	24.5	22.5	79.0	75.0	111.5	72.6	82.0	54.7
	中	27.8	24.4	33.9	28.4	23.0	21.0	80.0	74.0	10.0	106.6	50.8	51.6
	下	25.2	22.5	30.6	26.2	19.6	19.1	82.0	74.0	38.5	76.1	29.5	45.3
	月間	27.2	24.3	33.2	28.2	22.4	20.9	80.3	74.3	160.0	255.3	162.3	151.6
10	上	24.5	21.1	31.7	25.1	18.6	17.4	77.0	72.0	8.0	43.1	60.6	51.1
	中	24.4	19.2	31.0	23.6	19.4	15.2	79.0	70.0	7.5	57.7	48.8	55.3
	下	18.0	17.3	25.5	21.6	9.8	13.3	71.0	69.0	29.0	44.1	39.2	57.8
	月間	22.3	19.2	29.4	23.4	15.9	15.3	75.7	70.3	44.5	144.9	148.6	164.2
11	上	16.7	15.7	24.1	20.1	10.5	11.4	70.0	70.0	3.5	26.0	52.2	52.1
	中	13.6	13.8	20.8	18.1	5.9	9.6	70.0	68.0	4.0	28.7	50.6	48.8
	下	12.6	11.9	22.2	16.3	4.8	7.6	65.0	68.0	0.0	18.3	80.5	47.2
	月間	14.3	13.8	22.4	18.2	7.1	9.5	68.3	68.7	7.5	73.0	183.3	148.1
12	上	10.3	9.9	21.4	14.3	0.4	5.8	64.0	66.0	0.0	20.0	67.9	48.5
	中	10.4	8.4	18.7	12.7	1.6	4.3	73.0	64.0	17.0	11.9	47.7	47.2
	下	9.1	7.8	16.6	12.2	-0.1	3.7	67.0	63.0	1.5	15.2	60.3	55.4
	月間	9.9	8.7	18.9	13.1	0.6	4.6	68.0	64.3	18.5	47.1	175.9	151.1

備考) 月間の数値は気温・湿度については平均値、降水量・日照時間については積算値

(3) 農業研究部における半月別気象表

観測地点：大分県豊後大野市三重町

平年値：1995～2024年

月	半月	平均気温 (°C)			最高気温 (°C)			最低気温 (°C)			相対湿度 (%)			降水量 (mm)			日照時間 (h)		
		本年	平年	較差	本年	平年	較差	本年	平年	較差	本年	平年	較差	本年	平年	比	本年	平年	比
1	1	3.3	4.4	-1.1	11.7	11.3	0.4	-3.8	-1.5	-2.3	68.6	70.6	-2.0	0.0	4.3	0.0	36.0	27.8	129.6
	2	3.9	4.3	-0.4	8.8	11.0	-2.2	-0.4	-1.6	1.2	63.8	70.4	-6.6	11.0	6.1	179.1	24.7	26.9	91.8
	3	2.7	4.3	-1.6	9.1	10.8	-1.7	-3.7	-1.4	-2.3	69.8	71.2	-1.4	4.5	8.7	51.8	25.6	25.1	102.2
	4	3.6	4.3	-0.7	11.9	10.5	1.4	-3.6	-1.3	-2.3	76.4	72.4	4.0	0.0	10.0	0.0	35	23.5	148.8
	5	5.8	4.1	1.7	13.9	10.3	3.6	-0.9	-1.4	0.5	75.5	72.0	3.5	0.0	10.1	0.0	33.6	23.8	141.1
	6	4.0	4.1	-0.1	9.9	10.5	-0.6	-1.5	-1.5	0.0	64.8	71.0	-6.2	1.0	11.4	8.8	42.9	30.8	139.5
	月間	3.9	4.3	-0.4	10.9	10.7	0.1	-2.3	-1.5	-0.9	69.8	71.3	-1.5	16.5	50.6	32.6	197.8	157.8	125.3
2	1	3.4	4.3	-0.9	7.5	10.8	-3.3	-0.4	-1.5	1.1	74.6	71.2	3.4	39.5	9.0	439.8	20.9	27.0	77.5
	2	0.6	4.7	-4.1	7.0	11.4	-4.4	-6.2	-1.2	-5.0	59.9	71.8	-11.9	0.0	9.8	0.0	39.3	27.1	145.0
	3	4.5	5.3	-0.8	12.1	11.9	0.2	-3.6	-0.7	-2.9	69.5	72.2	-2.7	0.0	11.6	0.0	29.0	26.5	109.2
	4	5.2	5.8	-0.6	11.6	12.4	-0.8	-1.2	-0.2	-1.0	58.2	72.9	-14.7	1.5	13.1	11.4	38.2	26.3	145.4
	5	2.1	6.5	-4.4	10.4	13.0	-2.6	-6.0	0.4	-6.4	57.7	73.9	-16.2	0.0	14.5	0.0	40.7	25.9	157.2
	6	9.1	7.0	2.1	17.5	13.4	4.1	3.0	0.9	2.1	65.5	74.4	-8.9	1.0	9.3	10.8	20.7	15.2	135.8
	月間	4.2	5.6	-1.4	11.0	12.1	-1.1	-2.4	-0.4	-2.0	64.2	72.7	-8.5	42.0	67.3	62.4	188.8	148.0	127.5
3	1	11.3	7.3	4.0	17.6	13.8	0.8	7.1	1.2	5.9	89.4	73.6	15.8	43.0	15.4	279.0	12.9	26.1	49.4
	2	5.9	7.8	-1.9	12.4	14.5	0.8	-0.2	1.4	-1.6	69.8	71.7	-1.9	1.0	14.2	7.0	24.0	28.4	84.4
	3	9.9	8.6	1.3	14.3	15.6	1.0	5.5	1.9	3.6	82.6	71.1	11.5	28.5	13.8	206.0	11.3	29.7	38.0
	4	5.5	9.4	-3.9	12.1	16.4	0.6	0.6	2.7	-2.1	68.6	71.9	-3.3	14.5	15.0	96.5	25.4	28.9	88.0
	5	16.1	10.0	6.1	23.3	16.9	3.5	8.6	3.5	5.1	52.5	72.2	-19.7	0.0	15.5	0.0	46.9	28.1	167.0
	6	12.4	10.8	1.6	18.3	17.7	4.7	6.8	4.3	2.5	65.4	71.6	-6.2	29.0	17.5	165.6	31.8	34.6	92.0
	月間	10.2	9.0	1.2	16.3	15.8	0.5	4.7	2.5	2.3	71.4	72.0	-0.6	116.0	91.5	126.7	152.3	175.8	86.6
4	1	8.3	11.8	-3.5	15.2	18.9	-3.7	1.4	5.1	-3.7	75.4	71.3	4.1	10.0	14.7	68.2	23.9	29.7	80.4
	2	14.8	12.8	2.0	23.1	19.8	3.3	6.5	6.0	0.5	61.4	71.5	-10.1	5.0	15.9	31.4	43.7	30.2	144.5
	3	12.8	13.6	-0.8	18.6	20.5	-1.9	6.0	6.9	-0.9	67.6	71.9	-4.3	14.5	17.0	85.3	33.9	30.4	111.5
	4	18.7	14.4	4.3	25.7	21.2	4.5	12.0	7.8	4.2	68.2	72.5	-4.3	1.0	17.6	5.7	35.3	30.2	116.7
	5	17.4	15.1	2.3	22.4	21.8	0.6	11.4	8.5	2.9	80.6	72.8	7.8	7.5	18.1	41.5	21.2	30.3	70.0
	6	15.0	15.9	-0.9	23.4	22.7	0.7	6.0	9.3	-3.3	64.6	73.0	-8.4	9.0	17.9	50.4	47.7	30.6	155.8
	月間	14.5	13.9	0.6	21.4	20.8	0.6	7.2	7.3	-0.0	69.6	72.2	-2.5	47.0	101.1	46.5	205.7	181.5	113.3
5	1	16.9	16.9	-0.0	24.8	23.7	1.1	7.6	10.4	-2.8	61.7	73.5	-11.8	9.5	17.6	54.0	44.5	30.4	146.5
	2	16.7	17.7	-1.0	21.8	24.4	-2.6	12.3	11.3	1.0	79.2	74.0	5.2	79.0	19.7	400.6	27.4	29.6	92.6
	3	17.9	18.1	-0.2	25.2	24.8	0.4	10.8	11.8	-1.0	70.8	74.1	-3.3	2.0	23.2	8.6	38.9	29.0	134.3
	4	21.8	18.6	3.2	27.5	25.3	2.2	17.0	12.4	4.6	81.9	74.2	7.7	6.5	23.3	27.9	13.7	28.8	47.6
	5	20.3	19.2	1.1	24.0	25.8	-1.8	16.9	13.1	3.8	88.4	74.5	13.9	84.0	22.9	367.4	9.6	28.4	33.9
	6	17.6	19.8	-2.2	23.3	26.1	-2.8	11.9	14.0	-2.1	77.2	75.7	1.5	8.0	32.3	24.8	26.1	31.9	81.7
	月間	18.5	18.4	0.1	24.4	25.0	-0.6	12.8	12.1	0.6	76.5	74.3	2.2	189.0	138.9	136.0	160.2	178.0	90.0
6	1	20.0	20.2	-0.2	26.1	26.2	-0.1	14.3	14.8	-0.5	67.9	78.1	-10.2	8.0	30.6	26.1	35.3	24.2	146.1
	2	20.8	20.7	0.1	25.0	26.4	-1.4	17.2	15.8	1.4	86.3	80.5	5.8	89.5	33.6	266.2	8.3	21.5	38.6
	3	23.1	21.3	1.8	27.3	26.8	0.5	20.4	16.8	3.6	90.8	82.0	8.8	71.0	41.7	170.3	7.2	19.7	36.6
	4	27.0	22.1	4.9	33.3	27.3	6.0	21.0	17.9	3.1	69.9	83.1	-13.2	0.5	55.1	0.9	37.6	18.4	204.3
	5	25.9	22.9	3.0	31.0	27.9	3.1	22.9	18.9	4.0	87.1	84.1	3.0	53.5	64.3	83.2	11.3	16.8	67.4
	6	27.4	23.7	3.7	33.2	28.7	4.5	22.3	19.9	2.4	79.2	84.2	-5.0	0.0	65.4	0.0	45.8	16.5	278.0
	月間	24.0	21.8	2.2	29.3	27.2	2.1	19.7	17.4	2.3	80.2	82.0	-1.8	222.5	290.8	76.5	145.5	117.0	124.4

備考) 月間の数値は気温・湿度については平均値、降水量・日照時間については積算値

月	半旬	平均気温 (°C)			最高気温 (°C)			最低気温 (°C)			相対湿度 (%)			降水量 (mm)			日照時間 (h)		
		本年	平年	較差	本年	平年	較差	本年	平年	較差	本年	平年	較差	本年	平年	比	本年	平年	比
7	1	28.8	24.5	4.3	34.8	29.5	5.3	23.7	20.7	3.0	115.4	84.7	83.5	0.0	65.3	0.0	37.4	18.1	206.3
	2	28.7	25.1	3.6	34.6	30.2	4.4	23.6	21.2	2.4	112.2	83.9	82.9	2.5	61.9	4.0	42.6	20.3	209.9
	3	26.2	25.5	0.7	31.0	30.8	0.2	22.8	21.5	1.3	73.2	83.2	82.0	26.0	50.8	51.2	18.1	22.9	78.9
	4	26.4	26.0	0.4	31.0	31.6	-0.6	22.2	21.8	0.4	92.1	82.6	81.0	31.5	38.9	81.0	30.6	26.5	115.5
	5	27.2	26.4	0.8	33.4	32.2	1.2	22.2	22.1	0.1	117.2	82.3	80.2	10.0	32.5	30.8	46.3	29.9	154.8
	6	26.6	26.7	-0.1	32.6	32.6	-0.0	21.4	22.3	-0.9	138.8	82.4	79.8	18.5	38.2	48.4	55.3	38.5	143.5
	月間	27.3	25.7	1.6	32.9	31.1	1.8	22.7	21.6	1.1	108.2	83.2	25.0	88.5	287.7	30.8	230.3	156.3	147.4
8	1	29.0	26.9	2.1	36.0	32.8	3.2	22.7	22.5	0.2	117.0	79.8	37.2	3.0	38.0	7.9	49.7	32.6	152.5
	2	26.4	26.9	-0.5	30.3	32.8	-2.5	23.7	22.6	1.1	48.1	79.7	-31.6	49.5	42.6	116.2	12.3	32.0	38.5
	3	27.4	26.8	0.6	33.4	32.7	0.7	23.6	22.5	1.1	88.2	79.6	8.6	55.5	39.5	140.6	31.3	31.0	100.9
	4	27.0	26.5	0.5	34.8	32.5	2.3	22.7	22.2	0.5	96.7	79.9	16.8	59.0	34.0	173.3	39.0	30.5	127.8
	5	27.3	26.1	1.2	32.8	32.1	0.7	23.8	21.8	2.0	80.7	80.3	0.4	10.5	32.9	31.9	29.4	30.2	97.3
	6	27.1	25.4	1.7	34.5	31.3	3.2	22.6	21.3	1.3	114.6	81.0	33.6	33.5	47.0	71.3	48.7	34.0	143.4
	月間	27.4	26.4	0.9	33.6	32.4	1.3	23.2	22.1	1.1	90.9	80.1	10.8	211.0	234.0	90.2	210.4	190.3	110.6
9	1	27.1	24.7	2.4	32.3	30.4	1.9	23.2	20.7	2.5	81.8	81.6	0.2	130.5	45.8	284.8	36.2	26.1	138.5
	2	27.4	24.2	3.2	33.2	29.9	3.3	22.9	20.1	2.8	87.6	81.8	5.8	16.5	49.4	33.4	40.3	25.5	158.0
	3	26.9	23.5	3.4	33	29.1	3.9	22.7	19.5	3.2	82.7	82.0	0.7	20.0	59.0	33.9	33.4	24.9	134.1
	4	26.0	22.6	3.4	32	28.1	3.9	22.3	18.5	3.8	72.1	81.9	-9.8	15.0	64.1	23.4	28.1	24.4	115.1
	5	23.4	21.6	1.8	27	27.2	-0.2	20.6	17.3	3.3	40.2	81.5	-41.3	25.0	50.5	49.5	6.7	24.4	27.4
	6	23.8	20.8	3.0	29.0	26.4	2.6	20.3	16.3	4.0	64.3	81.3	-17.0	16.0	35.8	44.7	22.9	24.6	93.3
	月間	25.8	22.9	2.8	31.1	28.5	2.6	22.0	18.7	3.3	71.5	81.7	-10.2	223.0	304.7	73.2	167.6	149.9	111.8
10	1	22.5	19.9	2.6	28.1	25.6	2.5	18.7	15.4	3.3	59.0	81.2	-22.2	2.5	30.2	8.3	23.3	24.7	94.5
	2	23.0	19.0	4.0	28.7	24.8	3.9	18.2	14.2	4.0	76.3	80.9	-4.6	0.0	25.5	0.0	36.5	25.3	144.0
	3	23.2	17.9	5.3	29.2	24.0	5.2	18.5	12.8	5.7	64.7	80.5	-15.8	0.0	24.0	0.0	29.0	27.1	107.1
	4	22.2	16.8	5.4	27.1	23.1	4.0	18.1	11.6	6.5	53.7	80.6	-26.9	2.0	27.9	7.2	20.9	27.8	75.0
	5	16.8	15.9	0.9	19.5	22.2	-2.7	14.9	10.6	4.3	22.6	80.5	-57.9	17.5	27.8	63.0	1.0	27.1	3.7
	6	14.3	14.9	-0.6	20.3	21.3	-1.0	9.1	9.5	-0.4	73.7	79.7	-6.0	27.5	23.5	117.0	39.8	32.1	123.8
	月間	20.3	17.4	2.9	25.5	23.5	2.0	16.3	12.3	3.9	58.3	80.6	-22.2	49.5	159.0	31.1	50.6	164.2	30.8
11	1	13.0	14.0	-1.0	18.7	20.6	-1.9	8.0	8.4	-0.4	43.4	79.5	-36.1	0.0	13.1	0.0	16.7	27.0	61.8
	2	15.0	13.3	1.7	21.7	19.8	0.0	8.7	7.7	1.0	61.0	79.5	-18.5	2.0	11.4	17.5	34.3	26.4	129.8
	3	11.9	12.3	-0.4	17.3	18.7	-1.4	7.4	6.7	0.7	39.8	79.0	-39.2	6.0	11.2	53.7	19.1	25.2	75.7
	4	10.0	11.0	-1.0	16.6	17.5	-0.9	3.6	5.3	-1.7	47.8	78.3	-30.5	0.0	10.8	0.0	29.1	24.8	117.4
	5	10.4	10.0	0.4	18.8	16.6	2.2	3.8	4.3	-0.5	59.4	77.9	-18.5	0.5	10.1	5.0	38.3	24.7	155.1
	6	9.3	9.2	0.1	18.5	15.8	2.7	1.5	3.4	-1.9	62.0	77.2	-15.2	0.0	9.7	0.0	41.6	24.1	172.7
	月間	11.6	11.6	-0.0	18.6	18.1	0.5	5.5	6.0	-0.5	52.2	78.5	-26.3	8.5	66.3	12.8	179.1	152.2	117.6
12	1	8.1	8.1	-0.0	14.7	14.7	0.0	2.2	2.3	-0.1	46.9	76.2	-29.3	0.0	9.3	0.0	31.4	24.0	130.6
	2	6.8	7.1	-0.3	16.4	13.7	2.7	-0.7	1.3	-2.0	60.2	75.2	-15.0	0.0	8.4	0.0	42.2	24.8	170.1
	3	7.5	6.4	1.1	13	13.0	-0.0	1.8	0.6	1.2	36.1	74.0	-37.9	15.0	7.4	201.9	19.0	25.0	76.1
	4	8.7	5.8	2.9	18.5	12.4	6.1	1.5	0.1	1.4	47.8	73.0	-25.2	0.0	6.9	0.0	28.9	24.8	116.7
	5	9.6	5.4	4.2	15.1	12.0	3.1	3.8	-0.4	4.2	29.4	72.4	-43.0	3.0	6.3	48.0	14.3	25.6	55.9
	6	4.1	4.8	-0.7	11.8	11.6	0.2	-2.3	-1.1	-1.2	66.3	71.5	-5.2	0.0	5.8	0.0	43.9	32.6	134.5
	月間	7.5	6.3	1.2	14.9	12.9	2.0	1.1	0.5	0.6	47.8	73.7	-25.9	18.0	44.2	40.8	179.7	156.8	114.6

備考) 月間の数値は気温・湿度については平均値、降水量・日照時間については積算値

2 大分県における令和6年産主要作物の栽培面積

単位：ha

水陸稲			麦類				
水稲	陸稲	計	小麦	二条大麦	六条大麦	裸麦	計
19,100	0	19,100	2,710	2,010	8	840	5,568

かんしょ	大豆	小豆	らっかせい	そば	温州みかん	日本なし	ぶどう
425	1,340	37	18	188	619	298	258

キウイフルーツ	すもも	うめ	くり	びわ	茶	トマト	なす
55	56	222	389	30	471	187	95

ピーマン	いちご	きゅうり	すいか	かぼちゃ	はくさい	キャベツ	だいこん
118	65	118	118	107	360	491	335

ブロッコリー	レタス	さやえんどう	みつば	ねぎ	たまねぎ	にら	にんにく
40	90	42	59	1,240	102	60	42

にんじん	さといも	切り花類			ソルゴー
			きく	アルストロメリア	
120	226	182	83	4	650

出典：令和6年度農林水産省作物統計（確報）

注1：水陸稲は、令和7年産確報。麦類、豆類、「日本なし」、「ぶどう」、「すもも」、「びわ」及び「うめ」は、同年産第1報。

注2：麦類計と4麦の合計は一致しない。

注3：「きく」は「輪ぎく」「小ぎく」「スプレイぎく」の合計。

注4：「かんしょ」は令和5年産確報。「いちご」、「たまねぎ」は令和4年産確報。

「茶」は令和2年産確報。

令和7年度 植物防疫事業成績書（年報）

発行年月 令和8年3月
編集・発行 大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チーム
大分県豊後大野市三重町赤嶺 2328-8
TEL (0974) 28-2078
FAX (0974) 22-0940
